

川柳塔

令和五年 十一月一日発行（毎月一日発行）
創刊大正十三年 通卷一二五八号



日川協加盟

第29回 川柳塔まつり特集・令和5年 六賞発表

No.1158

十一月号

★同人特集★

「私の一句」

■今年中に発表された句に限りま
す。
■締切 11月15日（本社事務所宛）

年賀広告募集

本誌一月号に掲載する年賀広告を募集いたします。
同人・誌友ならびに各句会（川柳会）のアピール及び
誌上名刺交換の場として、積極的にご利用をお願い申
し上げます。

★個人 一口 1／9頁 二、〇〇〇円
1／6頁 三、〇〇〇円

（巻末の台紙に原稿を貼付または記入
してお申込み下さい。）

★団体 次の四種といたします。

① 1／3頁 六、〇〇〇円
② 1／2頁 九、〇〇〇円
③ 2／3頁 一二、〇〇〇円
④ 1頁 一八、〇〇〇円

▼原稿締切 11月15日

川柳塔社

発刊ご案内

川柳塔

合同句集

刊念
創記
塔年
柳周
川百

「川柳塔」は大正十三年の「川柳雑誌」創刊か
ら数えて、令和六年で百周年を迎えます。これ
を記念して合同句集「川柳塔」を発刊致します。
合同句集は昭和四十九年以来十年ごとに刊行
し、今回は平成二十六年に続く第六集となります。
同人・誌友はもちろん、一般の方々のご参加
も歓迎致します。一人でも多くのお申し込みを
心からお願い申し上げます。 川柳塔社

☆刊行 令和六年七月一日発行

☆締切 令和六年一月三十一日（水）

☆体裁 B6判・ハードカバー・上製本

八〇〇頁（予定）

☆参加費 五千円（句集一冊呈・送料込み）

☆掲載句 一人 十五句（自選）

☆申込 所定用紙に掲載句（平成二十六年以降
の発表句、または未発表句）を記入し、

左記川柳塔事務所へお申込み下さい。
〒543-10052

☆送付先

大阪市天王寺区大道一―一四―一七

花野ビル二〇一号

川柳塔社 合同句集係 宛

TEL・FAX（〇六）六七七九―三四九〇
振替 009804-298479

（加入者名 川柳塔社）

第29回川柳塔まつり

小島 蘭 幸

同人総会を終えて会場に入ると、もうすでに多くの出席者で溢れていました。出席者は全国各地から203名、一番最後の出席者は、田中新一番傘川柳本社主幹です。午前中に大事な用件を済まされて出席して下さいました。

午後1時、新家完司川柳塔社理事長の開会の辞で第29回川柳塔まつりは始まりました。「本日は、ご出席ありがとうございます。来年川柳塔社は創立100周年を迎えます。…」力強い大きな声が会場いっぱいに響き渡ります。私の挨拶、6賞表彰、新同人紹介と開会の行事はスムーズに終えることが出来ました。

新同人を代表して、今村和男氏が力強い挨拶をされました。新しい風、期待しています。

6賞受賞の皆様おめでとうございます。この受賞を機にますますのご活躍を祈ります。

おはなしは、「フレイル予防のための食と社会参

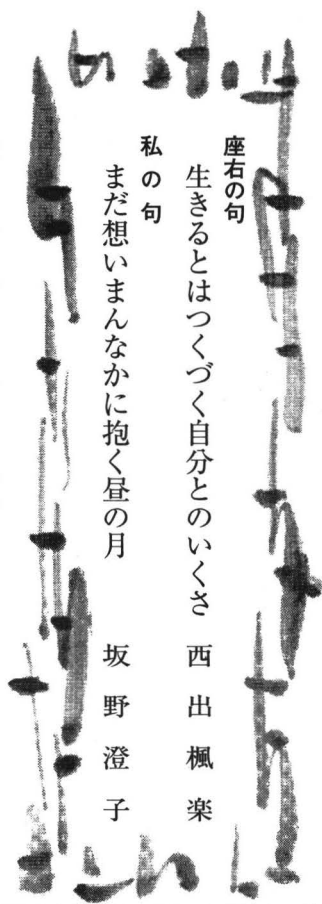
加」と題して、大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授の井尻吉信氏です。フレイル、私たちにとって今、一番興味があり、心配で重い課題なので会場が暗くなるのではと心配していましたが、その思いは井尻先生の最初の一言で吹っ飛んでいました。明るくて、表情豊かで、声のトーンが心地良いのです。

資料を用意していただいていたので、話の内容も分かりやすくとても参考になりました。BMI、私は自宅に帰ってすぐ計算をしました。その結果はムムム。そしてあの椅子ウォーキング60秒です。井尻先生のお話を聞いて私は一日一日を大切にしていつまでも各地の川柳大会に出席したいと心に誓いました。

入選句の披露のトップは、川柳塔社の若手のホープ、藤井智史からです。番傘川柳本社の片岡加代氏をはじめ5名の選者の披露を聞いていると一生懸命さがひしひしと伝わってきて久し振りに手に汗をかいていました。川柳大会って本当にいいなと思いました。

飲んで歌ってしゃべって踊って、久し振りの懇親宴は大いに盛り上がりました。

ありがとうございました。



座右の句

生きるとはつくづく自分とのいくさ 西出 楓 楽

私の句

まだ想いまんなかに抱く昼の月 坂野 澄子

川柳塔 十一月号 目次

題字・中島生々庵／表紙きり絵・前田 尋「和歌山・かつらぎ町」

■巻頭言 第29回川柳塔まつり……………小島 蘭 幸 ……(1)

平明で深く……………平井美智子 ……(2)

川柳塔(同人吟)……………小島 蘭 幸 選 ……(4)

菠薐草の花^⑪……………野 沢 省 悟 ……(35)

俳風柳多留一三篇研究 39……………吉村 侑久代 ……(38)

英語 de Senryu^⑫……………橘高薫風句集『檸檬』……………落 合 思 月 ……(43)

自選集……………川 上 大 輪 選 ……(44)

句集の森……………温故知新……………水煙抄……………(43)

令和五年度……………路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞……………(58)

檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞……………

平明で深く

平 井 美智子

川柳界も少しずつ動き出したとはいえコロナ禍の痛手は影を引き摺ったまま。代替えで行われていた誌上句会は少しずつリアル句会に移行されているが、暫く休んでしまつと句会へ出席するのが億劫になつてきた高齢者が多いと聞く。

そんな中「川柳の魅力」に覚醒したのは川柳界の外側にいた人たちのようだ。こういう時代だから「川柳で憂さを晴らしたい」と川柳への期待が寄せられるようになった気がしている。川柳を正しく理解しているかどうかは兎も角も川柳への関心は歓迎すべき変化であろう。

そこで興味を持ち続けてもらえる手だての一つが「平明で深く」ということのような気がする。最近、詩人ぶつたり、哲学者めいた川柳を目にすることがあるが、誰にでも分かるような言葉を使い、それでいて心

愛染帖

檸檬抄「裂く」

鈴木いさお・川本真理子共選

新家完司選 (66)

一路集「かりかり」

近藤 正選

(74)

初歩教室「まずい」

木見谷孝代選

(75)

川柳塔鑑賞

水野黒兎

(76)

水煙抄鑑賞

奥澤洋次郎

(78)

せんりゅう飛行船^⑤

伊塚美枝子

新家完司

(81)

インスピレーション・ナビ 印象吟

大西泰世

(82)

■句集紹介「石上がり」平井美智子著

水野黒兎・木本朱夏

(84)

第29回 川柳塔まつり

同人総会・おはなし・各賞発表・記念句会・懇親宴

(86)

各地柳壇

(佳句地十選／岸本宏章・緒方美津子)

(107)

柳界展望

十一月各地句会案内

(120)

■編集後記(ひとこと／石橋優明)

道夫・じゅん子・国和

(124)

座右の句

空を飛べ海にもぐれよペンの先

居谷 真理子

私の句

「忘れる」を贈られ老母は風になる

城戸 誓子

の奥深きものを表す川柳。誰にでも理解でき万人に伝わる川柳に出会うとほっとするのは私だけであろうか。

誌上大会の選に携わると時々、難解な漢字や専門用語を用いた句に出会うが、場合によっては独りよがりの自己満足に終わってしまう場合もある。

しかしながら一歩間違えると「平明」ではなく「単に平凡」で終わってしまうのが難しいところ。使い慣れた語は手垢のついた語となり、平明な表現はありふれた表現になってしまふ。「平明で深い」の「深い」とは深刻になる事でなく気づかせてくれる事、解放させてくれる事、つまり、何でもない事や何処にでもあるような日常の事柄のなかにあつて生きていて良かったと教えてくれる事なのだと思っている。

人が人を想いそれが言葉になって伝わる。こんな嬉しいことはない。川柳を続けていてよかったと思う瞬間である。

行末はどうあろうとも火の如し 路郎



小島蘭幸選

貝塚市 吉道 あかね

涙ぐむ景色の中にある絆
弟のライン永久保存する
やさしさの土台痛みと哀しみと
虫の声心静かに穏やかに
芋粥を炊いてふたりの朝とする
ヒリヒリの傷を見せ合う人がいる

大阪市 石田 孝 純

泣き虫と七十超えて知らされる
力尽きた蟬拾い上げ仰ぐ空
だあれにも誉めてもらえぬ庭そうじ
スーパで売っていません妻の味
てんやわんやしてたつた五分の独り飯
独り飯一番上の皿ばかり

大阪市 平井 美智子

愛だけで良かった 夏の海だった
アンパンが好きで淋しさ過敏症
君の笑顔に過剰反応してしまう

につこりと笑って解けてゆく氷
いわし雲流れて風はもう他人
夕焼けをたたんで今日を持ち帰る

大山市 金子 美千代

お祭りの雷雨準備の人思う
いつまでの残暑エアコン潰けの風邪
レトルトのおかゆじゃ力出てこない
草だけは元氣自由にさせておく
リフォームの夢迷ってるうちがいい
アマゾンに挑戦ボケてなるものか

枚方市 栃尾 奏子

サーカスワンダー刹那の夢が美しい
主役にもなれず道化師にもなれず
自画像の愚かよ赤を足すばかり
会釈して正しい恋の終わり方
初恋という幸せな戯画でした
失恋の日のおでん昼のコップ酒

尼崎市 山田耕治

四時に目が覚めるじいさんシンドローム
スマホ覗き孫と頭を寄せている
トリケラトプス孫が教えてくれました
八十五いとしき日日よ句帳繰る
血圧を計って終わる朝のルーチン
鍵隠すところを犬が見てました

松江市 石橋芳山

ニヤニヤとにやけてどうしたか夕陽
哲学が見える波打ち際の砂
か弱さに触れたか崩れだす鎖骨
太陽のいじめで猛暑日が続く
喫水線超えたか飲み過ぎたみたい
炎天にどろりと流れだす性根

松山市 柳田かおる

拘りが時代の風に乗っておくれ
好敵手だった宝物になった
等身大の自分を知っている余裕
どん底を知っているから慌てない
速歩ができなくなった骨密度
自分史の終着駅でもめている

鳥取県 斉尾くにこ

似たような日々でも同じ日は無くて
やわらかな手錠タコ足コンセント
ねむります気を遣わせず遣わずに

対岸へおしゃべりの花咲いている
踏まれてもカタバミの葉はハート形
そこにもう私はいないプロフィール

鳥取市 岸本宏章

絵が上手く描ける人なら字も上手い
音だけを聞いた今年の大花火
男にも日傘が似合う炎天下
食事量減った分だけ飲むサブリ
始業ベル今でも夢で鳴っている
通訳はいらぬ外国人力士

松江市 藤井寿代

ごめんねとありがとうで礼を尽くす
ウインクをされたようです野良猫に
食べて寝てあの世へ続くレクイエム
稲光遠い秘密を抱いたまま
乾いた嘘に愛想笑いがよく似合う
福島のバケツの水が揺れている

土佐清水市 辻内次根

猛暑日の午前八時に音がない
身の丈に合わすと欲しいものがない
勘弁えておよそで通る針の孔
運動はせめて布団の上げ下ろし
パソコンの虜になった眼の窪み
飛行雲初秋の空が動かない

西予市 黒田茂代

潔い娘に遺品さつぱり片付いた
だんだんと遠ざかる夫との距離
風鈴と鈴虫競い合う窓辺
駅ピアノ娘に一度弾かせた
よく眠れました娘の居る間
娘の帰阪ふつと淋しさが襲う

鳥取市 奥田由美

指切りが三日持たないダイエツト
一口が残せぬアンチダイエツト
遠慮なく好意いただくシニア席
家事上手に姑が羨けた男たち
畦道から虎杖摘んで自家サブリ
図書館で寝る節約の光熱費

堺市 今井万紗子

この先はゆつくりでいい手を添えて
鏡拭く今日も笑顔で暮らせたら
ペアルックで出掛けてみるか胸張って
亡父の歳追ひ越し母は花浄土
子を思う父のびんたは痛かった
もう九月忘れぬように虫が鳴く

横浜市 川島良子

壊れかかった地球生きるのも命懸け
線状降水帯昭和の雨が懐かしい
寝そべっていますアイデア練ってます

子供達の悩み老人たちの悩み
居場所さえあれば徘徊などしない
デイサービスアイデアひとつ持ち帰る

藤井寺市 鴨谷瑠美子

文化とやお茶とジュースもラッパ飲み
昔話遠くに置くと美しい
糸電話昔は夢があったのに
夏蝶の羽とおとうと遠ざかる
物音が小さくなって来て秋に
雀来て秋の景色になってくる

海南市 小谷小雪

迷い込んだ蜂へ網戸を開けてやる
妹の酢漬け生姜のおいしすぎ
ごろつとしていて許される日曜日
一病はベースダウンをするチャンス
羊羹に夏の養生しています
所在ない時間けてみる冷蔵庫

大阪市 寺本実

好きですと言ったとたんに受信拒否
ただいまと門で仮面をつけかえる
昨日まであった記憶が今日はない
夏枯れを救う祭りと五山の火
サングラスかけると孫がやってこぬ
身に覚えあつて正視ができません

横浜市 菊地政勝

伴走の妻が時時指図出す

子返りの妻が選んだ派手な服
ライバルに終活の本送られる

饒舌な自慢話にただの酒

傷のある人の話に味がある

上尾市 中村伸子

こんなにも面白いとはバスケット

暁ジャパンパリへの道は奇跡的

ホーキンソンあなたが日本に居て嬉し

愚痴話黙って聞いてくれる吾娘

足揺するこれも治療のひとつです

朝霞市 前田洋子

異人さんへハローと返す散歩道

筋トレのコーチ遣る気にしてくれる

百歳も筋トレ励む道標

健康器具今はバッグを掛ける所

遺族年金夫に無断で減らされる

越谷市 久保田千代

好奇心大事な夏のビタミン剤

マンネリにならぬアイディア絞り出す

懐の深さを神に試される

損得の抜きはあつたかい

朝顔に水やりわたしまで元氣

東京都 川本真理子

インドア派図鑑をもどし夏終わる

心から笑えることを明日さがす

自慢気な亡父の横顔思い出す

老母の耳に届けたいあの子守唄

娘と話す最後の晚餐卵がゆ

八王子市 川名洋子

猛暑でも子供は元氣活貫う

よく笑っていたワタクシ若かった

焼き餅をやかれて嬉し老いの恋

夕焼けよ明日も幸せくれますか

ひっそりと逢瀬楽しむ知らぬ街

可見市 板山まみ子

秋九月冷房なけりや眠れない

クマバチが我が者顔で庭の果樹

暑くても食欲何故か衰えぬ

猛暑日の家事はそこそ草テニス

カーボベルデもう忘れないつもりです

各務原市 喜多村正儀

一筋の真水が欲しい葦の念

折り鶴が一斉に飛ぶフルムーン

ハッシュタグ付けて回遊する一語

クラスター弾けて生木裂ける音

本気だと分かるバトンの赤い色

名古屋山 本 三樹夫

北陸路酒と魚をさがす旅
大切な一票私持ってます
総理が描く程景気甘くない
移り住む山あいの村稻を刈る
朝風がちよつと涼しい萩の花

大山市 関 本 かつ子

子も見てる親の古い方過ごし方
エアコンで命守ったような夏
涼しさをちよつぱりくれるトコロテン
欲しい物ばかりに値段上がり過ぎ
アニメソング情緒薄れる盆踊り

豊橋市 西 郷 紀美代

惚けだした脳にたつぷり唐辛子
草取りの得意な人が抜いた庭
お元氣のもととは聞かれ食べること
喧嘩などしない夫婦は嘘っぽい
息遣い水を待つてる夏野菜

石川県 堀 本 のりひろ

御老体泣いて笑って生きてきた
出会いからびたり寄り添う古い二人
手の甲にデンとまします苦勞ジミ
沈み行く夕陽背中に古い二人
うたかたの人生行路雲流れ

和歌山市 上 田 紀 子

そよ風の葉音やさしいシンフォニー
行きたい所何処でも行ける軽い足
決心が揺るがぬように書き記し
日々感謝笑つて暮らすありがたさ
温めた夢は必ずいつか咲く

和歌山市 柏 原 夕 胡

子の道だ行きたい道を歩ませる
子の居ない一人娘の身を案じ
簡単に頑張れなんて言うけれど
裏切りも少しずつなら許せそう
越して来てご近所の風温かい

和歌山市 松 原 寿 子

輪に溶ける私の笑顔見てほしい
落ち込んで友の氣遣い胸に沁む
節約を緩め家族の宴が満ち
ロボットが癒してくれるレストラン
善くも悪くも仲間が側にいてくれる

橋本市 石 田 隆 彦

真つ昼間近所に空き巣身を締める
少子化にバランス失いもがく国
親父から字画に凝った名をもらう
二つ三つ病い抱えて七十坂
ストレスを抱えて今日も終電車

京都市 清水英旺

思いのほか長い旅路を来たものだ
敬老を強要せぬがだがしかし
値上げの愚痴おかずにご飯の旨いこと
万歩計歩け歩けと愛の鞭
思い出を語り合いたい友は逝く

京都市 藤井文代

影にまで出てます後期高齢者
異常な暑さ病んだ地球の雄叫びか
百歳を望まぬけれど癒封じ
診断は年相応だと一喝
値段より添加物有無が決め手に

京田辺市 北野クニオ

見栄張ってデパートで買うマスカット
我が家の家紋を知った墓の前
癌仲間開き直って生きている
温暖化秋刀魚一匹五百円
藪蚊でも血を吸う時は命懸け

長岡京市 山田葉子

秋の雲探して空に深呼吸
通院出来て元気だったと今わかる
可愛いね言うたら犬も嬉しそう
まだ電話やメールをくれる友がいる
秋の気配広げてくれる虫の声

八幡市 武田悦寛

世の中とバランスとってひげを剃る
背伸びして覗いてみたい百年後
くもの巢の見事な技術天地人
幸福度レベル上げ下げ生きている
いい人の仮面をとって風呂呂入る

大阪市 東敏郎

目覚しを止めて四、五分寒の朝
二度三度長湯の妻に声掛ける
ルビふって初披露する入選句
生玉子「悪の枢軸」とは言えぬ
入選句自慢したくてメールする

大阪市 岩崎公誠

ナースさん小さいキズにも心こめ
レアメタル産地で抑え眺みあい
背を丸め考える人ふえる世だ
杖つくと隣でさえも遠くなり
あれこれとサブリ手に入れ期限切れ

大阪市 岩崎玲子

世の歩み速すぎ理解及ばない
スマホから軽いタッチで世界見え
かすかでも家計支える知恵絞る
財は無いしっかり生きよ子等に言う
コンサート歳を忘れてミハーに

大阪市 内田 志津子

釣竿にてる坊主とVサイン
たっぷりの釣果土産に午前九時
ご近所へ釣果自慢の小一時間
ほんやりと見えて来ました黄泉の国
絶食の夜に夢みる上にぎり

大阪市 宇都 満知子

歩幅まで合わせば過呼吸になった
哀しみは平気な顔の裏側に
うつかりが二乗になってゆく二人
褒められた言葉に居心地の悪さ
君が言うまで聞かぬ振り見ない振り

大阪市 江島谷 勝弘

気がつけば家で寝ていた酔っぱらい
歳だから三次会は遠慮する
ゆっくりは鄙びた温泉に限る
電車バスすぐにウトウトしてしまう
いまさらである少子化に温暖化

大阪市 大沢 のり子

眠れぬ夜はひとり芝居で過ごします
セピア色の写真に昭和生きている
ふたりなら楽しみながら老いの道
合鍵のスペア作りに行きました
夕焼けがきれい 充電できました

大阪市 奥村 五月

良い医者はタクシー代が高くつく
お茶の友還暦すぎて再婚へ
心配をさせた息子が今たより
暑いねと話す横には赤トンボ
夢だけは眼鏡なしでも良く見える

大阪市 小野 雅美

心の窓お互い開けてみませんか
便箋を選んだ幸福な時間
哀しみが透ける風呂場の磨りガラス
際限のない欲望が吊つてある
テント裏役目を果たし泣くピエロ

大阪市 川端 一步

お話はこころの馳走だと思ふ
阪神優勝二軍給料上げてくれ
小さい秋早く来ないと冬が来る
本読んで血肉にならぬまま老いて
鬼百句わたしも中にいる一人

大阪市 古今堂 蕉子

風呂敷の魅力忘れていませんか
エアコンをお供に作句夏うらら
物知りの五歳が話す理路整然
八十歳凡人の中の凡人
呑み葉きつちり呑んだ事がない

大阪市 近藤 正

風雪に耐えて佇む彬の碑

万博カジノアキレス腱になる維新

核戦争地球滅後の冬の月

もしやもし足腰治るかもサブリ

タンクの水棄てぬ約束反古にした

大阪市 坂 裕之

落ち着かんきつとこの後何かある

頑張つて欲しいと願いお手伝い

飛びだした子供に親が大慌て

どうしたら上手いくのか遣つてみる

ゆっくりと話し合つたら分かるはず

大阪市 高杉 力

初めての句会初めて降りる駅

風通すそのためだけの里帰り

壊れたら交換部品ありません

ジャワ更紗君がやさしくなる時間

何もかも幻 愛も死も詩も

大阪市 高杉 千歩

芸術の秋に背を向け黄昏れる

戦争のニュースあんな食べながら

貯えがどれだけあるか考えず

介護士さんナツメロ好きでウマが合い

アイスクリーム嫌いな人はへそ曲がり

大阪市 田中 廣子

コスモスの迷路可愛い園児たち

うれしいな阪神アレに決まりそう

御薄立て秋の風情にひたつてゐる

処理水の中国反発どうなるの

プーチンの金の歓待何ねらう

大阪市 田中 ゆみ子

「私」を生きよとバトン渡される

家族皆優しい老いが加速する

「らんまん」の露草散歩にはルーベ

外出先エレベーターの有無を聞く

モーニングサーピス未亡人三人

大阪市 谷口 義

晩年は木造平屋が一番だ

靴すべりなしでも履ける靴を履き

どうでもええやないかと父に教えられ

物別れに終つて二階から下りる

北の富士の解説もなく秋深し

大阪市 原田 すみ子

猛暑にもいい句に会える句会有り

なんとかなるなんとかするという未練

頑張れ頑張れと自分に声掛け

家族の誕生日皆言える夫

好不調生きてる証抛身を任す

大阪市 平賀 国和

大阪市 横山 里子

妻入院家事の大変思い知る

入院で知る元氣な妻の有難さ

何が何処にあるか分からぬ家の中

病院から妻はスマホで家事指図

デジタル化ほんにスマホは有難い

大阪市 降幡 弘美

家事手当てくれればメッチャがんばれる

停電で見られなかった最終回

子とつなぐために片方空けてる手

似たような服しなくて服がない

自分に酔いうつとりしてる過去日記

大阪市 宮崎 シマ子

揺れないよ孫膝に抱くブランコは

ギリギリまで着ています好きな服

コロナがいても心が踊る秋日和

友は足私は手が動かないけど仲好しだ

シャシャリ出る美女の唇紅が濃い

大阪市 山本 加お里

終活を楽しみながら今日も生き

負けはせぬ貧乏神に立ち向かう

朝起きてまずは立つことできました

お互いにちゃんづけで呼び半世紀

あの人の亡きあといつも空を見る

泥臭さ芋で育った海馬です

固定電話スマホ探しのためにある

食べ物も恋も薄味遠花火

ただだから打つぞと決めた七回目

川柳で会うべき人に会えた妙

堺市 柿花 和夫

切り札のジョーク空振り懐手

去年まで五分で切れた足の爪

ワイン片手に月下美人と宵つ張り

五コマ目を目指して今日もスクワット

丁寧な灰汁抜きをしてもとの鞆

堺市 榎原 道夫

秋ですねと秋がささやき合っている

恋ごころ芽生えてきたかコルセット

未使用のまま革命という言葉

戸袋の奥で干涸らびていた思想

ピンセットで仕分けしているうろこ雲

堺市 源田 八千代

猛暑の残暑小さい秋みつけられず

三連休の初日孫敬老祝

野菊咲く九月私の誕生日

年相応に弱る足腰目耳齒も

曾孫のパパママ子連れウエディング

堺市 齋藤 さくら

心配を掛けないように無理しない
小さいうちだけです孫も忙しい
日の丸に笑顔が増えた日本人
一日が同じニュースも辛くなる
人混みにマスクはずせる気になれず

堺市 坂上 淳司

紅注してあげよう亡母の旅立ちに
ほんのりと亡母の香包む畳紙
ほんのりと色香包んでいる薔
ペディキュアされた御御足恥ずかしげ
海に向け処理水流す深い罪

堺市 澤井 敏治

秋涼にまだ休めない扇風機
縮んでない周りが大きくなっただけ
生きるってシンドイですな40℃
墳墓の地おれが護ると鬼瓦
すり減った靴の裏から逝った夏

堺市 内藤 憲彦

風評をよくわきまえてウィズコロナ
プリゴジン事故死ブーチン白々し
本物はニセ物らしく見える方
孫優しお酒飲むよりヨーグルト
正論へノーつきつける現場主義

池田市 太田 省三

純金の耳かきそつと大金庫
猛暑の日大きな駅は良い避暑地
あれこれと迷うグルメのターミナル
クーラーへ軍足を履く熱帯夜
空港は勝つて帰ると人ばかり

貝塚市 石田 ひろ子

夏休みも終りがら冷蔵庫
老いと言う手強い敵と立ち向う
手のひらで世間眺めているスマホ
おばあちゃんに耳傾ける若い医師
タイムセールのお作り並ぶ夕御飯

柏原市 津村 志華子

無になろう無になろうとて写経する
手の幅の幸せで良し南無阿弥陀
いにしえを思い起こさす万華鏡
乾燥機で目を回してるユニホーム
待つ人も居ない鍵穴うそ寒し

河内長野市 大島 ともこ

ちよつと距離置いたら目から鱗です
指導という名のパワハラを許さない
遺言書くほどのゆとりは無い暮らし
葬祭を機に旧交を温める
予約不要ですよ彼の世へ直行便

河内長野市 木見谷 孝代

平常は強氣病んだら君思う

食卓の読み書きもする指定席

梨がうまいのはやっぱり秋だから

生きるため鳥も必死とあきらめる

ラグビー熱列島沸かす暑い夏

河内長野市 坂野 澄子

複眼で何を見たのか赤トンボ

いてほしい人を帰して地虫鳴く

よう生きたと誕生日のひとり言

よく喋るホントは私寂しがり

松茸の素で味わう秋深し

河内長野市 中島 一彌

宅配へ冷えた麦茶を出す猛暑

エアコンの温度が揉める種つくる

昼酒の大義名分暑氣払い

青い目に教えを受ける和のこころ

六曜にこだわり暮らす験担ぎ

河内長野市 藤塚 克三

守るもの一つ無くして胸痛む

目耳齒続けてがたが来る齢

突っ込みと惚けが織りなす老い二人

ミサイル買う気軽に言うな税金で

古い日記に亡母の想いがあふれ出る

河内長野市 村上 直樹

物価高論吉どんどん軽くなる

国債のツケ払うのはいつのだれ

順不同次は俺かも閻魔帳

老いふたり守り守られ笑いあい

大賜杯ぜんぶの主夫に贈りたい

河内長野市 森田 旅人

姫になる観光列車のおもてなし

わたくしを待っててくれた沈下橋

わたくしの影長く立つ桂浜

巻紙の書簡に見えるおもいやり

留守番の孫から時給請求書

岸和田市 岩佐 ダン吉

和の中でいつも異論を抱いている

裏表ない人なんだそこまでだ

拉致の人救う手立ては何だろう

人溢れたったひとりの僕になる

然り気無く空を仰いでいる男

岸和田市 雪本 珠子

今日もまた遺影と暫し対話する

悲しみの淵で感じた人情味

思い出を噛み締めながら生きる今

逝った娘の声が今でも耳底に

旅先でのんびり心休ませる

吹田市 太田 昭

あと一歩鬼になれずに貝になる
何もかも許す手つきで酒を注ぐ
海ゆかば石原裕次郎に逢う
正論をぶら下げてある衣紋掛け
本音だけ聞く補聴器に買い替える

高槻市 片山 かずお

秋は朝晩昼は真夏という初秋
秋の虫みな足元で鳴いている
動かないのに三食食べてまた太る
快食快便続き夏痩せとは無縁
首相の名すぐにキシダと出てこない

高槻市 島田 千鶴子

時空越え時代小説読み耽る
騙されて学びましたと礼を言う
異常気象やがて普通になるだろう
普通とは難しいねと水に問う
笑い合える人と一緒にいる安堵

高槻市 初代 正彦

ゴーヤーもボクもめげずに耐えました
構い過ぎもほったらかしもあかんでしょ
マイナカード黄ばんだ箱で寝たまんま
ど忘れも偶にいいかと前を向く
パソコンの機嫌をとって小半日

高槻市 富田 保子
生きてるか声かけ合って老いの坂
お帰りと近所の人が声かける

ありがとう一駅ですが甘えます
ピンチだと何時も一人で騒ぎ立て
赤信号長く感じる炎天下

高槻市 鳥居 宏

渇水の椿へ夏の地獄風
水遣りを忘れ椿を枯らしたよ
散歩道出合いと話が長過ぎる
日本の平和は武器で守れない
敗戦の教訓今や雲の中

高槻市 松岡 篤

老夫婦スキんシップは肩叩き
赤い羽根子らが学んだ助け合い
母からは介護上手と褒められる
ありがとう三食手抜きせぬ妻へ
孫五歳もうかけっこは手抜きせぬ

豊中市 上出 修

転勤拒否階段一つ踏み外す
難問をト音記号で初期化する
晩成もあつて人生面白い
米寿過ぎもう枯れそうな運と金
地球儀のピースもあるくはまらない

豊中市 きとう こみつ

日常会話目ざしフランス語を学ぶ

ドゴール空港でJALに乗ったらもう日本

少々の雨に傘さす日本人

かなづちでこわして食べるおせんべい

みたらしが好きで最良の店3つ

豊中市 藤井 則彦

もう一人の自分に訊こう正念場

温暖化に飽きて沸騰する地球

元号を見ては落ち着く日本人

美しいなんて思わず薔薇は咲き

いつの間に我を見つめるのも孤独

豊中市 松尾 美智代

冷房のジムでぐつしより汗をかく

しのび寄る老いにストレッツで挑む

夏草は頑固夫といい勝負

鈴虫の鳴き声聴いて夢に入る

お茶漬けのお代り水茄子がうまい

豊中市 松田 蟻日路

フォワードの壁に突つ込む活きの良さ

満月朧ろきつと疲れてるんだろな

凡人ですテレビ相手に閑居です

スズメ落ちてる植え込みの隅安らかに

ジョッキ満杯持つ手は震え足よろけ

豊中市 水野 黒兔

梨をかじり秋の甘さを音にする

鬼灯の小さな秋のあかね色

ひよんの実を吹いてふる里引き寄せる

彦にゃんに優るゆるキャラまだ知らぬ

リングの皮剥きメビウスの輪にもなる

富田林市 中村 恵

結果より過程楽しむのは余裕

保護色を纏うて群れたがる野性

孫の笑みわたしの殻を打ち破る

たそがれの恋は寂しさだけ募る

儚さを包み沈んでいく夕陽

富田林市 山野 寿之

スーパールのちらし片手に渡り鳥

鮮やかな記憶先生の綽名

記憶から消してはならぬ原爆忌

夕餉後の別腹待っているケーキ

のんびりはアナログだったなあ憂き世

寝屋川市 川本 信子

秋の月おひとりさまに優しいな

落とした二萬交番に届いてた

人の親切いっぱいあるなこの世

二十四時間テレビに恒例の寄付

元気をアリガトウ戦士アスリート

寢屋川市 伊達郁夫

年金が出たので本屋梯子する
丸腰になつて強氣がわいてくる
補聴器を外して背伸び大欠伸
本氣です実印持つて来た私
内緒だと言われて口が痒くなる

寢屋川市 富山ルイ子

石段を踏み外しあおむけに倒れ
起きられぬ痛み体のあちこちに
二ヶ月になるのに痛み増えている
腰に注射四本もして直らない
ありがとう同居中ですありがとう

寢屋川市 平松かすみ

何十年愛用してるツボヘルサー
十五分ゴロゴロすれば眠くなり
兄上の勧めで買った健康機
昨日今日治療の度に兄偲び
故障なく信用してるマイベッド

寢屋川市 廣田和織

丸い鼻ついつい油断してしまふ
黒星が続く老いとの星取り表
缶ビール一缶ほどの通り雨
うやむやという終り方身につける
語られることもなかった青い夢

羽曳野市 磯本洋一

マスク取れ質素な日々に馴れ馴れて
あべこべだペットが先の我が家では
散歩してお帰りなさいペットには
猫の目に似た天氣なり列島は
人の和が広く大きい世界なれ

羽曳野市 宇都宮ちづる

ポツポツと空き家が目立つ老いの町
ボケ方はずっとねえ二人
記憶力落ちた分だけ知恵を出す
スマホの世孫が頼らぬ生き字引き
灼熱の庭に赤黄赤のミニトマト

羽曳野市 徳山みつこ

切手をえらぶひとときの幸せよ
病床の友に送った花切手
毎日会釈するがお名前知りません
店内ぐるぐる値引きシールを待つ
ゆつくりと地図なきこの世まつすぐに

羽曳野市 藤原大子

生きたいので食べる食べたいので動く
一日の段取りをする至福時
ふと過るでなくなる日のことが
老いてゆく見本に夫五歳上
ああ九月雲の形に優しさが

羽曳野市 三好專平

魔女一句詠みて現世公案す

反戦厭戦声も気ままに西瓜食う

杖ついて歩く楽しさ教えられ

逆転の発想に幽谷を突き破る

街中の老人センター草しげる

東大阪市 佐々木満作

快適のクーラー二時間も昼寝

スタンドの歓呼球児の士気上がる

避難所のプライバシーは守られぬ

虐待の心壊れる痛ましさ

フクシマの他人事でない風評禍

東大阪市 西村哲夫

ダルマさん転んでも動じない女将

幸せの余滴独りで手を合わす

煩惱へ噴き出す汗が心地よい

君が注ぐ難儀ですでに酔いつぶれ

川柳へ寡黙の汚れ絞り出す

枚方市 谷英也

まだ行ける力みすぎです切れる息

嫌いですばり言って欲しかった

ツイッターウエーブ起こし国変える

この酷暑お地藏さんも帽子載せ

鳥打帽獵銃下げて獲物なし

枚方市 藤田武人

一番を目指し二番で居る安堵

仏滅と知らず告白してしまう

渦中からマリオネットになった王

貯金などしたことがないあぶく銭

AIのレシピはなんと目分量

藤井寺市 太田扶美代

家族で分け合う耳寄りな話

中ヒールもう一年は履くつもり

そのうちが一杯溜まってきたボツケ

だけどだけど夢の続きは言えません

十二色輝いていたのもたしか

藤井寺市 鈴木いさお

美しい人に出会えた日の愉快

遠い耳ときに便利なこともある

「頑張れ」が心の傷を深くする

決めていた遺影が古くなり過ぎた

第三次世界大戦見たくない

藤井寺市 吉田喜代子

米寿超えこんなに暑い夏知らず

もったいない一日クーラー付けてます

サンマ好き昔のサンマ旨かった

割れトマト冷凍にしてアイス食

雨の音聞いてゆっくり二度寝する

松原市 森 松 まつお

無意識にテレビに対しはやいてる
そうやねと妻が相槌打ってくる
裏切るときつとアナタも消されます
乾杯とグラスを上げるいい笑顔
今ここに何しに來たと妻が聞く

箕面市 大 浦 初 音

Ｉターン田舎暮らしに憧れる
寝不足がすぐ顔に出るこれも老い
道端の花の名前をスマホから
夫が籠に勝手に入れた品却下
自分が変わらねば人は変わらない

箕面市 酒 井 紀 華

解けぬ数独やればやるほど縛れだす
決りとする地上も地下も大地震
ゆっくりと黄泉のお国まだ遠い
十七歳わたしをすてて母稼ぐ
目も耳もはつきりしてて墓仕舞

箕面市 出 口 セツ子

ケンカしたくないから笑顔で聞き流す
認知症かしら最近よく怒る
仕事やめると人と交わることが無い
夫のこと言えぬ増えてる物忘れ
健康でボケないように老い希望

箕面市 中 山 春 代

電柱の陰でバス待つ四十度
アルバムの祖母涼しげにあつぱっぱ
おはようさん知らない犬がじゃれてくる
缶コーヒー買って乗りこむ帰省バス
冷房と猫の動画で日が暮れる

箕面市 広 島 巴 子

お茶そばに弾む友との長電話
憧れの恐竜博の大ロマン
近未来人類博があるのかも
みずみずし梨を供えてお相伴
好天に五感解放ハイキング

八尾市 寺 川 はしむ

生き方を問われ咄嗟に自由形
用箋が暇持て余すメールの世
生き様を子に示しおく嶽の汗
ベテランは怪我せんように身を振る
おかげさまだ年無いと妻の弁

八尾市 村 上 ミツ子

ウマが合う友としばらく会ってない
泣くのはひとり大笑いするのひとり
今年まだそうめん食べている暑さ
童心にかえり人形だっこする
モロッコ地震ただ祈ることしかできぬ

大阪府 米澤 俣子

神戸市 興水 弘

ふんだんの時間を無駄にした焦り
注意していても転けてる弱い足
秋風にも欠かすことないのがアイス
逝くまで女へアーサロンに行く日は楽し
気兼ねない私流の暮らしに感謝

神戸市 上田 和宏

鉄棒に日々ぶらさがり背を伸ばす
八十五気分的にはまだ初老
名を知らぬ散歩の人と語り合う
明日やります毎日妻に言うセリフ
良きことのあつた日は飲む三杯目

神戸市 奥澤 洋次郎

あほなこと居てくれたらとふと思う
時々はクーラーほしいと思う部屋
重たいが持つていかねばあの世まで
遠からず魚の食えぬ海になる
酔えばアホ言うを承知で飲んでいる

神戸市 城戸 誓子

検査終え何はさておきカフェのパフェ
結果待ち怯えながらの夜は明ける
弱ってる心に朝日ちよいきつい
丁寧に大事に今を重ねたい
新涼に喜びの歌虫達も

薄い毛触り今日は何本抜けるやら
人生がまん子には言つたが俺じゃ無理
折り五分コインひとつで足りますか
妻に手を合わせたら良いことだらけ
金ないが生き抜く力ちよつとあるよ

神戸市 斎藤 隆浩

コロナ明け街に溢れる異邦人
一個と言われもう一個欲しくなる
ローンの返済待っている退職金
ここだけの話飛び交うSNS
古稀迎え磨きのかかる五七五

神戸市 富永 恭子

花植える私も咲いていたくって
便箋と切手そのうち消えそう
覚えててくれる地域の局の人
解凍のさんまだけれど秋気分
今になり中島みゆき染みてくる

神戸市 敏森 廣光

京の夏ハモの湯引きとこんちきちん
毎年言うてるこんな暑い初めてや
久方ぶり花火が飾る夏の空
法事法要毎年椅子席多くなり
自由でいいな青空に雲ふわり

神戸市 能勢利子

百三歳自分で出来ることはする

嫌いな物はごちそうさまと口閉ざす

ケンカしたことすぐに忘れて笑つてゐる

まんじゅうケーキあんパンにはお白湯

ショートステイのスタッツに日日感謝

神戸市 松倉正美

パンフ見てお節を吟味未だ九月

秋の七草すらすら言えて脳は無事

墓仕舞い跡地に咲いた曼殊沙華

涼風吹いて真夏の恋が冷めました

秋の夜長友の悩みを聞いてやる

神戸市 山口美穂

マイナンバー早うしたのは損でした

まだ油断できないコロナのニュースきく

観衆はコロナ忘れて大声援

値上りの秋刀魚へ思案のひと回り

台風の爪痕残暑もまた苛酷

明石市 梶谷和郎

他人には知られたくない顔がある

恋は色色街のベンチは耳年増

本にメモはさんだままで逝った母

慎んで受ける寸志とご忠告

写経百巻何かが見えてきたような

芦屋市 竹山千賀子

この夏は去年と違った願い事

平和です花のあふれる街に住む

ニュースから戦火の消える日を折る

バツマルの仕分けの中で今日も生き

お隣もそのお隣も老い独り

芦屋市 新阜義明

近づきたい親爺尺八あの音色

目には目を木端微塵の非情さは

灼熱を味方つけ咲くサルスベリ

台風も阪神電車そのタフさ

トンカツにキャベツ大盛り長生きへ

尼崎市 近兼敦子

一粒のチョコでやさしい声がでる

ありがとう言われて私よく動く

卒寿との旅はしつかり下調べ

離れているからやさしくなれる風

梅干しは母のしょっぱい味が好き

尼崎市 宗和夫

あるもので朝昼作る妻の技

酷暑続く非常食まで底をつく

大丈夫熱があっても腹は減る

スーパ一の値札で決まる晩御飯

贅沢は月に一度の回る寿司

尼崎市 永田 紀惠

尼崎市 森 菊江

廃校に子等の声かなせみ時雨

冠雪のない富士山はしどけない

最近手抜き料理が妻の味

水たまり見れば飛びたくなる若さ

荒波を越えて八十路の風に居る

尼崎市 羽 奈和子

挨拶は言うたもん勝ち先に言う

覚悟して目をつぶつたらなでられた

燃え出すほど地球が熱くなっている

熱帯夜でも涼しげに鳴くカネタタキ

あの世から吠えていそうなブリゴジン

尼崎市 藤 井宏造

株式欄なくても特に困らない

仲人がスマホになつてきた時代

常連しかたのめないのが裏メニュー

新札をふんわりと三つ折りにする

幸せを掴み取るのにいる両手

尼崎市 藤 田雪菜

どっこいしよからだの疲れ気の疲れ

無二の友信頼だけで五十年

検査日の前には食べぬ甘い菓子

洗濯物家族の顔が浮かび出る

猛暑の日小さくなった卵です

来年も食べたい母の祭り寿司

夫にも悩みあるとは知らなんだ

家長です嵩高いのはあたりまえ

越えられぬ試練は来ぬと腹決める

街路樹の根っこ舗装路持ち上げる

尼崎市 山 田厚江

汚染水処理水になり放たれる

クーラーの部屋から出たら寒かった

少子化対策何をやっても減っていく

ただいまとおかえりを言う一人言

好物があればこれもと禁止され

加西市 山 端なつみ

来るなと降るな線状降水帯

蛙さえ降れと鳴けない異常降り

台風の前で迷う盆帰省

台風の兵庫縦断皆無事で

にきびポツ恋に恋するお年頃

川西市 山 口不動

線状降水帯字余りの恐怖

この道は兵隊蜂と出会う道

私も英語で出来る笑い声

我が歩行こっけいな程お爺さん

氏神に子供が来てる夏休み

三田市 稲角 優子

春夏秋冬ポトリと朝の音がする
深追いがすぎて自分を見失う
詫び入れて帰るふるさと祭り笛
穏やかな妻によく似た子の育ち
喝采はないが愛しい日多く

三田市 上田 ひとみ

ポーカーフエイスだけど見えておりますよ
口に出せばなんだかとても軽すぎる
知性とはあなたを見れば納得で
どうしても自分の勘に甘えちゃう
十年後も一度会ってみましょうか

三田市 大西 重男

生きるとは努力することふと思う
明日という日徐々に少なくなってきた
友達ゴルフ私杖つく同級生
えいままよ弱気を捨てて法螺を吹く
割り込まれ注意をしたらひと睨み

三田市 九村 義徳

あやふやにしてたらピンチやつて来た
適当な距離をとってるいい夫婦
食い放題残り時間を刻む音
人生の午後はゆっくり川下る
人情と義理のはざまにいる迷い

三田市 住吉 美和子

風鈴から虫の音になる里の秋
ぶどう狩り高級品種また増えた
美人でも夏は勘弁長い髪
焼きスルメ噛んでた強い歯いま何処
大きめのグラスにタッブリ紫蘇ジュース

三田市 多田 雅尚

高いのは要らん猛暑に物価高
三分も待てず見つめる砂時計
楽しんで老化防止にGゴルフ
G7仲よしクラブと擲掬もされ
汗掻きでお色直しも日に三度

三田市 中山 昭美

一かけの悩みも無さぞ猫とねる
停電に日々の備えを試される
今更と言っておれない沸騰化
ヒマらしい思わせぶりなライン来る
のびのびと育っているよ子も草も

三田市 野口 真桜子

シャネルの5モンローまねてベッドイン
物価高菜園にしたプランター
愛告げず躊躇したままダイヤ婚
玉手箱開いた恋も知らぬまま
引き出しにグリコのおまけ昭和棲み

三田市 堀 正和

おめでとう十八年振りアレ掴む
アレ祝うワインは二本床の間に
真夏日に満月見上げ飲むビール
見たいなあ翔平聡太の十年後
コロナ明け青春切符の旅するか

三田市 松下 英秋

夏終わり耐えたところで冬が来る
ジャパニーズ地産地消の水道水
旅人は帰って行ける場所がある
缶コーヒーこぼして香る会議室
呼吸してただ生きている猛暑の日

三田市 村田 博

百年に一度の猛暑三回目
猛暑でも花屋の花に癒やされる
雑草を真似て猛暑に耐えている
猛暑でも体重計に変化なし
好き嫌いそんな噂も黄昏れる

宝塚市 丸山 孔一

雨が降る部屋の掃除は明日にする
暗闇にせせらぎの音蛍の灯
携帯の着信音をちよつと上げ
愛犬の一周忌未だあの顔と声
電柱の陰で信号青を待つ

丹波篠山市 酒井 健二

善人が死んだら心から悔やむ
スイーツも塩も駄目だと医者が言う
お仕事は健康長寿ただ一つ
薬学の進歩も有って今日も酒
実はボク団体行動出来ません

丹波篠山市 藤井 美智子

この歳へ今の自分を褒めてやる
八十路来て元気を父母にありがとう
趣味一つ減らせば楽になるものを
ぐずぐずもたまにはいいか息を抜く
失敗も風が許してくれた朝

西宮市 亀岡 哲子

住職は四代目なり七回忌
道なりに歩き自販機花も咲く
ありがたくも怖くも進化する此の世
きつちりと余命を刻む古時計
生きるため好きな物から食べておく

西宮市 福島 弘子

猛暑続き出不精すっかり板に付く
会わぬ間にすっかりと大人びた孫
つくつくの声を聞いてもまだ猛暑
明日は我が身ゲリラ豪雨を憂う秋
ドッチボールクラス皆が熱かった

西宮市 福田正彦

AIが出した答はもう古い
出る杭は効き目確かめ軽く打つ
盃が心の奥を探り来る
泣きたいね人の争い見ておれぬ
アレ・アレと言ってるうちにアレが見え

南あわじ市 萩原狸月

ほんやりは作戦だった下克上
細胞の壊れる早さ背が縮む
来世へ生かす反省メモにとる
ほめ言葉世辞は承知でありがとう
恍惚とペンライト振る子の平和

奈良市 東定生

仕舞いかけのマスク取り出す第九波
カラスまで感づいている物価高
前線の怖さを知らぬ背広組
新紙幣作り過ぎなや「知らんけど」
スマホ無しで一週間は生きられぬ

奈良市 大久保眞澄

難聴の神に届けと鈴を振る
仏壇にビールお墓にワンカップ
弓なりに猫背のネコのストレッツ
便利機能増えて不便になるスマホ
アクリル板汚れたままで立っている

奈良市 加藤江里子

大正生まれ無骨な父の独り酒
鎧を脱げば穏やかな目の人だった
母だけが知っていたこと父のこと
藤袴咲くどこかしら父に似て
細き枝に空蟬そつとしておくか

奈良市 高橋敬子

角のケーキ屋ピンクの空気連れて消え
箱埋めんといつでも二つ買っていた
旅の広告万人向きで愛想ない
集まれば似たような話飽きもせず
気楽かしら待つ人もいず一人食べ

奈良市 辻内げんえい

ゲームアプリ孫が入れたが使えない
草花が喜ぶ程度の雨がいい
顔見せて安心させる夏休み
爺婆がバスケラグビーにわかファン
ウワサより事実の方が嘘っぽい

奈良市 米田恭昌

代替わり洋皿増える里の膳
デパ地下に秋の匂いを嗅ぎに行く
グラデーション思いは巡る熱の床
義援金トップをきった男意気
プーチンに人の道理は通じない

生駒市 飛 永 ぶりこ

手短で済むのに回りくどくする

おしゃべりに餡蜜するり笑み戻る

柔らかな恋を摸る秋の風

千日紅さらつと気合促され

歩かない日膝からすぐにブーイング

香芝市 大内 朝 子

仮りの世の試練に耐えてきた笑顔

聞き流すことも上手に生きる知恵

天職に力尽くした後遺症

酸欠の金魚を癒やす秋の風

終章をおもしろがって生きていく

香芝市 山 下 じゅん子

満天の星を浴びつつ河原風呂

部屋いっぱい虫の音響く旅の床

結婚祝いいエプロン昭和だね

強運の妻のおかげ家は無事

ただいまで家の空気が動き出す

桜井市 安 土 理 恵

一人湯のしあわせぬるい目が好きで

変貌の鏡と声のない対話

老いるとはこういうことか そうか

理不尽な傷あと鏡も泣いてくれました

哀しさは女を終るメスのあと

奈良県 安 福 和 夫

強面で多弁柔道高段者

武闘派も内で優しい部下思い

流暢なスペイン語にはみな哑然

ひたむきな努力家彼の裏の顔

名月は早世彼の化身かも

奈良県 谷 川 憲

法師蟬に秋の虫鳴きほつとする

胸底に落としかれない染みがある

日傾きなお頑張れと言われても

埴輪の顔みんな素朴で美しい

真夏にも若さはじける野外フェス

奈良県 中 原 比呂志

熱帯夜おせち予約のコマーシャル

蛇口からお湯出る夏を生き延びる

指一本電子辞書ひく拡大鏡

異変だが心落ちつく秋の色

コスモスが揺れて元氣を取り戻す

奈良県 中 堀 優

表札からなつかしい顔目に浮かぶ

墓参り皆の行かぬ時に行く

内緒ごと聞きすぎて耳遠くなる

何もかも妻に任せて楽隠居

カレンダーに予定忘れぬように書く

奈良県 長谷川 崇明

白球もミサイルも飛ぶ同じ空
曼珠沙華だけがきたよと気付く秋

川床料理先ずは前菜川の風
海の日にも山の声まで海は聞く
山の日も山に謝る温暖化

奈良県 渡辺 富子

さわやかな空を道連れ七千歩
炎天の草かり麦茶ラッパ飲み
行く末を語る地酒染みる秋
とりあえず今日一日を医者通い
想い出を語れば虫が鳴き出した

広島市 岸 本 清

温暖化地球丸ごと懲らしめる
老い二人暑熱順化が儘ならぬ
自責点増えるばかりの傘寿道
天井よ我が家の暮らしどう見える
健保料預金不足で督促状

尾道市 小川 道子

そもそもを語ると過去が浮きあがる
ライバルは等身大の私です
プロ意識そなえて見事なる誇り
折々に己励ます応援歌
風を抱き命の詩を響かせる

尾道市 小畑 宣之

百冊を越えるアルバム宝物
夜が更ける頭の中の蟬が鳴く
流れ星天の川から溢れけり
鍬振るう無念無想のクラシック
両親の遺影鳩舞う浅草寺

竹原市 岩 本 笑子

あなたにも私にもある恋の道なり
折り紙が好きで長女とライバルで
一人で行くこの道はやつぱり寂しいな
帰り道なぜかうれしそうである
セミが鳴くまるで私を責めるように

三原市 笹 重 耕三

二人三脚スマホも妻も横に居る
おじさんのブランコ疲れ切っている
ふるさとに根が生えていた父の抗
ふるさとへ心ほぐしに戻る影
別腹を揺らしはじめた秋の匂

岩国市 上村 夢香

鳥居前鹿は背中をつんつんと
徒競走ごめん写真を撮り忘れ
あれこれと未練ばかりで踏み外す
歴女ですまだまだ浅い入門書
つくつくばうしの声を聴きつつ方丈記

防府市 坂本加代

鳥取市 谷口回春子

勝負師の氣質先祖に見当らぬ
暑いねと言えばなおさら暑くなる

まだ若い競争心があるうちは

美味しく食べられるだけで幸せよ

誉め言葉車輪を回すエネルギー

鳥取市 池澤大鯨

味方にと思ってた姉が敵になり

裏切りを気づくの遅れ大あわて

彫り進み材の硬さに手が狂い

参謀が敵のスパイだったとは

引退をして済めば可とすべき

鳥取市 岸本孝子

人並と思えば気楽物忘れ

惜しまれて逝きたいなどは夢だった

電気代気にしていたら生きれない

断捨離もそろそろ仕上げせまられる

生真面目な財布と生きている命

鳥取市 田賀八千代

大女優なれなかったが孫九人

私だけの世界秘密の鍵がある

不調和音母の笑顔が包み込む

沈黙に後の言葉を選っている

ノーマイク似合い婆ちゃんらしくなる

軒下で暑さ忘れる常夜灯

本気だという口癖は耳に舐舐

草取りに己の根性試す爺

草花も水が欲しいとねだる夏

避難指示右往左往の怖い雨

鳥取市 中村金祥

罪祓い今日も仏像彫っている

切り開く努力重ねた青春期

独り居に容赦をしない雨が降り

訪問介護わしは元氣と駄々をこね

悠久の星座へ人は導かれ

鳥取市 永原昌鼓

核兵器ちらつかせてはにんまりと

強盗殺人増える日本も怖い国

風鈴の音に励まされつつ夏終わる

最後まで気を抜くまいぞ阪神よ

ヘルメットかぶり日焼けが気にかかる

鳥取市 福西茶子

窮したら自前のアホになれば済む

二週間若く見せます毛染めあと

寝る時間ごはんの時間知る金魚

朝顔のチュルンと萎む潔さ

苦労ばなし語らぬままに逝った継母

鳥取市 前田 楓花

幸せのヒントは笑顔だと思ふ

本当に痒いところがわからない

父と母兼ねる娘の奮闘記

何か一つ忘れて帰るお買物

長い道共に歩んだ足の裏

鳥取市 山下 凱柳

発言に責任転嫁見え隠れ

会場で埋まらなかった不信感

言葉探し指を折つても句にならず

二度と見る事もないのにコピー取る

閃いたガバツと起きて五七五

鳥取市 吉田 弘子

一日とて無意義などない日めぐりよ

名を忘れアからなぞつてみるしばし

生きて居るだけで良い等言うけれど

海渡る梨鳥取弁を喋る

奪つても蜘蛛は巣を張る同じ場所

倉吉市 大羽 雄大

勿体無い口癖にして嫌われる

口びるに歌をカラオケセット買う

笑顔にも人を狂わすエキスあり

寝転んでお詫びのメール打っている

遠花火全部の窓を開けている

倉吉市 牧野 芳光

予定表楽しいものはあまりない

あんな日もこんな日もあり木槿咲く

山の向こうでニヤツと湧いた白い雲

歳はとつても目力だけは失わぬ

都合よく解決をする運命論

境港市 藤原 久直

ふるさとの空き家を解いて安堵する

苦しい時笑つてくれる妻が居る

散歩中パークのトイレありがたい

後十年生きる覚悟で突っ走る

転ぶのが怖くて自転車を止めた

米子市 池田 美穂

嫁の名を連呼の義母は子を忘れ

聴診器あてて評判上がる医者

お供えが金では仏食べられぬ

やつと夏行つた途端に疲れ出る

畑作り素人裏切らぬかぼちゃ

米子市 伊塚 美枝子

今更に奥深さ知る他人の句

あれこれが無いと他人のせいにする

メガネにも受信機あれば鳴らすのに

半世紀酸いも甘いも知る二人

早朝の散歩涼やか稲穂ゆれ

米子市 後 藤 宏 之

怖い人だからワクチン打ってから
かなりの男前勝ち目はなさそうだ
夕焼けのむこうに極楽あるらしい
終戦を忘れないよう同窓会
むつかしい歴史漫画でお勉強

米子市 後 藤 美恵子

子とクイズ晩酌しつつ競い合う
山門で同じ匂いと擦れ違ふ
夫の墓体力試す坂の上
クラス会音の無いひと案じ合う
病名は胸に疊んで友見舞う

米子市 妹 能 令位子

鍋奉行いなくて旨い一人鍋
きっぱりと言葉削って佳句にする
猫ちゃんに芸を仕込んで小半時
老眼を味方にします大掃除
温泉の素を溶かして今草津

米子市 竹 村 紀の治

寝る暇もなく働いてきた昭和
ロボットが無言で介護する令和
わがままな虫一匹とルームシェア
フィナーレの脚本日ごと書き替える
卒寿まであと二年ほど綱渡り

米子市 中 原 章 子

だまされぬ抵抗力をつけておく
電話でのお金の話すぐに切る
甲子園くやし涙に貰い泣き
知事さんの元氣さ期待拍手湧く
遠ざけると恋しくなってくる作句

米子市 成 田 雨 奇

太陽に殺人罪で逮捕状
スイカ食う弟まるで異星人
まな板のウナギ暴れて母悲鳴
宅配便梨より安い物が来る
婆さんと朝からあくびし合う仲

米子市 野 川 宣 子

町内の見守り役が見守られ
猛暑でも旅のプランは秋モード
元氣なら母百歳の誕生日
処理水を丸呑み海が騒がしい
鳥取のすいか陣取る冷蔵庫

鳥取県 門 村 幸 子

とはいえどコロナまだまだあなどれず
ハハハハと笑って深い五七五
小さく小さくなったランチのハンバーグ
小さなミス日常になり老いを知る
世界混沌弱者いつでもトバッチリ

鳥取県 竹 信 照 彦

出雲市 伊 藤 玲 峰

屋内は自由に動く足と腰
一歩外出ると必要杖二本
杖二本突けど歩ける足鍛え
句会にも移動は全て妻頼り
会員が揃うと元気出る句会

鳥取県 本 庄 ひろし

安来市 原 徳 利

小粒でもダイヤが良いと言った人
大失敗笑いを取ってごまかした
赤提灯なじんだばかりまた転動
投げやりは親に似たのか苦笑い
ほんやりと少しし過ぎた我が人生

鳥取県 山 下 節 子

岡山市 大 石 洋 子

ロボットが人より多く仕事する
似合っても似合わなくても流行だ
昼寝する親子が同じ形して
食品ロス集めてつくるおやつです
配達の料理ですます独居です

松江市 松 本 知 恵 子

岡山市 工 藤 千 代 子

玉の汗老廃物が出た猛暑
夏過ぎて達成感に似た虚脱
猛暑から守って出来た米届く
再生の四年ぶりニュー夏祭り
風立ちぬ熱いコーヒー入れている

転ばずに歩く明日も手つないで
うれしいと笑ういい顔してるかな
ご院主と握手生涯を頼む(北海道寛英寺)
真つ当に生きて神の意のまま逝くつもり
まだ動く五体に感謝ありがたい

炎天のビニールハウス生き地獄
すつと来てすつと帰った仏さん
ご先祖と一緒に食べる白玉団子
老いの秋とうとう後期高齢者
危険な暑さに太陽の癩癩

猫よけのペットボトルの水熱い
ネズミシートに守宮のかかりキイと鳴く
金蛇の安息やぶり草を刈る
櫛だけのお供えならば墓所
旧姓の墓石なでたりこすつたり

猛暑にも耐えて私に色が付く
レモンティー言葉ひとつをかき混ぜる
一皿に秋を盛ろうか酒二合
突然の雨に慌てている日傘
あの日に戻っても夫を選びます

岡山市 丹下 凱夫

スニーカー少しスボスボだが貰う

半年に一度くらいは耳掃除

炎天に出て行く勇氣まるでなし

カナブンを拾って帰って叱られる

次根さんと出会った四万十の句会

岡山市 永見 心咲

秋桜を補色している高い空

宇宙色なんだねこんなにもブルー

錦鯉ひらひら波紋まで優雅

秋雨を語ればバイオリンの鬱

直立の標的戦意失せました

岡山市 前田 恵美子

ラジオ聞き包丁にぎる手もリズム

「おはよう」と話ができる朝が来た

隙だらけどちらからでもいらつしやい

孫と買物お金を少し多く持つ

青いみかん運動会を思い出す

笠岡市 藤井 智史

嗚呼君を幸せにする義務を負う

面白い川柳界のばらかもん

嬉しくて嬉しくて酔っ払って寝る

酔っ払いました作戦負けでした

同想句嗚呼同想句南無阿弥陀

岡山市 高岡 茂子

嫁いだから尊敬できる姑を知る

「シイちゃん」と名で呼ばれたいおばあさん

客は一人アナウンスする過疎のバス

どこまでもクレヨン電車走って行く

修正ペンあればと思う日を送る

岡山市 田中 恵

水まいて高砂百合と黄昏れる

何回も生きる構図を書き直す

騙された私を牌があざ笑う

好きだった色が合わなくなる八十路

君となら渡ると決めてからずっと

岡山市 藤澤 照代

やり込めた後の心を持って余す

夕立の暗さに時刻確かめる

日本の四季誤作動させる沸騰化

ボタン一つ外して秋の空入れる

スーパリーの底値並べて独り膳

松山市 大内 せつ子

見取り図より少しゆがんで生きてます

筆順を守ってつまらない案山子

当たり前じゃないのよ普通に生きるって

本当の涙なんだと言うピエロ

覗きたい覗かれたいの障子穴

松山市 栗田忠士

ひらがなのわたしに帰す落とし蓋
もうとまだの狭間で揺れる八十五
野良仕事ネイルアートがくしゃみする
AIを味方に付けて軽く住む
ここだけは逸れてほしいと言う勝手

松山市 古手川 光

猛暑の中秋を奏でる法師蟬
図書館でうつらうつらとする猛暑
異常気象の「異常」が普通になる恐怖
人口減日本が埋没しそう
彼岸花咲くと故郷が目に浮かぶ

松山市 宮尾みのり

何もかもネットで済ますひとり旅
ひとり旅うまいたこ焼食べてきた
診療所で済む一病で恙無い
今の今の事をくしゃみをして忘れ
することはした長男の嫁だった

今治市 永井松柏

風を読む時代の証言者たらん
かくあるべしとメタセコイアが聳え立つ
そうなんだけどそうは言えないことがある
頼りなげな姿で現れる救世主
いい人を演じ金属疲労する

今治市 安野かか志

夕焼けに明日の酷暑を予告され
内航に今も息する機帆船
千金の愛想笑いに客が来る
一冊のショートショートで済む自伝
棟梁のリズムを刻む釘の音

西予市 西田美恵子

人情深いコントが路地に落ちている
カメラから覗く現在過去未来
今日も空っぽ村のポストは淋しがり
どう干せば乾くでしょうかの未練
老々介護すんなりいかぬ日の孤独

高知市 三谷松太郎

古里の振子時計は昼寝中
あの山は低きを恥じず静かなり
岩発破護岸直線鯨無言
浮き草も暑いらしくて沈みがち
菜箸が美味いですよと添えてあり

阿南市 小畑定弘

老春に陽を当てながら生きてます
ともかくも生きねばならず目刺焼く
自分史に弱気なボクが顔を出す
自分にはとつても甘い四捨五入
いい人でボクはピリオド打つらしい

東かがわ市 川 崎 ひかり

母になるよろこびを巻く岩田帯
孫二十歳よろこびを着る辻が花
豊穣のよろこび祝う獅子の舞
戦争がなければ昭和良き時代
ライバルが私の本気呼び覚ます

宮崎県 黒 木 栄 子

後々は二人小さなマイホーム
お独りの灯火消えて合掌す
人事の階段またも踏み外す
詮索はすまいいろいろ訳がある
唯一の孝行今は墓そうじ

北九州市 小 松 紀 子

あの世ではシナリオ通りに行くかしら
デイケアと病院通い昼寝つき
どうしましょついうっかりがふえました
とても幸せと思える時がある
足腰がすねているでも気は若い

唐津市 坂 本 峰 朗

母になりどうにか女性らしくなる
年ごとに妻への妥協多くなる
年下の妻がよろけている不安
頼り甲斐ある子が妻の右左
心配をするので唄っている風呂場

熊本市 杉 野 羅 天

栗の毬夏はね返す太り様
ぶとに吸われ一週間の戦いか
愛ありて扱く紫蘇の実の千本
浮いた身を落ち着かせてる栗の飯
タンク満杯海へ放出すると言う

熊本県 岩 切 康 子

理容中新ニュースだけインブット
新鮮が取り得と配る夏野菜
字の乱れ心は乱れておりません
教室に通い体力付けている
事情ありひと月遅れの歯科予約

札幌市 小 澤 淳

ぶつかって蛇行重ねた現在地
仕舞う場所あつて断捨離終らない
適地なるかな北海道のワイナリー
打つ手なく線状降水帯のバカ
万葉から続く57まだ飽きず

黒石市 石 澤 はる子

嗅覚障害コロナの置土産
ダンゴ虫翼が生えた夢を見る
ハンドルが過去へ過去へと切りたがる
節電節水エコ強いられる物価高
消費期限切れた笑顔を持ち歩く

(北山まみどりさん、稲見則彦さん、木田比呂朗さんは42頁にあります)

菠稜草の花

⑪

野 沢 省 悟

「川柳触光舎」主宰

閉めた戸をまた開けて見た消していた

成 田 雨 奇

謎めいた句。「何」を消したのか作者は一言も発していない。この何を作者は読者に問うているわけではない。共感してほしいのだ。戸を閉めて開けたこの単純な動作そのものを。きつと誰にでもあつたであろう動作、そして迷い。開け閉めした戸の小さな悲鳴が聞こえてくる。

大きな溜息はひとりのときに吐く

中 村 恵

溜息に大小があつたことによく気づいたと思う。そう思えば、ちよつとした溜息はしばしば目にするが、大きな溜息はあまり見たことがない。僕自身ふりかへつてみると、大きな溜息は人前でしたことはいはず。たつた一人になったときヒトは、孤独と同時に安心感を持つのかもしれない。大

きな溜息を吐くことは、その次に大きく息を吸うこと、そして一步を踏み出すこと。

夕立が過ぎて詩集を買う港

稲 角 優 子

きれいな句である。この猛暑の中、作者の胸には爽やかな風が吹いているのだろう。「港」は作者であつてもいいが、眼前に拡がっている港と思つた方がいい。夕立の後、港が詩集を買いカモメが舞い雲が流れる。それを作者はゆつたりと眺める。ここに猛暑は微塵もないのだ。

雷聞こえ待つっているのに遠ざかる

辻内 げんえい

頬がほつとゆるみます。僕と似たようなヒトが居るのだナアと思いました。作者はきつとアノ雷の音と輝きが好きなのでしょう。僕もそうで入道雲が空を覆い急に暗くなるどワクワクします。ところが期待したほど雲は湧かず雷は去つて行きました。少年の作者は小さく肩を落してしまいました。

ふと意地悪をしなくなったの天気雨

西 田 美恵子

雷の次は天気雨。これも僕は好きです、きつと作者も。サンサンと日が照っているとき、突然可愛らしく降ってくる雨。最近

は少なくなった気がします。空の意地悪とイイながら喜んでゐる作者。「ふと」にこぼれている微笑。

行列で待つほどの舌持つてない

妹 能 令位子

川柳人の鋭い眼。そうか並んででも食べたい人達は「舌」が違うのか。僕はいつも不思議に思つていた。例えばラーメン屋に何で並ぶんだろうと。並ぶ時間の方がもつたいないではないか。デモこの句で納得。「舌」が違うんだからしょうがない。並ぶ時間よりも句をつくつた方がイイと思う。僕と作者と、他にもきつと。

酷暑なり夏に初めて瘦せました

松 本 知恵子

暑いなあ地獄に住んだ気分です

寺 本 実

今年は本当に暑かった。それを象徴する椿事として、「痩せてしまった」。ウレシイようなコワイような。そして皆さんも思つた地獄のような暑さ。しかし、もしかして地獄の方が涼しいかも。なぜなら、赤鬼も青鬼もそして閻魔様も元気で働いているようだ。そうだ夏は地獄へ避暑に行こう。帰れるかどうかは別として。

誹風柳多留一三篇研究 39

伊吹和男・高野範雄

山田昭夫・小栗清吾

細井龍夫

清 博美

313 一長屋ではぼう丁で寐ずに居る

伊吹 正月用の吸い物のため年末に鴨の骨を叩く包丁の音で、一長屋が眠れずにいる、という解は疑問である。音がうるさくて眠れないのは、せいぜい向う三軒両隣くらいだろう。長屋の内の一軒で、出刃包丁が何者かによって盗まれた。その包丁を使った凶悪事件が起こりはしないかと、一長屋の住人たちは眠れぬ夜を過ごす。ミステリーの読み過ぎか。駄労解ですので、宜しくお願い申し上げます。小栗 私には、鴨の骨で十分腑に落ちる。表で叩けば長屋中に響きますよ。音がうるさいだけでなく、やかみもあつて眠れない。清 同。事件がましく詠んだのが見付け所か。

314 ばあさまとちいさま寝ればねたつきり

伊吹 若い夫婦なら床に就いてからも何かとあるが、婆さまと爺さまとは、ただ眠るのみ。

爺さん婆さん有ツたとさ六あみだ

一五三三〇

清 賛。

315 市戻り手おけをぬいでじぎをする

伊吹 浅草寺のが特に賑わった、年末の歳の市帰りの風景。市で買ってきた手桶を被って歩いていたら、知人に出会ったため手桶を脱いで挨拶をした。

手桶のあたらしきハ冠になり

拾五三

高野 賛。手に持てないほど買ったから、手桶を頭に被って運んでいる。

清 賛。絵があつてよさそうなものだが……。

316 琴爪八前の方からはへるなり

高野 指先からはめる琴爪を、前の方から生えたと表現したのである。(本来爪は元から先へと伸びるものだが、同じ爪でも琴爪のほうは先から元へと伸びてくる)。

当たり前の事を当たり前に。この解釈では何も面白くない。他の解はあるのだろうか。

山田 賛。普通とは逆だというのが面白いのでしょう。

小栗 賛。それだけの句。

清 皆さんが「賛」とされているから、小生が読み違えているのかも知れないが、礎稿の説明、腑に落ちない。

礎稿の説明では、指先からはめた琴爪が、指の股の方を向いていることになりはしないか。琴爪は、指の爪と同様指の先の方向に向いていなければならぬはず。この句でいう「前」は、指の先ではなく、爪の生えている方、すなわち、手の甲の方を背(後)とし、その反対の掌の方を「前」と表現した語ではなか

ろうか。つまり、琴爪は掌側の指の（腹？）の方から生えているという句だと思ふ。

普通とは逆だから面白いという句だが、それは爪の向いている方向ではなく、生えている場所が反対だという面白さである。

317 おさいせん内義むねからほじり出し

高野 「ほじる」は、穴をあけて中のものをつつき出す。隠れたものを探し出す（『角川古語大辞典』）。

落としてはいけないとかの理由で、お賽銭を袂ではなく胸元へしまったのである。それが歩いている間に、帯できつく締め上げている場所にでも落ち込んだのである。内義は必死に胸元から手を入れて取り出しているのである。馬鹿だな袂へ入れておけばどうって事ないので。

御内儀ハむねからしゆすをほじり出し

天元義2

山田 賛。でも「胸からほじり出し」とは面白い表現ですね。

小栗 ごく普通の光景を詠んだ句と思うが。お捻りにしたお賽銭を懐に入れておく。キチンとした着付だから、ほじり出すように見える。女性の着物は、袂が開いているから、財

布を入れたり出来ないのでは？

清 同右。別に締め上げている方に落ちたわけではない。ごく普通の行動。それを大袈裟にほじり出すと表現したまで。

318 銀させるおとし張りにはよし給へ

高野 「銀煙管」は、吸い口、雁首、火皿等の金属使用部分を銀で作った煙管。道楽息子象徴する持ち物（『新編川柳大辞典』）。「落張」は、キセルなどに、金銀の箔を上から垂らしたような形にかぶせること。また、そのもの。

「……には……」は、（断定の助動詞「なり」の連用形に係助詞「は」の付いたもの）……では。「あらず」「あれど」など、多くは否定または逆接の表現と対応する（『日国』）。

初な息子は銀煙管の相談を、先輩のドラ息子に持かけたのであろう。煙管は本物でなければ、銀箔は駄目だよと教えられているのである。銀張の銀煙管を持っていたのを注意されたとも解せる。

当世のきまりハ本田銀させる 明元仁2
銀させる銀のやうだとおやぢいひ 七30

山田 賛。両説共に成り立つ。

小栗 賛。先輩面した教え魔。

清 賛。本人は通人だと思っている先輩格。なお、この銀ギセルには若干の疑問を持っている。句は確かに「落とし貼り」と詠んでいるから、銀箔を貼ったものである事に間違いはないが、その多くは銀メッキではなかったかと考えている。まだ、詳しく調べてはいないが……。

319 神さびるはつ此頃はばゝあ舞

高野 「神さびる」は古びる。「婆舞」は神楽堂で舞っているのが若い巫女ではなく婆。

若い神子は、神楽を演奏する楽人としても駆け落ちをしたのであろう。代わりに婆が舞っている。見物客もへり賽銭も減った。それをさびると表現したのである。

とつとせぬ神子で神さびわたる也

安五松5

お袋が出て神さびる神楽堂

二六41

山田 賛。「神さびる」は、本来「神々しい」というプラスの意なのに、「寂しい」というマイナスの意を掛けた所がミソ。

小栗 同。駆落ち云々は余情。
清 同。動。

英語 de Senryu ⑭

麻生霞乃 『福壽草』 (1955)

英訳 吉村 侑久代 Kim Horne

園丁とおもてか猫がつきまとう

*imagining me a gardener
the cat is always hanging
around me*

箸うごく通りに猫の首動き

*chopsticks
and cat's neck move
in the same way*

imagine ~だと想像する *gardener* 園丁 *hang* 寄りかかる *around* 周りを
chopstick(s) 箸 *neck* 首 *move* 動き *same way* 同じ向きに

～リバーウィローのため息～ ㊤ ブルガリアを代表する詩人、デミタル・アナキエフ *Dimitar Anakiev* 編ブルガリア俳句選集『人間』 *human:an anthology of Bulgarian haiku* (2023 Red Moon Press USA) の序文と俳句を紹介(1) *俳句和訳: 吉村侑久代

これはブルガリアの俳句選集です。20世紀(*A)と21世紀(*B)に俳句を学んだ詩人たちの作品73句とアナキエフの序文が納められています。偶然かどうかは別として、ジム・カシアン(*米国俳句詩人・Red Moon Press 出版)と私(アナキエフ)は2000年に、ブルガリア俳句クラブの設立に関与しました。ちょうどその時は両グループの分岐点にあったと言えます。Aはインターネットの影響を受ける前に、すでに俳句を書いていましたし、Bの活動は、主にインターネットの媒介が特徴です。Aの特徴は、俳句情報に関する情報へのアクセスが少なかったことです。このことは文学の形式に関係なく、作者の完全な自由な形式でアプローチしたことになりました。一方でBはインターネットへの接触によってもたらされる方向づけが示されました。その活動は主に英語を中心とした俳句文化に左右されてきました。

A human lives and dies

however well he fares-

and another is born.

衣食十分であれど 人は生き、死ぬ—そして新しい命が生れる *Khan Omurtag(IXc)*

Sand...

A former stone

That targeted someone

砂— 元は石 誰かを攻撃したのさ

Blaga Dimitrova(1922-2003)

川柳句集『檸 檬』

橘 高 薫 風

人生譜柳は日々の風を見す
春孤独眼鏡はずせばなお孤独
春風の帷に吹くごとき懸想かな
春愁の最たるは鳥齒を持たぬ
春惜しみおりひと言で事が足り
愛恋の錆は何色桜桃忌
地の果ての如山頂を引き返す
金柑は皮を食わるる四月馬鹿
卒業へまだ頁繰る雲雀の声
苑の鶯鳥のよちよち歩き卒園す
入学へ畳を歩く新らの靴
妻よ子よ水の深さが臍を越す
魚屋の魚いろいろ妻が病み

子の寝顔汝が父母多くあやまてり
草餅へ墓を並ぶる死後の縁
掃苔の母の目まいが娘にうつり
墓の前刻去るままに去らしむる
立ったまま眠る。ペンギン迷亭忌
わが影の障子の影も香林忌
故郷に残る切株悔のごとし
獐猛な熊が歩けり内股で
元旦やわけて四十と云う齡は
除夜過ぎて机上湧きくる泉あり
木の实彫りおりと見てあれば鶉
おとがいへマスクをずらす赤電話
灯を消せば弥勒女菩薩毛糸編む
一茶忌の赤林檎より青林檎
木犀の香に天照大神
失恋にポストの色が変えられぬ

自選集

小島蘭幸

新井マジックほらCSが見えて来た
孫と見た映画「クレヨンしんちゃん」に泣いた
句碑めぐり島を一周したバイク
努力と書いてある鉄人のサイン
サムライが消えたライバルが消えた

北野哲男

脊柱管狭窄症のオベ卒寿
縫合はせずにテープで貼り合せ
リハビリはオベの翌々日から開始
オベのあと健啖な胃に感謝する
体力があつて入院十五日

木本朱夏

ラ・クンバルシートを踊る金魚たち
癒し系猫の悪さに目を瞑る
長いもんに巻かれしゃっくり止まらない
可愛げがあつた昭和の不良たち
八十の手習い墨を摺りながら

新家完司

モンゴルの岩塩が効く夏疲れ
素うどんを高級にする刻みネギ
別嬪になつた隣の子が嫁ぐ
自叙伝の隅にあれこれ正誤表
肝臓のあたりなでなでして眠る

高瀬霜石

平均寿命たんと短い飲み仲間
老朽化言わずもがなのことである
しみりとしていられないご焼香
寿命だと割り切るほかはない遺影
死んでから花に囲まれたつてなあ

津守柳伸

朝ドラの活気一日始動する
キャンセルを待った甲斐ある万座の湯
水やりの度に蚊が来るテレパシー
天国にふっとかけたくなる電話
柳友のおだてに乗っている元氣

西出楓楽

人さまざま元をたどればみんな猿
花々の律儀季節を忘れない
はばかりさん言われ終日あたたかい
マトリョーシカ心痛めているだろう
免疫不全乗り越え強く生きよ孫

仁 部 四 郎

ネクタイを奥様が決め月曜日
火曜日に3連休のシワが寄る
新書版に葉をはさむ水曜日
トンカツの日です第3木曜日
CMのハガキ一枚金曜日

平 田 実 男

黙祷で浮かぶ元気な頃の君
だんだんと仏の顔になる白寿
出た物は残さず食べて喜ばれ
最後にはやっぱり校歌クラス会
運が良いだけでは取れぬ金メダル

福 士 慕 情

津軽残照チンチロ虫が鳴き出した
野仏の簪となる秋あかね
台風の進路気になるリング圏
稲刈りが十日も早い温暖化
日溜りで羽根を下ろした鬼ヤンマ

藤 村 亜 成

コロナ感染もう誰も気にせず
うろこ雲空を遮り慈雨予兆
謝ってくれたので腹の虫消える
地震も自信もぐらりとして揺れる
淋しくなると食べ嬉しくなると呑む

松 本 文 子

水色の世代夢の引き出し持っている
誰も居なくなつた後を振り返る
のんびりと生きよう心を軽くして
歩道の掃除終り今日をありがとう
私は私ビフテキよりも玉子焼

三 浦 強 一

指だけが知ってる約束の日時
まだ見付からぬ目の前の探し物
酷使した訳ではないが弱る脳
佳句読んで脳細胞に水をやる
余命数この一時をいとおしむ

三 宅 保 州

もう歳とまだ若いとを使い分け
神仏のご加護に感謝して長寿
背伸びしてみても天まで届かない
天寿全う本人もそう思うのか
村起こし蛙も同意しましたか

村 上 玄 也

五感みな鈍って暮らし味気ない
年毎に暑さ寒さが身にこたえ
この猛暑老いの体力削り取る
大国のエゴが世界を掻き回す
独裁者に歯向かうものは事故に遭う

森 山 盛 桜

外れかけた籠が命だとしたら
身を低くして生き残る綿埃
燕も僕も秋色の中に居る

鏝で繋ぎ切れなくなってきた
この頃の病院食は旨いのです

山 本 希 久 子

足腰弱りそれでものぼる八十路坂
人生の秋 日暮れて道遠し

以心伝心するにはスマホ冷た過ぎ
忘れものばかりと探しものばかり
引き返せぬ道を歩いている米寿

居 谷 真 理 子

ちちははのいない故郷の水の味
心太ひと突き海を召し上がれ
ヒトとして生きているので服を着る
儲けにはならんが黄金の田圃
米醸す酒不味かろうはずがない

川 上 大 輪

眩きがはやきに変わる空模様
降ってきた長い話になりそうだ
終着を過ぎても延びている線路
四コマ目廻りで脈が早くなる
呼吸するたびに税金取られそう



(つづき)

黒石市 北 山 まみどり

今さらの一念発起ジム通い

握力良好みじん切りならお手のもの

流行に負けてはいないストレッチャ

ランニングマシンに遊ばれて日暮れ

魅せること見られることの難しさ

弘前市 稲 見 則 彦

宇宙人の熱波銃には敵わない

母の味コンビニで買う夜勤明け

別人が出来あがるまで待たされる

肩を寄せみんな地球に住んでいる

母ちゃんの大丈夫には裏がある

塩竈市 木 田 比呂朗

年末はすぐだと霜月の暦

キッチン妻へ勤労感謝の日

初雪の便り待つてるスニーカー

卵かけご飯の朝餉久し振り

熱燗に秋の終わりを教えられ



森の集句

『望郷』

落^{おち}合^{あひ}思^し月^{げつ}

ふるさとの水車止まったままに朽ち
 どちらかが折れるともなく老夫婦
 憤然と帰れば妻が留守であり
 子供部屋ある日の父が小さくいる
 子の歌に妻も合わせるピクニック
 庭下駄の父が驚くカクレンボ
 野次馬の割に喧嘩が小さすぎ
 夕刊と一緒に勤めから帰り
 なべ底の景氣を笑うフラフラ
 回復期今朝も小鳥に餌をやり
 頬杖の思案をみだす虫が鳴き
 わだかまり解けず柱に寄りかかり
 ゆるがない決意静かにお茶を入れ
 ひまわりを洗ってくれた通り雨
 そこらまで秋が来ている井戸の水

(昭和52年9月15日発行、こまつ川柳社)

温故知新

田中正坊川柳句文集『ペンシル』から

如月や澤地久枝の調査メモ
 玄関を土足で通るテロリスト
 時々妻にも言おうありがとう
 耐えているのは男かも知れないぞ
 古希すぎて閑日月を友とせず
 長湯して一句消えたり浮かんたり
 片付けたところへ孫がやってくる
 ビッコロを吹く少年と空の蒼
 年の功 見えないものが見えてくる
 消去法 消し忘れてた私の名
 訳あってわたしは女性恐怖症
 女子大に求人が来た四月馬鹿
 制服の大学生に遭う不気味
 目を洗う心をあらう本に逢う
 負け犬の生涯だっさいいんだよ
 風船の軽さよ ちちもははもなし
 人間のことがいちばん分らない



川上大輪選

大阪府 岡田 恵子

風評にびくともしないカニ風味
留守電にポツリと母の独り言

蠟石で描いた線路はどこまでも
追いかけた夢が逃げ出す非常口
哲学の道に屁理屈おいてきた
墓場まで持つて行く嘘ふえてゆく

広島市 森田 博之

秋風が残暑部分を食べている
セールの電話相手に暇潰し
選挙後は下げた頭の高止まり
百円は何度貸しても返らない
仏壇が近所の噂聞きたがる
八十坂は寄り道たんとしなしゃんせ

三木市 山口 ヨシエ

満月と昔話を饒舌に
冷静になつて紅さすコロナあと
流れゆく刻に寄り添いひとり膳

ゆくりなく夕陽眺める秋の海
免許返納図書館遠くなりました
観自在父よ母よと鉦叩く

神戸市 米田 利恵子

アルプスの水夏バテの胃を洗う
水の旨さ毎朝ちがう胃の調子
賑わいの分だけ増える洗う皿
テレビの中ブーチンの顔睨んでも
ポチの欠伸 我が家の平和知っている
若さ保つ薬やつぱり嘘だった

大阪市 中村 民子

老けないよう暮らす秘訣は笑うこと
体力も気力をも奪った猛暑
白髪染め鏡見るたび迷いだす
裕福ではないが事が足りている
老いたかな思い違いが多くなり
もやもやを書き出し心落ち着かす

大阪府 奥野 健一郎

負けつぷり堂々として愛される
平凡で居ればいいのに高望み
無駄話ムダではないよ潤滑油
拔擢の椅子のまわりが騒がしい
片付けを僕がした後妻が見る
見ぬ振りをしても見てゐる後ろ楯

神戸市 村松 久江

言い掛けたひと言今も胸の底
言い訳が脆く崩れる音を聞く
飲み込んだ言葉態度で返します
今ここは長い老後の何合目
握力を鍛えチャンスを掴み取る
傷跡を笑い話に変える風

河内長野市 三輪 くにお

夏に焼き冬にシミとる肌手入れ
モンゴルの国歌も欲しい大相撲
ラグビーのボールの軌跡桂馬跳び
億年の雫のアート鍾乳洞
還暦を若いと言え傘寿なる
檜山に行くぞと買ったスニーカー

鳥取県 田中 重忠

生きた証し手垢の染みた鍬がある
不機嫌な私を睨んでいる鏡
欠伸するたびに寿命がへってくる

ここだけの秘密ききたいロバの耳
九十六大怪我しても生きている
人生を飾る一句が出てこない

山口市 中前 幸子

太陽きらきら前頭葉が情眠する
アラビアンナイトが好きな夜の風
雨上がりふと目が合ったかたつむり
回転木馬で秋の恋人やつて来る
満月を浮かべてさざ波の詩情
星降る夜は銀河鉄道発車する

和歌山市 倉橋 悦子

蝉がらが落ちて残暑がまといつく
神さまが時どき覗くから困る
残暑って肌を差すほど痛いです
笑顔ってこころ彩る趣の魔法
ニュートラルそんなところで生き伸びる
今日泣いて明日笑ってご破算か

高砂市 裕木 るい

伸び悩みそろりそろりと蔓を出す
来た道は幸か不幸か真つ平ら
正直に言っていいなら嫌いです
好物は他人の粗を探すこと
蝉時雨ライバルがいて頑張れる
誰からもライン着信無し寝ます

富士見市 中 島 通 則

タイガース「今年こそは」が現実味

風評も希釈させたい放出後

可能性一つずつ消え老いていく

ドア閉まる走る気も無い老いの足

言い訳が上手な人の四捨五入

船橋市 中 嶋 常 葉

駈け上がる螺旋階段から笑い

いっぱいあります まだまだ注ぐ愛

振り向いてくれないじれったい程に

無人駅おとし話をおいてくる

最後まで言えなかったわさようなら

東京都 尾 畑 なを江

キッチンに冷房あつてありがたい

突然におじから遺産来ると言う

知識にはテレビとスマホ有れば良い

掃きと拭きルンバ人より利口だね

淋しさは知らず知らずに独り言

豊橋市 小 松 くみ子

この夏の草の伸び方早いこと

入道雲ムクムクしたら御用心

苦瓜の芸術的な面構え

ひとつずつ呆けへの不安増えてくる

もう少し濃い目がいいなコムラサキ

和歌山市 北 原 昭 枝

一直線迷いはないと飛行雲

置いて来た鏡の中にある若さ

梯子した遠い昭和の映画館

同じこと何度も言って確かめる

それなりの楽しみ見付け夕茜

和歌山市 定 松 宏 枝

虫の声今日は耳鳴りおとなしい

人生は修正液の跡だらけ

行つてまた戻る店先秋刀魚の値

本当の自分は寝ている時だけ

友人の常のやさしさ生きる糧

和歌山市 佐 藤 ま き

友情の今年も届くただちや豆

芋煮会今年も参加出来る幸

あと何度歳を数える里の味

年毎に若返る会頼もしい

ようやくに秋風庭に虫集く

和歌山市 西 川 千 鶴

イケメンに見惚れてバスに乗り損ね

ラスイチのサービス品に猛ダツシュ

蟻の列何だか涙出てきちゃう

午前二時月とお話出来そうだ

デパートのブランド店は別世界

和歌山県 三 枝 眞智子

感謝感謝の日暮らし楽し手を合わす

コッペパンはおぼる老母の満足気

何事もくよくよせずにケセラセラ

断捨離へ思うようには捗らず

新聞を読んで一日始動する

大阪市 尾 崎 文 子

様子見てマイナーカードそれからだ

趣味の虫おかげで歳を忘れてる

どうしよう外人の横空いている

外人に大阪城の道聞かれ

大臣が事実を言ってしかられる

大阪市 久木野 孝 治

サーカスに売られんように早よ帰り

長い夜二時三時四時やつと五時

焦るほどラップの切れ目ありません

電車はな遠足の時だけやった

一人ぼち北極星が霞んでる

大阪市 白 谷 よしみ

切手はる母の指には米粒が

待ってますポストの肩をひとつポン

何かある刺がある人抜けた人

小指には泣かされた過去捨てた過去

蕎麦こねて理屈こねては食べる蕎麦

大阪市 田 原 康 雄

顔見知り名前知らんが手は上げる

付き出しのビーナツチョコで番を待つ

23曲歌えば声もピンク色

デュエットはママと歌える昭和歌

馴染み店馴染みの客の声に惚れ

大阪市 鶴 田 寿 子

雲ならば心変わりを許される

五臓六腑リフォームさせて秋になる

実る秋体重計を買い換える

夫婦で擦り合う記憶力の低下

ここも売物件街が淋しいね

大阪市 松 田 聰

どしゃぶりの雲の向こうはきつと晴れ

幸せがおもしろさには追いつかん

暗い記事避けず新聞読んでいる

終っても帰らぬファンの有難さ

スポーツは下駄をはくまでわからない

大阪市 森 田 遊 子

バチアタリなのに晩鐘の絵が好き

ローズマリー植えて私を消しておく

シルエットからまず歳をとる不覚

カタツムリおまえも殻を捨てたいか

七十五少し大人に近付いた

大阪市 吉 積 栄 次

柏原市 神 崎 江

オブラート包んだ言葉投げかける

長雨の残像消しにボランティア

故郷のホームに降りて深呼吸

とりあえず幸せですと言っておく

転げ過ぎ入院している達磨さん

池田市 倉 本 一 弥

食洗機老いには高価手で洗う

料理かけ出し量りタイマー手離せず

カオスの時代 平和な世界来るだろうか

手術終える明日朝の風触れたいな

泣きごとと言わん大黒柱だからです

泉大津市 葛 城 隆 雄

甲子園熱闘余韻今もなお

にわか雨一服の涼有難い

迷わずに進んだ道で今が有り

気にかかる心にトゲのある言葉

このお題ペンと頭が一致せず

泉大津市 助 川 和 美

ゴキブリの命を奪う新聞紙

すぐ落ちる線香花火にものたりず

不景気と暑さぶつとぶギヤルみこし

韓ドラにはまり時間を盗まれる

石段を見上げて無理と膝が言う

反戦を無言で叫んでいる瓦礫

遣伝子の証挾鏡の中に見る

誰にでもキラキラしてる時がある

占いの良いとこだけを信じてる

冷蔵庫ビールグラスも仲間入り

交野市 山 野 双 葉

証挾などなくても分かる妻の勘

モヤモヤを吐き出すための深呼吸

拾う神に私もなれる譲渡会

夏旅の当選はがき亡母宛てに

声と手と脚震えるが元気です

吹田市 西 沢 司 郎

太陽の怒りに触れてこの暑さ

人生の終着駅が見え隠れ

筋書きを辿ってみれば知れる過去

結着をつけて退きたい趣味の道

難題を残して歩む峠道

高槻市 三 谷 白 黒

墓まいりマツチ使えぬ孫でした

アラートが出てもやつてる野球です

子と共に親も嬉しい夏祭り

耳遠く時間がかかる老人会

AIが何をしようと法が無い

豊中市 貝塚 正子

子と離れ独居老人ボケられず

フランスの雨にぬれるも旅土産

秋祭枕詞は四年振り

マスクはずし鼻も季節を取りもどす

大吉が出るまで引きたい受験生

豊中市 齋藤 奈津子

墓参り経と輪唱きりぎりす

蚊と思ひ何度も叩く腕の染み

倍ほどに底上げされた土産菓子

カーナビがこの辺りだと放り出す

盆ちようちんキラキラネーム増えてきた

羽曳野市 黒木 ひとみ

ノーゼンカズラ主の如く屋根で咲く

祖父母らの慈愛の深さ今に知る

水田も恵みの雨を待つ猛暑

ピーピーと終わりを告げる洗濯機

体温を越える暑さに耐えた夏

東大阪市 青木 隆一

やわらかな言葉で針を刺しています

祇園まち女同士の固め酒

漬物の石もあれこれ二百年

本音など年に二度しか言いません

ちらし寿司食べに烏丸あたりまで

大阪府 浦上 恵子

鈴正す月に見られている私

先輩の言葉後日に落ちてくる

レシートに私の暮らし透けている

曲り角会釈ひとつで風緩む

来し方もそれぞれ有りて趣味の会

大阪府 高木 道子

免許証三年分の重みかな

サバイバルゲームだ医者のはしごして

賑やかに病院行きのバスが出る

秋夕陽すんと山にのめり込む

もうマスク外し言うべき事は言う

神戸市 青木 公輔

半額のここにも有った但し書き

一粒も残さず平和のめしを食べ

幼稚園の友が本当の友達だ

先生と呼んで上手にこき使う

釣銭は合ってる認知症ゼロだ

神戸市 酒井 宏

いい朝だ六甲山も大あくび

スーパームーン仰いで軽くなる心

妻は留守無聊慰む五七五

腰痛が散歩の脚を鈍らせる

台風も酔っているのか千鳥足

神戸市 濱口 祐一

20歳以上かわざわざ聞くなこの爺に
末席で黙っておればいいものを
放っておけその内世間が忘れよる
ただの水売りものにした名づけ親
狭い家妻は一人でちょうど良い

神戸市 みぎわ はな

標準語ナンデ東京弁なんや
女は強し誰も送ってくれぬ夜道
祭り笛吹きに出て来る引き籠り
カーニバル踊り狂えばウツも消え
熱波台風地球ホトホトくたびれた

神戸市 山根 弘華

冗談を本気に受けて軽いうつ
老樹でもその内きつと花が咲く
悩まない心のゆとり保つ知恵
昭和からいつか消えそな戦後の字
雨だれが淋しささそう深い夜

尼崎市 八木 幸彦

身の丈を知って小さな夢を持つ
どうしても思い出せない五分前
母校には残したままの悔いがある
人生も最初はアウトコースから
タラレバの世界で真実を探す

尼崎市 山本 百合

収集がいつの間にやらゴミ屋敷
リハビリを重ねて立てた泣き笑い
乗り出して話聞く指動いてる
先々をどうしたいかとノックされ
亡母の歳越えて目標少し足す

小野市 藤原 泰宏

遠花火音が後から届く夜
目覚め良い朝はヤル気が湧いてくる
草刈を待ってた様に鳥が来る
十五分昼寝で午後也快適に
精検が気になり作句儘ならぬ

加古川市 石賀 邦子

延命は御免蒙る曼陀羅華
神様の留守の間の秋祭り
夕焼けが美しすぎてジ・エンド
すらすらと二枚の舌が嘘をつく
カーナビに言い訳をして別の道

三田市 幸田 厚子

好きな赤付けて陽気に弾きたい
おとし紙知らぬ家族の三世代
深い皴写真くつきり嘘つかぬ
ほどの良い付き合い酒の自己管理
形見時計父も聞いてた時刻む

三田市 野口 龍

画家のまね絵になる景色探す旅
五百羅漢亡父に似た顔ありました
遅咲きですが確実に生きてきました
ゆつたりと男の美学査定され
どう見ても後姿はさぼってる

三田市 森 玲子

時々は思い出たぐる古写真
台風にお盆の予定狂わされ
寝転ぶと必ずいつも側に猫
主婦にもほしい週休二日夢の夢
夕暮れの月と一緒にウオーキング

高砂市 松尾 柳右子

ダイケアの車行き交う夕餉どき
寝て食べて歩ける幸へ口達者
答弁は避ける米寿の壁がある
暑さには負けぬ意欲を持ちつづけ
カラオケに大声出せる健康法

丹波篠山市 河南 すみえ

一人居て野菜沢山ご近所に
いつまでも昭和懐かし夢みてる
よい天気試歩の杖つく城下町
買ったはず買ってなかったあらラララ
十八番です赤飯 鯖寿司あと内緒

生駒市 饗庭 風鈴

さあ船出今が潮どき旗を振る
羅針盤ときめく方へ舵をきる
迷子札涙の海へ捨ててゆく
骨盤を起こして生きることにする
お遍路のひたすら歩くまわり道

生駒市 永田 美美子

真つ赤な秋満喫をするにぎり飯
散り際の銀杏並木にピエロ見る
口だけは達者かしまし姥桜
ほろ酔いでへそくりの額つい洩らす
道の駅おサイフ弾む国訛り

奈良県 室田 行久

年金日贅沢します回る寿司
嘘つきは所詮泥棒以下の人
飴ちゃんが繋ぐ浪花のマンパワー
不思議から気付く法則生む科学
いやだった見合いの伴侶宝物

広島市 田 桑 恵子

時時チェックマイナカードの仕舞い場所
子の任地天気予報をつい見てる
朝が来たまずは金魚におはようさん
暗闇にコンビ二見えてホッとする
手帳見る書いてある字がわからない

広島市 松尾信彦

盟友のピンコロ誉める縄のれん
ほどほどでいいと手堅く平均値
二人酒人の噂という珍味
レジの前妻の笑顔が消えかかる
途中下車心変わりを悔しがり

尾道市 村上和子

夏バテの身体にやさし秋の風
秋深く自問自答を繰り返す
じつくりと我と向き合う秋の本
ねだるカラスに餌をやる困り者
空気は読まぬあつけらかんと私流

福山市 新庄芳春

熱帯夜私を干してどうするの
元気ですカロリーゼロで夏を越す
カレンダーめくれば秋の定期便
妻入院孤独のグルメ10日間
晩成を信じて生きる八十路です

鳥取市 上山一平

落書きもシャッター街の文化財
やっと秋芒も揺れる河川敷
懸崖に見とれて香る菊花展
腰痛をいたわりながら草退治
種子蒔いて草との戦終りけり

鳥取市 大前安子

幼子ヘトーンそれぞれ絵本読む
ブライドはもうありません難聴度
秋の風仕事の意欲連れて来た
人は人思えどいつも片目開け
遣されて生きることへストレッツ

鳥取市 佐々木静恵

広告のおせち暑さで傷みそう
誰も来ぬ暑い暑いと叫んでも
ブライドが喉に刺さって生き辛い
返納後役目を終えた広い車庫
品物はあるが買いたい物がない

鳥取市 狭武紫陽

広いから寂しくなってしまう部屋
ひと眠りしているうちに過去になる
扇風機だけが素直に横に居る
仕返しは白身しかない目玉焼き
もらった裾分けしたり笑い声

鳥取市 山野すみれ

名月を雲はやたらと邪魔をする
めきめきと子等は遠くへ泳ぎ出す
握手する手も撥ね除ける手もここに
人生の希望の枠は残しとく
皮一枚めくってみれば違う顔

倉吉市 若松 由紀子

猛暑でも食欲だけは衰えず
花火より熱いカップル気にかかる
口が上手い他に取り柄のないあなた
イメージした我が人生に落し穴
還付金上手い話に慣れました

松江市 椿 豊仙

軽やかに口先だけは達者です
補聴器も気に入らぬこと聞き流す
流行の波を拒否する老いのエゴ
捨てゼリフ吐いて逆風モロに受け
雲行きが怪しくなつて口つむぐ

津山市 高橋 由紀女

頑張れとラインメールのくるばかり
気になった事から順に整理する
カード一つ便利と言つて誘われる
お下がりの服も満足する案山子
年相応言われて安堵骨密度

美作市 岡本 余光

時代遅れ生きる障りにはならず
ライオンが強く見えないクレヨン画
川柳の柱を捉えて揺るがない
自分史を書く価値観がない私
天命の莊重じわり老境に

佐賀県 真島 久美子

秋時雨いつものように笑えない
そんな目で見ないでほしい秋の虹
曖昧なコトバ発酵してばかり
伊勢海老かロブスターかを迷いたい
備忘録一冊だけの月明り

那覇市 禰 モモト

あの日から勇気づけられ川柳に
気落ちして言葉の力奪い起ち
健康の有難さ知り病人は
百均に二百三百円値札
温もりの届く句集に感動を

豊見城市 あら さくら

咳払い視線感じて遠ざかる
八十路坂ひざをなでなでウォーキング
物価高残り物にもひと工夫
ガラス越し私の中の色模様
定年後涼しい風が吹きぬける

弘前市 小山内 真由美

何ひとつ変らないまま剥くトマト
お弁当季節をひとつ入れてみる
受け入れる捨てるはきつと常備薬
睡蓮花夢の続きは水の中
仮定形心が軽くなってきた

横浜市 巖田 かず枝

瘦せた身に低反発の敷き布団
魚好き迷ったあげく肉売り場
人間の嗜好は時に罪深い
地図替えて私の国と言われても

海南市 山中 閑

遠い日の這って渡った太鼓橋
継ぎ足した老舗のたれは好きな味
一年ぶり歳とったなと呟く子
帰省子ら日ごと料理の腕自慢

小田原市 虎澤 昭久

車窓から振れぬハンカチああ昭和
雨音に老いの足音かき消され
晩酌のここに幸ありらつきょうよ
幸せも無聊をかこつ日々が増え

京田辺市 加山 勝久

バレンタインきれいな箱を持て余し
インバウンド水着着たよう街を行き
赤字予算打ち出の小槌再度振り
聴く耳は相手次第で作動せず

神奈川県 小田 幸子

大阪市 池野 恵美子

遠い視線大座して待つ好きな人
歩み寄りためらいがちにお手をする
線香のブタと並んで犬眠る
休暇ですパパの車に集合だ

御先祖に幸せ家族見せに行く
盆踊り八十路の友にある色気
長すぎる喫茶占拠の四老婆
テレビ見ても意味の解らぬコマーション

東京都 宮田 栄子

大阪市 今村 和男

無人駅迎えは案山子青い空
山深いマタギの里で熊鍋を
秘境宿山の恵みに感謝して
ノロノロと台風じゃなく私です

夕暮れのサンマー匹茶毘に付す
スーパードサンマと鯛を見比べる
半額の夢を無くした目刺し焼く
ビールよりお酒が良いと目刺し言う

和歌山市 まつもと もとこ

大阪市 阪本 秀子

ギブ&テイクで続く夫婦仲
キラキラと孫の名前は光ってる
野良猫は野良猫らしく笑う夜
わたしの匂い彼の匂いが混ざる本

好奇心旺盛い胸が熱くなる
あつたらしいね折り合い譲り合い
私を鼓舞するこらしよどっこいしょ
天の父母菩薩の顔でやってくる

大阪市 滝井 えみこ

泥棒にお茶だしそんな母でした
ふるさとは微かに香る青畳
笑うツボついていけず茶をすす
七並べ母の具合を押し推る

大阪市 中村 峰子

無理言えるわたしの友はわたしだけ
わが生命誰のものでもないらしい
手がしびれ大事な器さようなら
若みえを願わないから楽ちんだ

大阪市 原 幸子

けがれない夕焼け落ちて深呼吸
若さ眩しい老女が踊る夏まつり
白寿の母のさほど差がないタイムラグ
他人の愛をいっぱい持つて生きている

大阪市 前川 善之

大黒の掛け軸見つけ展示会
天災で多くの人が泣いている
日本人なら一度は登る富士の山
九月でも暑い暑いと嘆く声

泉佐野市 樫葉 良子

まあええかみんながそれでいいのなら
どうしよう嫁が私の真似をする
渋柿も干されて甘くなるのです
着古した和服で作る粋な服

河内長野市 穂口 正子

茹だりそう犬の散歩も命がけ
譲られたと二人同時に座りかけ
ちよい惚けで拘り忘れ気も軽い
山河越え肩の凝らない仲となり

摂津市 荻布 律子

買い物で苦手な店員迫り来て
便り来たカップラーメンでできる間に
人生は解らないから迷走し
久しぶり友のベディキュアはつとして

摂津市 野々村 レイ子

悩み事豚マンかじり高笑い
腹の虫さえも泣けずに膝を抱く
初めてを楽しんでる古稀の恋
信濃路に恩師の教え想い出す

阪南市 藤岡 笑三

待つ間行き交う人の品定め
振り向けば障子の穴と子の笑顔
父上が母上に言う丁寧語
雷鳴にかわず驚きバックテン

藤井寺市 松井 正義

値上りと暑い暑い口にはせず
目の前に食べ物くればまず写真
コロナより夏の巣ごもり身にこたえ
無精ひげわざとマスクで顔かくし

松原市 吉野 一心

かかあ天下たかが家来は俺一人

白黒はつきり白という字も墨で書く

根性は握り拳の中に有る

人と比べないで自分になれる夜

八尾市 田邊 浩三

AIが人間社会リードする

曾孫が字を書き出した驚きだ

耳不便便利な時もある社会

耳鳴りの無い朝蟬もお別れか

神戸市 石川 克美

蟬さえも涼しい所搜してる

体調をくずし日頃の有り難さ

神などは信じてないが手を合わす

献金をすれば救われると思う人

神戸市 田本 古鈴

ウイスキー甘い平和を紛らわす

七十歳白髪隠しを恥じている

夢希望古いバッグの中にある

今日の身は拙く過ぎて明日こそ

小野市 田中 辰夫

密封のつもりが漏れる人の口

四年ぶり孫が顔見せ出る諭吉

のほほんとするな時間は止まらない

鯛よりもさんま鯛が喜ばれ

三田市 生田 えい子

寝る起きる一畳で足りるこの身体

左遷地へ妻に詫び入れ新住居

緩む皮シップ貼っても波は打つ

庇貸し父はひっそり離れ住む

三田市 辻 開子

トイレ終え眠れぬままで夜が明けて

しんどいが両親介護気がぬげず

草むしり猛暑老体負けました

最近はおきざむ音遠くなる

丹波篠山市 澤 良子

動くこと誰にも負けぬサツサツサ

夏野菜世話をした分答えだす

種を蒔く畝まっすぐに腰曲げて

お布施とは天国行きの前納金

西宮市 高瀬 照枝

負けないで今日の無事こそ明日つなぐ

道端で久しぶりやね笑う無事

ばばひとり食料そろえ作り置き

娘は帰る赤飯だんご愚痴も置く

西宮市 高橋 千賀子

台風がお盆休暇をかき乱す

熱中症おもえば安い電気代

猛暑に堪えた老体に感謝する

手頃でも躊躇するひとりのランチ

竹原市 土井輝恵

スーパームーンこの世去る人生きる人
灯籠流し亡姉は海へと消えました

「要らないものありませんか」TEL何度
風呂掃除した日態度がでかすぎる

府中市 岸田武

すくつと立つ向日葵だからいいのです
あらぬこと叫びたくなる暑さなり
高かった秋刀魚だろうと箸をとる
目刺し口あけて夏痩せの僕がいる

三次市 伊藤寿子

同窓会と聞けば衣装を先に買う
きんきらの衣装鏡に歌手気分
オットドッコイわたし病気を忘れてた
丁重に不参加を言う胸の中

倉吉市 宮田風露

秋茜垂れた稲穂の上を舞う
鳩時計三時に鳴いて気怠そう
赤い服着ると腰までしゃんとする
百歳に思いを馳せて生きる今

米子市 川本美津子

のんびりと雲が動いて秋の空
猛暑日は手抜きをしてる夕御飯
他人の目気にする事もボケ防止
退職後おしどり夫婦は見かけだけ

松江市 相見柳歩

はんやりのぼの字あたりで寝てしまふ
投げる打つ見事に結果のこす奴

暇そうに見えて必死に思考する
ヒマ人と呼ばれるうちに大作家

松江市 中筋弘充

ふるさとに戻ってくれたオニヤンマ
褒められるとついつい奢る癖がある
モナリザは私に惚れているようだ
シユレッダーの切れ味悪い公文書

松山市 郷田みや

満月を見ながらシャインマスカット
無花果のプチプチ秋はすぐそこに
心当たらないのに突然の正座
ご自由にどうぞと増える庭の草

宮崎県 恵利菊江

台風に負けず鳴いてる蟬の声
空に虹夫を呼んで見せてやる
暑いから力抜いてる金魚草
おっかない顔してさわる鬼蜻蛉

唐津市 前田廣幸

カタカナ語覚えきれない戦中派
興醒めもしますニュースもAIが
新札で終活さなか「諭吉」さん
月の兎嘆く地球の温暖化

令和5年度 路郎賞



大阪市

宇都満知子

鬼嫁のパッキン緩くなってきた

無造作に転がってたな親の愛

本当は自分を癒す墓まいり

助っ人に亡母の指輪を連れていく

吊り橋が心にあつて揺れている

この度は身に余る賞を頂きました。

驚きと同時にまだまだ力不足の自分に身が竦

む思いです。ご指導を頂いている先生や先輩の

皆様の御蔭です。感謝しています。これからも

精進いたします。

ありがとうございます。

柳歴

平成二十四年 川柳塔すみよし入会

平成二十五年 川柳塔 誌友

平成二十七年 川柳塔賞受賞

川柳塔 同人

令和四年 各地柳壇賞受賞

路郎賞準優秀作第一席

今治市 永井松柏

爛漫の春へと弾むオノマトペ

母の忌に愛した胡蝶花が咲く

ああ言えばこう言う2色ボールペン

抜かれたり抜いたりヒトも競走馬

無人駅に降り立つときの無重力

路郎賞準優秀作第二席

黒石市 北山 まみどり

思い出のひとつにどうぞラムネ玉

シンデレラ日付はとうに変わったが

少しだけ楽しみ方を知ったから

まだ飛べるそんな気分の水たまり

ときどきは風の温度を確かめる

路郎賞準優秀作第二席

高槻市 初代正彦

棄てようとしたら邪魔する影法師

ウイズコロナ如何に暮らそう鬼灯よ

散らかしたままの部屋にもある規律

平凡なぐらしなによりではないか

子ら寄れば春の土鍋も嬉しそう

令和5年度 路郎賞得点表 (応募総数97名)

1位 = 5点 2位 = 4点 3位 = 3点 4位 = 2点 5位 = 1点
(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸			1			2							3	4	5
新家 完司						1	2	4	3		5				
木田比呂朗							4				2	1		5	3
関本かつ子		3	2	1									5		4
鴨谷瑠美子	5	4		2								3			1
原田すみ子			3	2			4					1	5		
山野 寿之			1				2		3					5	4
吉村久仁雄			5								1	4	3		2
安土 理恵	4						2		3			5		1	
梶谷 和郎	3		1			4	5							2	
岸本 宏章	5		3		1								4	2	
工藤千代子	3			4			1	5					2		
杉野 羅天			2		3							1	4	5	
計	②①	7	18	9	4	7	②①	9	9	0	8	15	②⑥	②④	19
	初代正彦 (高槻市)	加藤江里子 (奈良市)	柏原夕胡 (和歌山市)	水野黒兎 (豊中市)	岩崎公誠 (大阪市)	石橋芳山 (松江市)	北山まみどり (黒石市)	丹下凱夫 (岡山市)	大内せつ子 (松江市)	中村 恵 (富田林市)	伊達郁夫 (寝屋川市)	高杉 力 (大阪市)	宇都満知子 (大阪市)	永井松柏 (今治市)	藤田武人 (枚方市)

令和5年度 川柳塔賞

川柳塔賞準優秀作第一席

鳥取市 山^{やま}野^の すみれ

貝塚市



吉^{よし}道^{みち} あかね

朱を足してみても淋しい色である

あの世とこの世離ればなれになりました

自然治癒傷舐めながらなめながら

後期高齢ぐずつく天気多くなる

全摘を話すユーモア入れながら

何着も有るのに服が決まらない
閉じたグー開いたパーを見てるチヨキ
口の中溶けてく飴の潔さ
散るまでは咲く事ばかり想う日々
雑草と呼ばれているが花は咲く

川柳塔賞準優秀作第二席

鳥取市 大^{おお}前^{まえ}安^{やす}子^こ

この度は川柳塔賞をいただきありがとうございます。

不幸続きの令和四年を書いておきたくて近詠に出し続けました。

辛い時、悲しい時、いつも川柳が助けてくれました。もう少し頑張れとエールをもらったように、感謝しています。暗い句を選んでいただき、選者の皆様本当にありがとうございました。

柳 歴

平成 九年 朝日新聞

なにわ柳壇初投句

平成二十三年 川柳塔 誌友

親としてネジ一本は持つている
子と積木倒さぬようにゆっくりと
深呼吸なさいますよと雛を出す
墓守る娘の両手借りながら
巣立つ子の灯台となれストレッチ

令和5年度 川柳塔賞得点表 (応募総数42名)

1位 = 5点

2位 = 4点

3位 = 3点

4位 = 2点

5位 = 1点

(表の数字は得点)

選者 \ 作家	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
小島 蘭幸									2	3			5	4	1
新家 完司			2					3		1	4		5		
木田比呂朗	5				3							1	4		2
関本かつ子		3		4	2					1	5				
鴨谷瑠美子				5				3			1	2		4	
原田すみ子	1				3	2							4		5
山野 寿之					2			3		5	4		1		
吉村久仁雄				5	3			2	1				4		
安土 理恵			1					3		2			5	4	
梶谷 和郎	1			2	4	3						5			
岸本 宏章		4			5			3				2	1		
工藤千代子		1				3		4				5	2		
杉野 羅天		4			2				5					1	3
計	7	12	3	16	24	8	0	21	8	12	14	15	31	13	11
	吉積栄次 (大阪市)	村上和子 (尾道市)	河南すみえ (丹波篠山市)	山野双葉 (交野市)	山野すみれ (鳥取市)	みぎわはな (神戸市)	野口龍 (三田市)	大前安子 (鳥取市)	八木幸彦 (尼崎市)	中前幸子 (山口市)	まつもととこ (和歌山市)	岡田恵子 (大阪市)	吉道あかね (貝塚市)	花岡順子 (大洲市)	城戸誓子 (神戸市)

令和5年度 愛染帖賞

受賞作品

三田市 堀 ぼり

まさ 和 かず

準賞作品

大阪市 宇 都 満 知 子

金運はないが長命運はある
大丈夫月に一度は爪を切る

半分は理解出来ないコマーシヤル

赤飯を食べております年金日

旨いもん食べ飽きてから灰になる

評 堀 正和…事件も事故もない普通の暮らしの中での
フトした想い「金運はないが…」「月に一度は爪を切る」「半
分は理解できない…」等を、しっかりと掬い取っている。

宇都満知子…コロナ禍で推奨された「黙食」や、酒飲み
の「酒の肴」等に対するシニカルな見解と視線が愉快。

丸山 孔一…現代川柳のテーマの一つ「自分を詠う」そ
のものである「病氣」「無職」「忘却」等を晒して共感できる。
原 徳利…「俵紋」や「ブリロの箱」など、扱い難い素材
を鮮やかに料理して楽しませて貰った。
(新家完司)



堀 正和

一読明快、ウフフとチクリをモットーにし
て川柳作りをしている私にとって、愛染帖は
大好きなコーナーです。
受賞の連絡に元気を貰いました。ありがとう
ございました。

柳 歴

平成十二年「川柳さんだ」発足、入会
平成十八年 川柳塔 同人
平成二十年 川柳塔 理事

黙食はずっと昔に教わった
カレーでも酒の肴になるらしい
自転車にいつも雨傘積んでいる
他人とは病魔隠してご挨拶
職業欄「無職」の筈が何故多忙
忘却は神に賜る万能薬

宝塚市 丸 山 孔 一

安来市 原 徳 利

小春日にじつくりと見る俵紋
見てくれの悪い顔だが運がよい
棺桶はブリロの箱の模造品

受賞作品

大阪市 島田明美

泣きながらピエロになっていたんだね

評 十月、一月、六月、八月と一年間に四度も秀句の明美さん。受賞句は、そんな時もありましたと心にすっと入り込むのが素晴らしいと思いました。準賞の道子さんの句「コロナとブーチンを掛け合わせた「しっこさ」が絶妙です。準賞のかおるさんの句「あの日の鈴」はなんだろうと余韻を残したのが最高でした。今回の檸檬賞の候補句は、ほとんど女性でした。男性諸君 ガンバレ!! (江島谷勝弘)

評 明美さんの句。「いたんだね」は第三者的視線で詠んでいるが作者自身かも。脆さ・悲しさは見せず周囲への気遣いで、ピエロを演じる。肩を抱きしめたいような句。準賞、かおるさんは塔の、どの作品も輝いている。「あの日の鈴」は、心情を鈴の一語で見事に語る。道子さんのストレートな表現は多数の支持を得る。

檸檬抄の一年間の選。鉢巻を締めてかかりました。皆様の句に学ばせていただいた嬉しい経験でした。感謝。(永見心咲)



島田 明美

身に余る賞をいただき、緊張で背筋の伸びる思いです。

コロナ禍でこの数年は行動が制限され、私自身もあらゆることに足踏みをしている状態でした。背中を押してくださった選者様、先生、諸先輩方、そして柳友の皆様深く感謝いたします。ありがとうございました

準賞作品

尾道市 小川道子

コロナのしっこさ戦争のしっこさ

松山市 柳田かおる

再会へあの日の鈴は響かない

候補作品

大阪市 谷口義

そう言えばかなり前から生きてます

岡山県 藤澤照代

唇に指一本で危機を抜け

柳 歴

平成十九年 川柳de遊ぼう会
令和二年 川柳塔 誌友

受賞作品

明石市 萩谷 和郎 こうじ や かず お

Jアラート鳴つても逃げるとが無い

評 本賞の和郎さんの句、北朝鮮のミサイルが今年も27発という。また先般は全国一斉情報伝達の訓練がスマホ等で行われた。以前は安心安全を自慢にしていた日本国、日本人の、現在の実感の句です。

準賞の久美子さんの句、これからも日々耕して行かねばと、後期高齢になった身にはずっしりと感じる句です。同じく準賞の芳光さんの句、運だけに頼らなかつたものの、私自身へ芯がないぞと、はっぱを掛けられたと思える句です。

評 本賞の和郎さんの句。有り難いシステムであるJアラートだが、鳴つたからといってどうすればいいのだろうか。日常の不安や不満が声を荒げることなく静かに訴えかけてくる。万人の共感句だと思います。

準賞・久美子さんの「鉾を打つ深さ」に一日一日敬虔に生きてゆくことへの念が、芳光さんの「背骨」には芯のある生き方を鼓舞する糧が感じられて心地よい二作品です。

(平井美智子)



萩谷 和郎

憧れの賞を戴き身に余る光栄でございます。本のタイトルのごとく七十、八十歳の壁があるようです。川柳はそれに寄り添い生きていく力の一助になるものと思っています。これからも楽しく精進して参りたいと願っています。先生、柳友、選者の皆さまありがとうございました。

準賞作品

鉾を打つ深さが一日の深さ

佐賀県 真島 久美子 ましま くみこ

運だけに頼り背骨に芯がない
倉吉市 牧野 芳光 まきの よしひかる

候補作品

きつちりと人生歩んできた顔だ

越谷市 久保田 千代 くぼた ちよ

始発で帰ります生きててください

大阪市 島田 明美 しまだ あけみ

柳 歴

平成十七年 川柳を始める
平成二十年 川柳塔誌友
平成二十一年 川柳塔賞準賞
平成二十二年 川柳塔同人

令和4年度 各地柳壇賞

受賞作品

神戸市 敏 森 廣 光

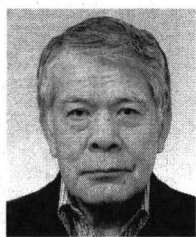
懐に入れば人は温かい

評 受賞の廣光さんの句、まずは自分から相手の懐に飛び込むことの大切さが詠われています。お付き合いの基本です。準賞の宏造さんの句、平穏な家庭風景が目につかんで来ます。幸せて案外近くにありますがね。準賞の実さんの句、極楽にまで偏差値が付きまとうとは？落ちこぼれへの優しい視線を感じます。

(高杉 力)

評 毎月の各地十選に選ばれた二百四十句。当然のように佳句揃いである。中でも、受賞句は、人間関係の機微を簡潔に描写して秀逸。準賞の一句目は、ほのぼのとした夫婦の情景を。二句目は現代の評価主義をチクリと風刺。とそれぞれの視点で巧みに表現されました。

(中村 恵)



敏 森 廣 光

「各地柳壇賞に決定しました」

このお話を頂いた時、私はただただ驚きと戸惑いで呆然としてしまいました。数多の句の中で私の句が選んで頂けるなんて！嬉しいの一言です。この喜びを、これからの精進につなげて参ります。

皆様、本当にありがとうございました。

準賞作品

老いたけどやっぱりいい妻のひざ

尼崎市 藤 井 宏 造

偏差値が足りず極楽ことわられ

大阪市 寺 本 実

候補作品

銃口に愛と平和を詰めなさい

大阪市 鈴 木 か こ

踏み出してみよう今しかない今に

越谷市 久 保 田 千 代

手を繋ごうやさしい風が吹くように

鳥取市 狹 武 紫 陽

手の届く高さに夢を置いておく

出雲市 (故) 岸 桂 子

柳 歴

平成二十九年 六甲川柳会入会
平成三十年 川柳塔 誌友
令和元年 川柳塔 同人

愛染帖

新家 完司 選

(投句254名)

なんとかなるさ百足の足はもつれない

大阪市 島田 明美

(評) モヤモヤを払う呪文も様々だが「百足の足はもつれない」はユニーク。百足は「ややこしいこととは考えない」主義なのだろう。

札幌市 三浦 強一

五七五妻七七と多弁なり

(評) 17音に慣れ親しんでいる作者は苦情を言うのも端的且つ淡泊だが、奥様の反論は短歌並みのプラス14音でいささかうるさい。

米子市 池田 美穂

レカネマブ脳が変換ネコマンマ

(評) 認知症の新薬「レカネマブ」。確かに、覚えにくい名前ではあるが、選りにも選って、「ネコマンマ」とは変換し過ぎだろ！

今治市 永井 松柏

権力はティラノサウルスより怖い

(評) 最強の肉食恐竜ティラノサウルスでさえ必要以上に殺さなかった。一方、権力を握ったブーチンの一声で侵略戦争が始まった。

府中市 岸田 武
戦況を語る教授は淀みない

(評) ロシア軍のウクライナ侵略によって既に50万人以上が死傷。その凄惨な状況を冷静に分析し解説できるのは他人事だから。

奈良市 大久保真澄

老け具合他人のことはよくわかる

(評) 久しぶりに会った級友や四年振りにマスクを外した顔を見て「ああ、老けはった」。相手も同じように感じているのだろう。

大阪府 米澤 俣子

入院で難なく出来たタイエツト

(評) 旨いものが溢れている街で食欲を抑えるのは至難。だが、きつちりカロリー計算された薄味の病院食はタイエツトに最適。

大阪市 江島谷勝弘

墜ちるだろうと思う空飛ぶクルマ

(評) ライト兄弟が動力飛行に成功してから120年。今日までに無数の飛行機が墜落している。空飛ぶクルマも墜ち続けるに違いない。

大阪市 野坂真美子

知事選挙選ぶ基準は男前

(評) 未知の候補者の人格や能力など分からない。演説もビラも同じような内容ばかり。かくなる上は好みみのイケメンを支持！

松江市 相見 柳歩

目に見えぬ粒が地球を通過する

(評) 宇宙から降り注ぐ素粒子ニュートリ

ノは人間の体も地球も通過しているのとこと。解説を読んでも何のことやらさつぱり。。。

鳥取市 岸本 孝子
予報士の三十五度を聞き飽きた

奈良県 長谷川崇明
9月来た事をも忘れさす暑さ

弘前市 福士 慕情
残暑よりまだまだ夏と思う日々

加西市 山端なつみ
超猛暑畑で西瓜煮えていた

尼崎市 宗 和夫
ステテコ一枚でやり過ごす酷暑

黒石市 石澤はる子
熱中症警報なんにもしない動かない

うろろろとするには今日は暑すぎる

藤井寺市 太田扶美代

水も飲んだ薬も飲んだこの酷暑

堺市 今井万紗子

灼熱に鴉の「カー」が間延びする

宝塚市 丸山 孔一

ビールよりアイスで越えたつらい夏

三田市 上田ひとみ

この夏もガリガリ君の世話になる

岡山市 丹下 凱夫

喧嘩する相手が無くてかき水

加古川市 石賀 邦子

かき氷刺身定食より高い

高砂市 裕木 るい

越谷市 久保田千代
猛暑都市スクランブルに人溢れ

河内長野市 中島 一彌
言い訳は通らぬ地球沸騰化

鳥取市 福西 茶子
エアコンをつけて食費をちと削る

東京都 宮田 栄子
猛暑にて我が家のシェフはレンチンで

米子市 竹村紀の治
蝉までが暑い暑いとこぼしている

郡山市 安藤 敏彦
高齢者マークのような湿布貼る

弘前市 小山内真由美
欠点をミケと比べて負けている

早送りしているようにしゃべる友
コオロギがお家の中で鳴いている

大阪市 中島 幸徳
合併の名前やたらに長くなる

神戸市 みぎわはな
映画でも垂れ目のワルは出てこない

堺市 澤井 敏治
スイーツと呼ばれ甘諸の澄まし顔

堺市 澤井 敏治
赤い服赤い帽子は迷子札

大阪市 宇都満知子
お薬をみやげに呉れた内視鏡

酒の量減らすしかないまた値上げ
ぬかるみになっていくのか物価高

石川県 堀本のひろ
ワニがいるぼっかり浮かぶ夏の雲

河内長野市 木見谷孝代
今日もまた草と格闘する残暑

倉吉市 宮田 風露
草取りが趣味になりそう夏終わる

香南市 桑名 孝雄
台風が予算を食いにやってくる

大阪市 岡田 恵子
台風がくるぞアンパン買わなくちゃ

熊本市 杉野 羅天
台風がくるぞアンパン買わなくちゃ

羽曳野市 宇都宮ちづる
台風のきまぐれUターンだとさ

歳聞かれ「さゆりと同じです何か」
梅酒より葡萄酒白が好きですよ

藤井寺市 鈴木いさお
ママチャリのおばちゃん電動に替えた

ラ・フランスより幸水の方が好き
佐賀県 真島久美子

年収は一旦横に置いておく
母さんの味は永谷園だった

堺市 内藤 憲彦
プーチンの鼻6Bで塗りつぶす

暑いなあそうですなあ大ジョッキ
変わらぬに「バカ」と叫んでみる夕陽

東京部 川本真理子
目が腫れるほど泣くことも絶えてない

大阪市 田中ゆみ子
頂上へ他人の尻を見て登る

鼻唄で食器を洗うやつと秋
生前葬入棺だけはお断り

堺市 坂上 淳司
遺影にと撮った写真のきこちなさ

秋風が吹いた途端の物忘れ
黒石市 北山まみどり

秋の朝栗をコトコト渋皮煮
鳥取市 奥田 由美

阪神のアレには風呂ヘタイプする
笠岡市 藤井 智史

虎キチも弱い巨人はおもろくない
美作市 岡本 余光

伯桧鵬はりきり過ぎて疲れたか
鳥取市 永原 昌鼓

「ナマスデ」と国際人になりたがり
唐津市 前田 廣幸

なんだつけ亡夫の戒名でてこない
米子市 妹能令位子

その昔日本にあった楽隠居
寝屋川市 廣田 和織

根気よく水と油を混ぜてきた
貝塚市 吉道あかね

ガソリン高いし自転車乗れへんし
大阪市 平井美智子

スキップをしようか若さ見せようか
松江市 石橋 芳山

松山市 大内せつ子
上半身だけ妙に急いでいるミミズ

海門市 小谷 小雪
ナメクジのうふふと知らず這った跡

小野市 田中 辰夫
ゴキブリの命助けて日一善

宮崎県 惠利 菊江
台風に避難のハエも静かな夜

貝塚市 石田ひろ子
ゆつくりと泳ぐ金魚も高齢化

和歌山市 柏原 夕胡
孫は無いけれども猫が居てくれる

西宮市 福島 弘子
涼しげに昼寝の猫へついちよっかい

東京都 尾畑なを江
コロコロを持つと逃げ出すうちの猫

神戸市 興水 弘
独り居のリズムにニヤーこれがいい

大阪市 今村 和男
塩味が少し足りない猫の餌

福井市 伊藤 良一
何よりも心のエステ五七五

岡山市 永見 心咲
大会へ行こうよ餌は出会いです

池田市 倉本 一弥
シャイですねん句会マドンナ見ぬ振りを

大阪市 谷口 義
生き方も川柳も下手になりました

神戸市 酒井 宏
まだイケル駅の階段上り下り

松山市 栗田 忠士
歩数より歩幅気になる万歩計

鳥取県 竹信 照彦
歩かぬと歩けぬようになる恐怖

大阪市 岩崎 玲子
歳のこと口にしないですまず始動

船橋市 中嶋 常葉
身も心も跳ねる だつて今が旬

京都市 清水 英旺
ひと睨みして歩きスマホに道ゆずる

大阪府 高木 道子
サバイバルゲームだ医者のはしごして

尼崎市 山田 耕治
わたくしの写真はつぼつ黄ばみだし

河内長野市 穂口 正子
婆さんになった私も魅力的

三田市 北野 哲男
痛み消え白寿を目指す秋の空

倉吉市 牧野 芳光
一日に予定はひとつだけに

神戸市 敏森 廣光
外科医は手術 内科医はクスリ好き

堺市 村上 玄也
デスマスク天寿全うして柔和

横浜市 川島 良子
天国で会いたい人がまたひとり

箕面市 大浦 初音
金遣い荒い男と同居中

枚方市 栃尾 奏子
ピーナツも剥けない人と二十年

香芝市 山下じゅん子
じゃんけんは夫に負けたことはない

神戸市 奥澤洋次郎
「忘れるな」とつても無理なことを言う

交野市 山野 双葉
笑い方一から習う笑いヨガ

南あわじ市 萩原 狸月
気の毒と涙流せばすむ他人

鳥取市 前田 楓花
神様が作った色でバラが咲く

三田市 堀 正和
のど自慢知ってる曲は三つ四つ

神戸市 富永 恭子
いい風だ羽の修理を急がなきゃ

三田市 多田 雅尚
飲んでいるサブリのネタで盛り上がり

橿原市 居谷真理子
空き缶をタトゥーの腕が拾い上げ

大阪市 岩崎 公誠
貧乏に慣れて暮らすと蜜の味

防府市 坂本 加代
人間を測るものさしアベレージ

鳥取市 岸本 宏章
食レポの不味いを聞いたことがない

三田市 野口 龍
簡単な仕事だという求人紙

鳥取県 斉尾くにこ
会いに行く仕事みたいな顔をして

岡山市 大石 洋子
もやもやをやし炒めにして食べる

池田市 太田 省三
村祭り内助の功の婦人会

箕面市 出口セツ子
我慢ばかりするから悪い胃の調子

八王子市 川名 洋子
いらつしやいませが無い病院の受付

岡山県 藤澤 照代
ハイスコア出す検診の体脂肪

河内長野市 三輪くにお
手術待ち糖質ゼロが幅きかす

鳥取市 田賀八千代
「当選です」そんなメールに騙されぬ

松山市 郷田 みや
評判を聞いてからです歯医者さん

朝霞市 前田 洋子
スカイツリーも遠目の方が綺麗だね

奈良市 米田 恭昌
じゃじゃ馬に女らしさを見た驟雨

尾道市 村上 和子
サムライと言える男子が居た日本

鳥取市 狭武 紫陽
米一升炊いた頃には戻れない

明石市 穂谷 和郎
歌謡曲しか流さない散髪屋

大阪市 小野 雅美
耳たぶもうつとりさせる好きな声

豊橋市 八甲田さゆり
はんなりの老女輝くクラス会

鳥取市 上山 一平
ガス灯も金魚掬いがうれしそう

箕面市 広島 巴子
子の未来願い地蔵によだれかけ

高槻市 島田千鶴子
気まずさを不意に泣く子に救われる

松江市 中筋 弘充
放棄地と呼んで地主を悲しませ

豊中市 齋藤奈津子
キャッシュレス他人に買い物頼めない

岩国市 上村 夢香
別世界スーパー帰り美術館

倉吉市 大羽 雄大
どここいしょ今日の禁句として動く

桜井市 安土 理恵
信号変わる 昔の姫は走らない

松山市 柳田かおる
何でだろう便座の上で閃くの

小野市 藤原 泰宏
他家の屋根替え天気気に掛かる

岡山県 田中 恵
なつかしのメロディー独り聴いている

境港市 藤原 久直
好きな酒理由つけては人誘う

米子市 伊塚美枝子
コロナ明け飲み会の誘いの電話来た

箕面市 中山 春代
阪神が勝った負けたと大ジョッキ

弘前市 高瀬 霜石
お隣の会話肴にひとり飲み

寝屋川市 長尾 千賀
横顔をながめるためにカウンター

吹田市 太田 昭
ひらかなの似合う女が酌に来る

奈良県 渡辺 富子
ボケ具合夫婦あいこで酌も地酒

鳥取市 山野すみれ
酒を注ぎや欠けた椀にも希望湧く

和歌山市 北原 昭枝
お好み焼き半分こしてふたり飲む

高槻市 松岡 篤
程程が夫婦で違う酒の量

鳥取市 山下 凱柳
秋刀魚焼く酒かビールか焼酎か

八幡市 武田 悦寛
言い訳はもういいからと缶ビール

富士見市 中島 通則
百葉の長を信じて身を崩す

丹波篠山市 澤 良子
人前で唄う勇氣の準備中

共選欄

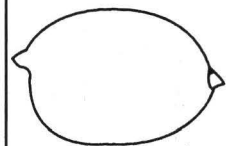
檸檬

檸檬

抄

(薫風書、カットとも)

(投句301名)



K. K

「裂く」 鈴木 いさお 選

米中ロ世界ひき裂く覇権主義
 侵攻が絆引き裂くウクライナ
 処理水の放出がまた人を裂く
 日中を引き裂く汚染水の処理
 ウクライナ小麦畑を真つ二つ
 世界中をやがて引き裂く温暖化
 東西を裂いて平和を潰す国
 裂かれて生きる被爆樹の反戦歌
 降水帯空でも裂けたように降る
 水河裂く地球の疼き止まらない
 ジャニーズの闇は裂けないマスメディア
 幼な子の悲しいニュース胸を裂く
 原発よ二度と暮らしを裂かないで
 戦してる場合ですかと水河裂け
 北と南裂かれた国の溝深く

大坂市 近藤 正
 富田林市 山野 寿之
 岡山市 大石 洋子
 三田市 堀 正和
 広島市 森田 博之
 鳥取県 門村 幸子
 名古屋 山本三樹夫
 尾道市 村上 和子
 岡山県 田中 恵
 橋本市 石田 隆彦
 神戸市 奥澤洋次郎
 香芝市 山下じゅん子
 鳥取市 大前 安子
 奈良市 高橋 敬子
 神戸市 敏森 廣光

「裂く」 川本 真理子 選

義理がある口が裂けても言えませんか
 かぎ裂きへてんとう虫のアツブリケ
 温かいのです裂織 母のちゃんちゃんこ
 裂き織りの布は形見の紬生地
 鉤裂きが絶えぬ昭和のヤンチャな子
 思い出が裂かれるふる里の過疎化
 コンビニが田舎の風を裂いて建つ
 思い出を裂くふる里の近代化
 水茄子を裂いて頬ばるふる里を
 焼き茄子を裂いて晩夏を終う味
 お命をいただきますと魚裂く
 背開きの蘆薈垂れてうなぎ喰う
 するめイカ裂いて休肝日が明ける
 食べたからスルメは細くほそく裂く
 するめ裂き友と本音のコップ酒

鳥取県 田中 重忠
 松山市 柳田かおる
 松山市 大内せつ子
 米子市 伊塚美枝子
 弘前市 福士 慕情
 尼崎市 藤井 宏造
 神戸市 米田利恵子
 貝塚市 石田ひろ子
 奈良市 加藤江里子
 鳥取市 狭武 紫陽
 浜松市 中田 尚
 宮崎市 押川 胡坐
 三原市 笹重 耕三
 豊橋市 小松くみ子
 郡山市 安藤 敏彦

絹を裂く平和の叫び聞こえぬか
東北を裂いた津波の後遺症
民意裂く法の裁きの辺野古沖
山肌を裂く線状降水帯
戦争で裂かれた絆いつ戻る
悲しいね同じ民族裂くいくさ
張り裂ける思いが募る拉致家族
好きなんて口が裂けても言うもんか
裂くことは出来ぬ二人の深い仲
奇策に裂かれた正統派の矜持
スルメイカ裂いて一人の夜が長い
引き裂かれよけい二人はもえあがる
固かった絆が裂ける遺産分け
多忙でも時間を裂いて母の世話
皮裂けて食べ頃だよと石榴の実
年毎に海馬の裂け目広くなる
お命をいただきますと魚裂く
夫の急逝神は二人を裂きたもう
ちぎって捨てる裂いては捨てる自己嫌悪
逝く日迄抱く戦争が裂いた愛
相愛の二人を裂いたのはわたし
逃げ込んだ受け皿に裂け目があった

吹田市	太田	昭
松山市	宮尾みのり	
奈良県	長谷川崇明	
羽曳野市	徳山みつこ	
米子市	伊塚美枝子	
大阪市	川端 一步	
柏原市	津村志華子	
富田林市	中村 恵	
大山市	関本かつ子	
尼崎市	八木 幸彦	
大阪市	津守 柳伸	
八尾市	村上ミツ子	
河内長野市	木見谷孝代	
宮崎県	黒木 栄子	
熊本市	杉野 羅天	
芦屋市	竹山千賀子	
浜松市	中田 尚	
出雲市	伊藤 玲峰	
弘前市	高瀬 霜石	
箕面市	出口セツ子	
加古川市	石賀 邦子	
岡山県	藤澤 照代	

裂きイカと地酒で埋める時の溝
スルメイカ裂いて一人の夜が長い
裂きスルメイつまでも囃み施設の児
呑み鉄の鈍行列車スルメ裂く
スルメ裂く仕事じまいの現場小屋
懺悔した両手でスルメ裂いている
裂きイカで一杯今日を折りたたむ
安寧な余生切り裂く物価高
裂きたいとこあちこちにある日記帳
破ったが名文だったラブレター
裂きイカとビールで耐えた暑い夏
闇を裂く救急車の音熱帯夜
決裂へ連絡ルートだけ残す
人生相談「別れなはれ」を思い出す
ひき裂いた愛のご機嫌とっている
バツイチでなどと裂け目を餌にして
福袋詰め過ぎちゃうのホラ裂けた
知恵袋裂け目繕い娘に譲る
自尊心裂かれ繕う返し縫い
裂けるまで打たれた太鼓は生き返る
ついに今日思い出を裂き雄巾に
虫の声二人の仲を裂くように

岐阜県	喜多村正儀
大阪市	津守 柳伸
神戸市	みぎわはな
生駒市	饗庭 風鈴
河内長野市	森田 旅人
明石市	桃谷 和郎
松江市	藤井 寿代
塩竈市	木田比呂朗
神戸市	能勢 利子
尼崎市	山本 百合
豊中市	水野 黒兎
西宮市	亀岡 哲子
今治市	永井 松柏
奈良県	安福 和夫
藤井寺市	太田扶美代
唐津市	仁部 四郎
豊中市	松田蟻日路
寝屋川市	長尾 千賀
三田市	野口真桜子
熊本県	岩切 康子
米子市	池田 美穂
堺市	柿花 和夫

ペンが裂く狭いプライド堅い口
 炸裂の花火が暑さ打つ飛ばす
 最愛のひとつの縁裂いたガン
 シュレッダー恋の未練を八つ裂きに
 裂くような声であなたの名を叫ぶ
 決裂へ連絡ルートだけ残す
 いそがしい時間を裂いて昼寝する
 交換日記裂いてあなたを忘れよう
 父と子の裂け目を上手く埋める酒
 裂けるまで打たれ太鼓は生き返る
 亀裂には気づかぬふりの老いの知恵
 コンビニが田舎の風を裂いて建つ
 切り裂けやしない鋼鉄の愛です
 裂き織りに昔の暮らし垣間見る
 束の間の逢瀬引き裂く発車ベル
 ご機嫌斜め何か引き裂く音がする
 裂け目から噴き出す地球の不満
 文化とは鰻背びらき腹びらき
 腹の中裂けばうじゃうじゃ欲の虫
 冷気裂き若い気合の寒稽古
 善人になろうトラフの地が裂ける
 水茄子を裂いて頬ばるふる里を

鳥取県	青尾くにこ	河内長野市	熊本県	黒石市	神戸市	笠岡市	弘前市	岸和田市	堺市	倉吉市	大阪市	河内長野市	豊中市	土佐清水市	奈良市
西宮市	福田 正彦	落葉 ふみ	岩切 康子	石澤はる子	米田利恵子	藤井 智史	福士 慕情	雪本 珠子	今井万紗子	牧野 芳光	田中ゆみ子	村上 直樹	水野 黒兎	辻内 次根	加藤江里子
大阪府	米澤 俣子	ふみ	康子	はる子	恵子	智史	慕情	珠子	紗子	芳光	ゆみ子	直樹	黒兎	次根	
高槻市	松岡 篤														
松江市	相見 柳歩														
今治市	永井 松柏														
大阪市	田中 廣子														
大阪市	小野 雅美														

音静かにラブレター裂く月の夜
 炸裂の音は聞こえぬ遠花火
 ご機嫌斜め何か引き裂く音がする
 夫のシャツ一枚裂いて風になる
 生ぬるい裂け目があつてなお二人
 思い出の背広も裂いて妻の趣味
 金継ぎをしてから味が出たお猪口
 おばあさんにほうれい線という亀裂
 銀継ぎのように戻らぬあの二人
 ぱっくりと柘榴は裂けて人を呼ぶ
 ぱっくりの口から本音吐く柘榴
 はり裂ける思いでわが子待つ家族
 引き裂かれ親も子も又老いてゆく
 拉致家族裂かれはしない血の絆
 切り裂いた絆をかがる母の糸
 再会を誓う真つ二つの林檎
 原爆の悪夢ざくろの裂け目見る
 裂かれて生きる被爆樹の反戦歌
 裂かれた大木 天衝くネコジャラシ
 団欒を切り裂く戦争のニュース
 地球の平和切り裂く音があちこちで
 ウクライナ小麦畑を真つ二つ

大阪市	原 幸子	羽曳野市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市	三田市
有田 澄子	藤原 太子	山野 寿之	稲角 優子	川崎ひかり	澤井 敏治	平井美智子	永見 心咲	上山 一平	村上 和子	島田 明美	高橋千賀子	上村 夢香	森田 博之		
堺市	今井万紗子	大子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
神戸市	城戸 誓子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
加古川市	石賀 邦子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
弘前市	稲見 則彦	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
岡山市	丹下 凱夫	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
奈良市	大久保真澄	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
富田林市	山野 寿之	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
富田林市	山野 寿之	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	稲角 優子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	川崎ひかり	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	澤井 敏治	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	平井美智子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	永見 心咲	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	上山 一平	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	村上 和子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	島田 明美	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	高橋千賀子	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	上村 夢香	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			
三田市	森田 博之	太子	優子	ひかり	敏治	智子	心咲	一平	和子	明美	千賀子	夢香			

親のエゴ父を引き裂く母子家庭

和歌山市 上田 紀子

母さんと引き裂かれた日ノラになる

貝塚市 吉道あかね

裂けるなら裂いてみろよとセメダイン

三田市 村田 博

漆黒を裂いて平和な花火音

奈良県 中原比呂志

立場上分裂したが友は友

犬山市 金子美千代

ちぎれ雲身を裂いてでも逢いに行く

大阪市 島田 明美

自尊心裂かれ繕う返し縫い

三田市 野口真桜子

おばあさんにほうれい線という亀裂

奈良市 大久保眞澄

秋祭り三年ぶりに炸裂だ

米子市 池田 美穂

父母の仲裂いてた祖母の墓参り

三田市 生田えい子

裏切りに心が裂ける音がする

河内長野市 藤塚 克三

ファスナーが裂けて出られぬ試着室

大阪府 浦上 恵子

分裂の危機を招いて座を下りる

吹田市 西沢 司郎

集落の繋がりが裂いた大津波

奈良市 東 定生

虐待の闇を切り裂く子の悲鳴

西宮市 高橋千賀子

安寧な余生切り裂く物価高

塩竈市 木田比呂朗

空裂けて神の怒りが落ちてくる

和歌山市 柏原 夕胡

ざっくりと我が身を裂いて蟬の羽化

橿原市 居谷真理子

秀 句

切り裂いた絆をかがる母の糸

大阪市 平井美智子

引き裂いた心結んだお葬式

東大阪市 西村 哲夫

思い出が裂かれるふる里の過疎化

尼崎市 藤井 宏造

あそこでもここでも空が裂けている

尼崎市 藤田 雪菜

空裂けて神の怒りが落ちてくる

和歌山市 柏原 夕胡

故郷の訛り切り裂く土石流

奈良市 東 定生

裂け目から噴き出す地球の不満

倉吉市 牧野 芳光

善人になろうトラフの地が裂ける

土佐清水市 辻内 次根

地が裂けた教訓生かす百年目

河内長野市 木見谷孝代

ゆっくりと裂ける地球の夢を見る

大阪市 森田 遊子

カーテンの裂け目通して朝日差す

伊勢原市 小田 幸子

コンクリートの裂け目からほら花が

米子市 後藤 宏之

アスファルト裂け目に生きる命ある

神戸市 敏森 廣光

生と死の裂け目に覗く青い花

交野市 山野 双葉

戦してる場合ですかと氷河裂け

奈良市 高橋 敬子

国境が時代錯誤になる日まで

佐賀県 真島久美子

裂けたのは服ではなくて心です

三田市 野口 龍

ざっくりと我が身を裂いて蟬の羽化

橿原市 居谷真理子

身を裂いたことは忘れていく余白

黒石市 北山まみどり

立場上分裂したが友は友

犬山市 金子美千代

えんどう豆ごめんなさいとこぼれ出る

三田市 上田ひとみ

秀 句

にんげんを裂けばうわつと紋白蝶

鳥取県 斉尾くにこ

この星の裂け目の上に住んでいる

川西市 大坪 一徳

いい天気だからハラワタまでさらす

弘前市 高瀬 霜石

「スクラム」

(投句 211名)

近 藤 正 選



日本代表スクラム組んだ多国籍
平和へとスクラム組んで守る星
スクラムを組んだ仲間の大麻草
スクラムの始末フクシマ四苦八苦
校門でスクラム組んだのも昭和
スクラムを組んで平和を叫ぼうよ
スクラムの中で見つけた家族の輪
独裁者同志スクラム組みたがる
いざ地震根がスクラムを組む藪へ
時間外手当要求蟻のデモ
信頼がスクラム組んだ時無敵
シユプレヒコール肩が覚えてる闘志
スクラムも組んだよ山の動いた日
家中で無駄な出費のないように
スクラムで安保叫んだ人も古い
青い地球守るスクラム崩れ出す
戦争はゴメンスクラムがっちり
マドンナとスクラム組めるクラス会
秋風にスクラム解いた蟻の列
その昔スクラム組んだ二人です

大阪府	吉積	栄次
尾道市	村上	和子
和歌山市	上田	紀子
三田市	堀	正和
弘前市	稲見	則彦
香芝市	大内	朝子
三田市	九村	義徳
郡山市	安藤	敏彦
米子市	後藤美恵子	
八幡市	武田	悦寛
松山市	栗田	忠士
寝屋川市	長尾	千賀
三木市	山口ヨシエ	
可見市	板山まみ子	
犬山市	関本かつ子	
奈良県	渡辺	富子
神戸市	みぎわはな	
松江市	中筋	弘充
柏原市	津村志華子	
鳥取県	山下	節子

ヘッピリ腰と言うなシニアのスクラムを
スクラムを組んで暴力団排除
スクラムを解いてやさしい父になる
人類のスクラム見たい温暖化
たこ耳が基本スクラムの厳しさ
被災地へスクラム組んでボランティア
プーチンのエゴにスクラム組む世界
スクラムの中心いつも母がいて
核禁止スクラム組んでこそできる
国訛り飛び交う夏の甲子園
スクラムが是々非々論で崩れそう
スクラムを組んで鯛が身を守る

佳 句

年金者もスクラム組もう物価高
デパートもスクラム組んでストライキ
スクラムの誰か香水付けている
ライバルとスクラム組んでから無敵
スクラムを組んでコスモス波を打つ

人

子は五人スクラム組んで母を見る
ランドセル肩組みながら弾んでる
スクラムの頭上真近にオスプレイ

軸

豊中市 松田蟻日路
加西市 山端なつみ
尼崎市 山本 百合
唐津市 坂本 蜂朗
熊本市 杉野 羅天
岩国市 上村 夢香
貝塚市 石田ひろ子
尼崎市 近兼 敦子
名古屋 山本三樹夫
大阪市 東 敏郎
三田市 北野 哲男
大阪市 森田 遊子

堺市 内藤 憲彦
大阪市 岩崎 公誠
大阪市 今村 和男
今治市 永井 松柏
大阪市 島田 明美

大阪市 平井美智子
枚方市 谷 英也
奈良県 中原比呂志

「かりかり」

(投句 207名)

木見谷 孝 代 選



ささやかな嫉妬なんです爪立てて
嫁さんの呑気かりかりしてる姑
職員室ガリ切る音がした昔
腹減っただけでかりかりしなさんな
余裕なくかりかりしてた子育て期
申告敬遠かりかりさせるショートタイム
かりかりより怖いぞ妻の無言劇
まあまあと言われ余計に怒り出す
かりかりの消火剤です酒二合
病む地球菌痒い思いうるグレタ
愛くるしいコロにかりかり宥められ
葛藤のなかで小さくなっている
目に見えぬ時間とせめぎ合っている
同僚の出世かりかりしてしまふ
大臣の椅子停まらずに通る過ぎ
選手よりファンかりかり負け試合
上がらない遮断機音もいらだてる
かりかりと砂嚙んだ日もある昭和
血圧が高いかりかりせず生きる
プーチンに今日もかりかりしています

黒石市 北山まみどり
貝塚市 石田ひろ子
奈良市 大久保眞澄
和歌山市 柏原 夕胡
豊橋市 西郷紀美代
三原市 笹重 耕三
堺市 坂上 淳司
三田市 上田ひとみ
高槻市 松岡 篤
河内長野市 中島 一彌
生駒市 飛永ふりこ
佐賀県 真島久美子
倉吉市 牧野 芳光
笠岡市 藤井 智史
大阪市 岩崎 公誠
藤井寺市 鈴木いさお
橋本市 石田 隆彦
三木市 山口ヨシエ
箕面市 出口セツ子
羽曳野市 徳山みつこ

親の脛内緒でかじるくせ抜けず
かりかりがきりきりとなる胃の痛み
母さんがかりかりすると子も沈む
かりかりをやさしく包む目が笑う
お受験でボクよりママがかりかりに
ぐずぐずがかりかりさせるママの朝
かりかりに焼けて終わった夏休み
蟬螂もほくも末枯れて吠えている
かりかりした膨れっ面に惚れました
かりかりの妻に良く効くプレゼント
出産のメールを婿は打ち忘れ
外はかりかり甘めの嘘を召し上られ

佳 句

金平糖嚙んでるうちに消えた恋
かりかりときても我慢の婿養子
終着の見えてかりかりしなくなる
ヒト科のエゴにかりかり怒髪天の神
かりかりと九条かじる音がする

人

かりかりをやんわりと消す母の声

志功彫る鑿の先から出る宇宙

天

かりかりするねかの隣国の言いがかり

軸

かりかりが好きでインプラントをする

奈良県 中原比呂志
三田市 多田 雅尚
鳥取市 岸本 宏章
米子市 中原 章子
川西市 大坪 一徳
南あわじ市 萩原 狸月
橿原市 居谷真理子
岡山市 丹下 凱夫
豊中市 松田 蟻日路
河内長野市 落葉 ふみ
池田市 太田 省三
大阪市 小野 雅美
鳥取市 福西 茶子
三田市 九村 義徳
河内長野市 森田 旅人
寝屋川市 川本 信子
寝屋川市 廣田 和織
奈良県 渡辺 富子
弘前市 福士 慕情
池田市 倉本 一弥

初級教室

題 — まずい

水野 黒 兔

課題「まずい」は飲食物の味がまずいこと、そして技術とか、雰囲気とかさまざまなか場合におけるまずいことに大別されます。いずれにせよ、否定的な意味なので難しい課題だったと思います。

☆は皆様の句、★は参考句です。

☆ 孫の手料理まずくとも心満ち　ひとみ
リズムのいい575にしてみます。

★ まずくとも孫の料理に満ち足りる

☆ タクシーは運転しだい酔いさそい　開　子
車に酔うのはタクシーに限りませんので

★ 車酔いは運転次第だとわかる

☆ 調味料何か一つが足りぬ味　純　子
句に川柳の味を加えてみませんか。

★ 夫の料理何か一つが足りぬ味

☆ 気がつけば独り酔ってるまずい酒　邦　子

ドラマティックにしてみます。

★ 子ら巢立ち独り酔ってるまずい酒

☆ サバ缶もひと手間かけりゃ不味くない

美美子

サバ缶の名誉のために手直ししますね。

★ わけあり品もひと手間かけりゃ不味くない

以下の数句については、すこし表現を變えてみると分かり易くなるかな。

☆ お茶漬けのまずさを決めた残こり茶　龍

下4を解消し

★ お茶漬けのうまさまずさはお茶次第

☆ 老いたワニまずい奥歯のかみ合わせ

えみこ

すごい動物が現れましたが、ご自分のこととして表現されてどうでしょうか。

★ まずいのは残る奥歯のかみ合わせ

☆ タレントの顔で青汁まずく見え　尚

タレントさんも顔云々は嫌がるでしょう。

★ タレント次第で青汁まずく見え始め

☆ 今飲んだ薬はどれかまたやった不二夫
数種類の薬となるとうっかり間違えたりしますね。

★ あっしまった飲み間違えた常備薬

☆ 三十九度地球が熱で赤くなる　栄　次

地球の熱中症ですね。

★ 三十九度の気温で地球あぶら汗

☆ 今日でもまたまずい対応大企業　律　子

大企業に限らずどの会社にも、素早く、そして正直な対応を希みますね。

★ 事故起こしまずい対応大企業

☆ まずいですやる気無い日が増している

レイ子

猛暑の夏でしたが乗り切りましょう。

★ まずいなあやる気ない日が増えすぎる

☆ 旅立ちを空港で待ちまだ来ない　良　二
来ない人は子供さんですか、友人ですか
いずれにせよまずい気持ちになります

★ 子の旅立ち空港で待ちまだ来ない

☆ 好きな人の拙い恋文気にならぬ　博　之
句の前半で謎かけをして、タネあかしは
最後にしてみます。

★ 拙くても嬉しい好きな人の文

☆ 酒の席気まずい空気酔ったふり　栄　子
ちよっと三段切れの感じがするので

★ 酒席での気まずさしのぐ酔ったふり

☆ 見えぬものどんな視えてくる不思議

風　鈴

「まずい」の題というより、嬉しいとか

不思議といった題の句に思えます。

★ 見えぬものも見えてしまった気まずさよ
以下数句はほんの少しだけ変えた味付け
にしてみます。

☆ まずいとは言えない時代芋のつる 孝 治

★ 不味いとは言えぬ戦後の芋のつる

☆ 味付けも夫婦ゲンカでまざるなる さくら

★ 得意料理も夫婦ゲンカでまざるなる

☆ まずいとは言えず慣らされ五十年 行 久

★ まずいとは言えず馴らされ妻の味

☆ 帰国してまずいものなし大食漢 弥 生

★ 帰国してまずいものなしあ和食

☆ インスタ映え好みと違う口つけず 鈴 子

★ インスタ映えするが口には合わぬ味

☆ まずい手の縁台将棋に花が咲く 一 平

★ まずい手が縁台将棋盛り上げる

☆ こんなことなるんじゃないか 断念 良 子

★ こんな事するんじゃないか 断念 良 子

☆ 夫婦喧嘩まずい夜も朝は晴れ 照 枝

★ 夫婦喧嘩まずい夜が明けて晴れ

☆ まずいとは言えない孫のこちゃこちゃ煮

★ まずいとは言えない孫のこちゃこちゃ煮

★ まずいとは言えない孫の初料理 静 恵

★ まずいとは言えない孫の初料理

☆ 娘の料理まずいと言えず喉の中 美 恵

★ 娘の料理まずいと言わず噛みしめる

☆ まずいのは分かっています 顔見れば 泰 宏

★ 正直なあなたは顔で言うまずい

☆ 令和はね「ヤバイ」と言うが孫が言い 歌 子

★ 令和の孫まずいじゃなくて言う「ヤバイ」

☆ てんと虫「オレは不味いよ」 派手な柄 くに お

★ てんと虫「オレは不味い」と派手な服

今月の佳句です。

○ くどくどとした言い訳がまずかった 百 合

たんたんとした平易な表現ですね。

○ 一言が後の祭りとはぞを噛む えい子

後の祭りもほぞを噛むもよく使われる表

現ですがそんなに気になりません。

○ 食べるだけ食べて不味いはいでしよう 賢 二

会話の断片がそのまま川柳になりました。

○ 言い方がまずいと正論伝わらず のぞみ

なるほどと頷ける句。

○ 夫婦喧嘩まずい所に来たもんだ 風 露

下5が川柳味を加えてますね。

○ 不味くても美味しかったも夫無言 双 葉

世の奥様方の多くの同意を得られる川

柳。

○ まずいけど編み始めたら病み付きに 閑

否定的な課題を肯定的にまとめて素敵。

この二、三年の当欄担当者からあったア

ドヴァイスのうちのいくつかを参考になれ

ばとまとめてみました。

一 リズムを大切に。字余りになる場合は

上5の部分で処理するとあまり違和感がな

い。場合によっては上句と下句と入れ替え

てみる。

二 よりいいそうドラマティックに或いは

大げさにしてみよう。

三 たった十七音の川柳、無駄な重複は止

めよう。「隣家の桜でお花見」の場合お花

見は桜が当たり前なので、桜の文字は不要。

「人知れずひっそりと」も意味がダブるの

で一方は省ける。「かわいいうえくぼ」もえ

くぼは可愛いからかわいいは不要。

川柳塔鑑賞

同人吟 奥澤 洋次郎

10月号から

娘の帰省今日は華やぐ物干し場

長谷川 崇 明

一変して華やかになった物干し場。娘さんが帰省されて、如何にも楽しそうです。

夫婦げんかへ娘の説教が待っている

柏原 夕 胡

親子の立場逆転です。偉そうにと思っても聴くほかにありません。微笑ましく楽しい句です。娘さんが居てこそですね。

ぶつぶつが言える相手が居てくれる

野川 宜 子

愚痴や不平を聞いてくれる人のいることは、本当に大事ですね。居なければ、一人で抱え、糞つまりを起こすしかありません。

難聴だった父の無口が解る今

大川 桃 花

難聴では、会話の中に入りたくても、聞いている振りをしているしかありません。今更ながら、分かつていればとの思いは、

一寸淋しいですね。

動けない主人見舞って痛むもの

久保田 千 代

動けないご主人では、取り返しのようなない、辛い痛みかも知れませんがね。後悔を背負っていかなければならないのは、なによりも堪えることにちがひありません。

逢いたい抱きしめたい黄泉の二才

小松 紀 子

それを背負っていくしかない人の定めは過酷ですね。私にも名もない水子がいますが、母の思いはもつと悲痛なものであるうかと思えます。ご冥福をお祈りするとう言葉しかありません。

幾度の転居最後にケアハウス

津村 志華子

転居には、煩わしの反面、いろんな夢や楽しみがあったかと思いますが、終の暮らしはケアハウス：どのような思いなのでしょう。私の明日かも知れないのです。

結局付けまわされていた民のがわ

高橋 敬 子

全くです。オリンピックの不幸事にしても、風評被害で格好をつけてる大臣の見得も、全部税金です。政管のミスや無能、都合のつけは、民に回されています。

飢えながら働いていた敗戦日

中原 比呂志

あらゆるものが戦争に取られてしまった敗戦日でした。今の繁栄は、まやかしのものではないのかという気がしないでもありません。

雁字搦めすべて規則がものを言い

池澤 大 鯨

強いられた忠誠心が恐ろしい

岸本 宏 章

あの国のなんとみごとな隊列よ

池田 美 穂

赤鉛筆がたやすく折れたのも昭和

楽原 道 夫

今の北朝鮮やロシアは、八十年前の日本でした。今もそこに戻そうとする力は働いていますし、今の状態の赤鉛筆もあまり当てにできそうにありません。庶民の川柳、頑張らねば……

核兵器なくす運動わたくしも

本田 さくら

私などぶつぶつ言うだけで、何もしていません。それで平和は虫が良すぎますね。見習わなければなりません。

核ボタン押すか押せぬに評論家

小澤 淳

テレビの評論家って、何を言葉遊びしているのかと思います。核ボタンって、そんな軽いものでなかるうにね。

ストレスを溜めない服を着て過ごす

中原 章子

そう言われると、普段のことですので、大事ですね。色や形等も含めリラックスした気分になろうと思います。

仕返しを気にしていたら進めない

山下 節子

確かにそうですね。倍返しは何だ！びびりの私には、頼もしさを感じさせられる句です。

お茶漬けが独りの音を立てる昼

藤澤 照代

お昼の茶漬けに「独りの音」って、見事な表現ですね。独りの昼の感じが一層伝わります。

病院帰りルンルンと花を買う

徳山 みつこ

検査の結果が良かったのでしょうか。ルンルンでおめでとう。こちらの気分もルンルンになるような句です。

たくさんの人と会った墓参り

岩本 笑子

核家族、少子高齢で、また故郷は若者に都会に取られたこともあり、盆や彼岸に集う親戚が少なくなり、墓参りの人も少なくなりましたね。日本の面影が消えてゆくようです。

お仏壇空き家に置いたままお盆

高杉 千歩

盆、正月と言われましたが、盆の影が薄くなってきましたね。私も盆に帰ることもせず、勝手都合で仏壇を開けに行つてます。

方言が元氣な故郷の電話

宇都 満智子

方言が元氣って、良いですね。故郷からの元氣な声を聞くと、こころが安らぎます。つられて同じように国訛りで話してたりして……次はいつ帰りますか。

会えばすぐオイと呼び合うクラス会

坂 裕之

オイと自然に呼び合える。それが同級生ですね。何時までも続いてゆく仲間です。

久々の汗は空き家の草むしり

中島 一彌

孫帰り屋台の金魚だけ残る

奥田 由美

夏らしくもつと活躍するはずが

北山 まみどり

異常猛暑の夏でしたが、同人の皆さんの夏は色々です。それにしても暑過ぎました。冬はどうなるのでしょうか。

笑つていよう最終章もあとわずか

田賀 八千代

静かにしていますか。言い足りない、喚き足りない事はありませんか。

川風へゆたかのふたりしのび逢う

渡辺 富子

暑さの中の一幅の絵画です。川風が熱い二人に丁度よさそうです。

無かったことにしてねスイカを召し上がれ

西田 美恵子

良いですね。こういきたいが、男の私には、どうも簡単ではなさそうです。

水煙抄鑑賞

—10月号から

伊 塚 美枝子

旅の目で見ればのどかな無人駅

奥 野 健一郎

一見のどかな無人駅の実態は、生活する住民には不便この上ない駅でしょう。このような駅が全国各地に多くあるのではないのでしょうか

痴呆かな小言いわなくなつた妻

酒 井 宏

「押して駄目なら引いてみな」何度言っても聞いてくれないご主人。あきらめられたのでは？ 奥様の方が一枚上手のようです。

ため息はそつと丸めて「ゴミ」に出す

定 松 宏 枝

ため息をつくときと幸せが逃げていくと言われています。人知れずついたため息をゴミに出し、素知らぬ顔で幸せをつかみ取りたいですね。

色褪せて強さを増した赤い糸

村 上 和 子

赤い糸で結ばれた縁。雨風嵐を共に乗り越え、より強固になった赤い糸。色褪せても解ける事はありませんね。

あれこれと道草をして老いて行く

森 廣 子

子供の頃は道草をして叱られましたね、今は叱られませんから、思う存分楽しんで素敵な老後をお過ごし下さい。

七十路はシミしわチャームポイントよ

野々村 レイ子

長い年月で刻まれたシミやしわ、自分の生きた証です。それを胸を張ってチャームポイントと言い切る貴女に拍手!!

コマーシャル私の財布ねらつてる

尾 崎 文 子

最近のコマーシャルは、購買意欲をきたてる物が多いですからね。財布の紐をしつかり閉めてかかりましょう。

財布の中で出番待ってる小銭たち

田 桑 恵 子

キャッシュレス決済が主流となり、小銭を持ち歩く事も少なくなりました。財布の中でうずうずしているかも…。

暑いあつい何度言っても冷めやせぬ

宮 田 風 露

花瓶にも氷を一つ入れてみた

岸 田 武

「言うまいと思えど今日の暑さかな」今年の夏の暑さは本当に格別でした。記録更新のニュースを聞いたたびに溜息をつきました。花瓶に生けられた花を氣遣う優しさに頭が下がります。

温暖化懐だけは寒冷化

前 田 廣 幸

地球の温暖化が問題になっていますが我々庶民の頭を悩ませている物価高!! 懐の寒冷化は何とかなりませんかねー。

ひと言を引きずりながら日が沈む

山 野 すみれ

自分が言つたひと言か、誰かに言われた一言か：沈む夕日に思いを馳せ、切り替えて必ず昇る朝日をゆつくり待つてみましょう。

三食の飯は忘れぬ物忘れ

若 松 由紀子

人の名前を忘れたり、あれこれ探し物が増える年代になりましたが、食べることを忘れなければ大丈夫です。



90周年記念句集を読む

いよいよ来年は麻生路郎発刊の「川柳雑誌」を発祥とする「川柳塔」創刊百周年の記念すべき年になります。大正・昭和・平成・令和と四つもの時代を重ねた「川柳塔」を誇らしく思うと同時に、その末席で学ぶ幸せを思います。

そして、この百周年を記念して合同句集を発刊する運びとなつていふこともお報せてしている通りです。同人・誌友に限らず、川柳に取り組んでおられる方ならどなたでも参加できます。皆さまお誘い合わせの上、是非ご参加ください。

この百周年記念句集発刊に取り組むにあたり、10年前刊行の90周年句集を改めて頁を繰ってみました。「あつという間の10年だったなあ」という感慨と共に、この句集に参加していながら、今回の百周年記念句集に参加できない方々のお顔やお声を思い出しながらそれぞれの15句を拝読しました。

何も彼もうまくいったら憎まれる
成るように成ると木が鳴る風が鳴る
一日中財布と喋るおばあさん
さくら咲く人が死のうが生きようが
ご注意を聞くうち耳が垂れてきた
妻忘れ子忘れやがてみな忘れ
一生をピエロであつた気もするが
手術台ゴールになるかスタートか
声だけは若いですねとからかわれ

内海 幸生
奥田みつ子
神夏磯典子
倉益 一瑤
小西 雄々
島田 誠一
高田美代子
竹口 清信
恒松 叮紅

自惚れを三面鏡に睨まれる
積んどくの中に内緒の本もある
金持ちに学んだ銭の使い方
胃袋がないのに腹が空いてくる
夜桜の宴は月の眠るまで
流木のように余生はおおらかに
枯れぬよう水をたくさん飲んで寝る
出会つては困る人などいない町
人間の脆さを包み込む夕日
持病まで聞いて下さる歯医者さん
ノーマイク夕陽が染めてくれました
道の駅ベンチに風が来て休む
砂浜で童にかえる土踏ます
没頭というありがたい思召し
血統書付きの雑種がこの俺だ

鶴田 遠野
都倉 求芽
土橋 螢
西内 朋月
波多野五葉庵
林 瑞枝
原 章峰
春城 年代
坊農 柳弘
前 たもつ
松尾 和香
松山 芳生
宮園射月芳
山中 康子
両川 洋々

百周年記念句集の参加費は五千元（句集一冊）です。少し高いように思われるかも知れませんが、これは送料も消費税も含めた金額です。いま生きている証として一人でも多くの方が仲間になつて下さいますよう、お願い申し上げます。

・締切 令和6年1月31日（水）

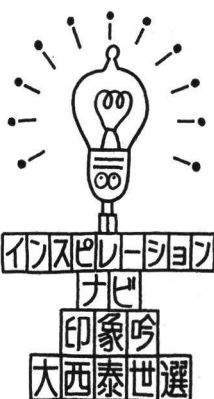
・体裁 B6判・上製本・八〇〇頁（予定）

・参加費 五千元・掲載一人15句（自選）

申込書をお持ちでない方は、次の方法でご連絡下さい。

・本誌奥付の「川柳塔社」に葉書かファックスにて。

・川柳塔サイト・トップの「お問い合わせ」へメールにて。



(投句 167名)

暑くて暑くて、もうこのまま秋なんて来ないのではと思つていた九月、電車の窓から彼岸花が二本だけ遠慮がちに咲いているのを見つけた。

やっぱりスゴイなあ花は、なんて感激したけど、考えてみれば毎年同じことを思っているのに気づきました。

地球沸騰化なんて言われながら健康な花を見ていると、勇気なんて大層なものではなく、ちよっぱり前を向きたい気分になることが出来たのです。では、ナビを。

後戻り出来ぬ片道切符抱き

(評) ただならぬご様子。事実はどうあれ、勝手に恋の片道切符だワ、とドラマチックに受け取らせて頂きます。

夕暮れて値引きシールが私にも

(評) スーパーで貼ってもらふ値引きシー



ルは嬉しいけど、少し年食つて来たからといって私に貼るとは失礼な!

向こうにも楽しいことがあるみたい

(評) 向こう、つてどこ? 身近な所では「あの世」もあるけど、ホントに楽しいかどうか、聞ける人、いないもん。

背もたれが欲しいと思う秋の暮れ

(評) そうそう、物思いの秋は誰かに寄りかかりたくなります。それを「背もたれ」だなんてウマイことおっしゃる。

鼻濁音真夏の夜の物語

(評) 鼻濁音が出来ない若い人が多いそう。でも、あの鼻に抜ける甘ったるい感じが、真夏の夜にはピッタリやで。

お辞儀つてTPOがあるのよね

(評) TPOつてけつこう難しいものですね。場にそぐわないお辞儀なんかされるとバカにされている気がしたりして。

サボテンの物思いつて厄介ネ

(評) 厄介ネ、と言われましても、こちらら物思いつてサボテンを見たことが無いもんで、はい。

路地裏の内緒話は袋綴じ

(評) 内緒話が筒抜けにならず、袋綴じ

とはすごい。秘密保持の路地裏、かえってコワイ氣もしますけどネ。

いい風はどうも私を避けている

(評) 我が家を通り越して隣家ばかりへ行くお中元やお歳暮みたいなに、こっちこっちと大声で呼び込みみたいデス。

その調子褒めれば出来る逆上り

(評) 褒めてさえ下されば、いくらでも調子に乗れるんですよ私。褒め言葉つてホント、力を引き出してくれますもの。

また一人わたしの元を去って秋

影武者がとうとう姿現わした

カード払い飛んだお札は見えません

枯れ葉散るわたしに枯れぬ恋心

夜長にはしみじみ友と酌み交わす

折り曲げてチューブ最後の最後まで

影だけはひねくれ者も曲らない

通帳の隅にポツンとしゃがむ利子

寝屋川市 平松かすみ
落し物です公園の木に吊す

松山市 大内せつ子
夕陽の欠片いただきたくはありません

熊本市 杉野 羅天
影法師心折れたを気が付かず

唐津市 仁部 四郎
「ガソリンは血の一滴」を御存知か

大阪市 古今堂蕉子
ヌンチャクはどこへ飛ぶのか知らんけど

藤井寺市 鴨谷瑠美子
ズルズルと椅子から落ちるのが答

神戸市 松倉 正美
じゃじゃ馬にポニーテールがよく似合う

大阪市 平井美智子
失礼をしますと去ってゆく若さ

生駒市 饗庭 風鈴
ふるさとに立つ浦島の寄る辺なさ

高槻市 初代 正彦
ときめいて今日も見上げのお月様

津山市 高橋由紀女
洪皮を剥いてばあちゃん栗ごはん

和歌山市 上田 紀子
まだ少しこの世に未練夢捨てず

羽曳野市 黒木ひとみ
家電機の電子の音を聞き分ける

大阪市 森田 遊子
ミステリーツアーのように生きている

枚方市 板尾 奏子
あと一度履けば捨てると決めたのに

香芝市 山下じゅん子
折れそうなウエストだった今むかし

和歌山市 佐藤 まき
ブーメラン花を散らしてしまつたの

三田市 北野 哲男
影だけがまっ直ぐなんて変やなあ

東京都 川本真理子
広げたり畳んだりして日を送る

尼崎市 宗 和夫
秋の風吹けば記憶がこぼれ落ち

佐賀県 真島久美子
千円のチュロスを夢の国で買う

和歌山市 まつもととしこ
初めての彼へマフラープレゼント

可児市 板山まみ子
まがり角いくつかあつた長い道

生駒市 飛永ふりこ
絵の具まで秋の彩りためらいが

河内長野市 大島ともこ
ああ良かったまだここに居た僕の影

大阪市 江島谷勝弘
淋しいなラッキーセブンというのに

朝霞市 前田 洋子
あっち向いてホイ一人じゃつまない

堺市 内藤 憲彦
一目惚れしましたLINE待ち遠し

今治市 永井 松柏
枯れ葉散る五輪真弓の音がする

大阪市 内田志津子
深夜二時そろそろ帰るちどり足

米子市 後藤 宏之
靴下に何を入れるかクリスマス

交野市 山野 双葉
伸びきつたセーターだけどお気に入り

尾道市 村上 和子
ウフフフ埴輪と恋をしています

豊見城市 あらさくら
はか非かと問われる時代試される

大阪市 岩崎 玲子
電車内スマホ軍団大集合

藤井寺市 鈴木いさお
シャンソンが似合う師走の御堂筋

豊橋市 小松くみ子
一番でなかった日には酔えません

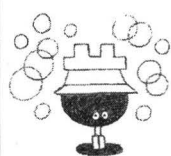
東大阪市 佐々木満作
折れ曲がるころに鈴の音の癒やし

大阪市 今村 和男
人妻の持つて帰れぬ男傘

米子市 妹能令位子
年毎に家事を端折って楽をする

松江市 石橋 芳山
パチンコに連敗神なんかいない

1月号発表 (11月15日締切)



(平本 霧石人 画)
柳菱に2句

『右上がり』

平井美智子 著

水野黒兎

同人平井美智子さんが川柳句集『右上がり』を上梓された。新葉館の「令和川柳選書」の一冊である。

第一章は「哀しみの形」と題されているが、第二章、第三章まで通じて句集の底を流れているのは哀しみである。単純な哀しみではなく、心の中に深く静かに沈潜している感傷、痛惜、悲嘆、愛しみなどといった感情の複雑に絡み合ったものと思われる。各章からそんな趣の句を3句ずつ拾い出してみる。

淋しさの数だけ覗く冷蔵庫

諦めるものあり爪を丸く切る

夕暮れの靴は淋しい方々を向く

気付かない振りで食べてる毒林檎

死にたいと思った夜も腹は減る

通行人Aのまんまで忘れられ

贈るあてない花を買う金曜日

家族だった人を見かけた交差点

淋しい方の足をすこうし前へ出す

「母」の文字が入ったこんな句がある。

次の世もあなたを母にえらびたい

母さんはメロンを食べたことがない

横になる事が贅沢だった母

そして「母」と記載してなくとも母上のこととそれとなく感じさせる句だと私が解釈する句。

笑ってる演技を神にほめられる

この神を具象化すれば母上のことではなかろうか。娘のことを奥深くまで知り抜いている母は娘の心の底にある哀しみを知っている。娘がときどき見せてくれるとびつきの笑顔の中に、時として母を安心させる演技の存在を母は知っている。母を喜ばせるための娘の精いっぱい演技を母は知っているのだ。これぞ神なる母であり、神の娘なのである。

「の形」と表現した句が四句ある。

哀しみの形 小さな力コブ

慟哭の形に置いてある尿瓶

祈る形に三角折りのレジ袋

人を恋う形に揺れる酔っ払い

いずれの句もなかなか真似のできない感性の句ばかりである。人の世にはこのように何かの形に擬態する出来事、事象が多く、これらの句にはなるほどそうかと感嘆する。

さて最初に複雑な哀しみが底に流れていると書いたが、それだけでは終わらないのが作者の強さでありましょう。句集のタイトル「右上がり」は自分の文字の書き癖であるというものの、あとがきには「右上がり」は「私の切なさであり悔しさであり、そして生きる力」だと述べてあり、まさにその通りだと私は思う。その証拠の句として次の数句を引用する。

静かなる闘志 夜更けのワンカップ

泣けるだけ泣いたら春を立ち上げる

大丈夫今日も私は美しい

言い訳はしないと決めて仰ぐ空

これらが作者の力でありましょう。他に私が好きな句を紹介します。

夕暮れの砂場に声の忘れ物

懸命に歩く斜めになりながら

故郷に心残りの坂がある

無花果の騒めき 君が齒に残る

『右上がり』

平井 美智子 著

木本 朱 夏

平成29年4月、平井美智子さんが川柳塔同人になった時、「あつ」と驚いた方が多かったのでは。「彼女がよく同人になりましたね」と尋ねられました。

美智子さんは時実新子の秘蔵っ子で新子の最期を看取ったひとりでもある。私が何度も彼女に同人を持ちかけても答えは常にNO。「朱夏さん、分かつてよ、二夫に見えず」。ここまで言われては引き下がるしかない。「二夫に見えず」、この言葉に美智子さんの新子への並々ならぬ敬愛の念が籠められている。

何年前になるか、墨作二郎さんを偲ぶ会で美智子さんに出会った。堺の小さなお好み屋さんで私は彼女を掻き口説いた。川柳塔という神輿と一緒に担いで欲しいこと。川柳塔は必ず美智子さんを応援すること。川柳塔の看板は美智子さんの川柳活動のお

邪魔にはならないこと。こうして彼女は川柳塔の一員になった。

作品を読むとき作者の生い立ち、川柳歴などの背景を知ったうえでの鑑賞と、それらを全く考慮せず先入観は一切なく作品そのものと向き合う、二つの方法がある。また、過去に上梓した句集や著作や、川柳誌に発表された文章などを参考にする場合もある。

美智子さんは現在までに何冊も句集を出され、また『時実新子の川柳と慟哭』も編集されている。今回私は敢えて過去の句集著書には触れず、新葉館出版・令和川柳選書シリーズの一冊としての句集『右上がり』と向き合った。

私は本でも句集でもあとがきや解説から読む。『右上がり』もまず「あとがき」からひらいた。

「複雑な家庭環境の中で育ち、全霊で母を憎み、全霊で母を愛して生きてきました。今まで上梓した4冊の句集も心棒は母でした。詠んでも詠んでも尽きることのない母への恋しさは恩讐となって進む……」の文章に打ちのめされた。なんとという正直な真摯なことばか。母と娘の間には他人には窺い知ることの出来ない深く暗い河が横

たわる。同性であること、お互いが分身である故に、お互いの愛しさも厭らしさも肌で判ってしまう。理屈抜きにお互いを憎み疎む時期がある。

だが、ある時を境に永年の葛藤もわだかまりも消えていることに気づく。子どもの頃にかえったように素直に「母恋」の感情が甦る。年齢のなせるわざだろうか。『右上がり』を上梓することにより美智子さんは母と娘の間に横たわる深い河をヒョイと超えたのである。

句集名の『右上がり』は「生まれつき先天性股関節変形症で左足が少し短い私は、いつも右肩を上げて歩いていました。……『右上がり』は私の切なさであり悔しさであり、また生きる力でもあります」

とあとがきにある。「劣等感や片意地さ」が右上がりの書き癖となり、川柳作家平井美智子を誕生させたともいえる。

とまれ、鏡の如く平らかに静かな心で作品に対峙して欲しい。

本籍は少し激んだ沼の底

潮時と思う ゆつくり手を離す

淋しい方の足をすこうし前へ出す

一房の葡萄 家族であつた頃

次の世もあなたを母に選びたい



第29回 川柳塔まつり

《 同 人 総 会 ・ 議 事 》

と き 2023年10月7日(土) 午前10時～11時

と ころ ホテル アウィーナ大阪 3階 生駒の間

2022年度事業経過報告・同決算報告・会計監査報告

2023年度事業計画・同予算案・役員人事・その他

《 各賞表彰式・記念句会 》

と き 2023年10月7日(土) 午前11時開場・午後1時開会

と ころ ホテル アウィーナ大阪 4階 金剛の間

開会の辞 川 柳 塔 社 理 事 長 新 家 完 司

挨拶 川 柳 塔 社 主 幹 小 島 蘭 幸

表 彰 式 路郎賞・川柳塔賞・愛染帖賞・檸檬賞・一路賞・各地柳壇賞

おはなし フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部教授 井 尻 吉 信 氏

兼 題 「 刻 む 」 川 柳 塔 社 藤 井 智 史 選

「 まっすぐ 」 川 柳 塔 社 藤 田 武 人 選

「 揺 れ る 」 川 柳 塔 社 大久保 眞 澄 選

「 未 来 」 川 柳 塔 社 栗 原 道 夫 選

「 笛 」 番傘川柳本社 片 岡 加 代 選

事前投句 「 自 由 吟 」 川 柳 塔 社 小 島 蘭 幸 選

閉会のことば 川 柳 塔 社 副 主 幹 川 上 大 輪

同人総会

二〇二三年（令和五年）度第五十八期川柳塔社同人総会は十月七日午前十時よりホテルアウィーナ大阪で開催された。総務部江島谷勝弘の司会で開会し、冒頭小島蘭幸主幹から、日頃の川柳塔社への協力支援に感謝が述べられた。その後小島蘭幸主幹を議長に選任して、議案審議に入った。

第一号議案の二〇二二年（令和四年）度事業活動を松岡篤企画事業部長が報告した。

・二〇二二年（令和元年）九月十八日、第五十七期同人総会を開催した。

・二〇二二年（令和四年）十一月八日に「第三十一回高野山川柳塔碑合祀祭」をコロナ禍のため高野山大霊園に委託して、十五名を合祀した。

・第二十八回「川柳塔まつり」は、三年振りに開催。二二〇名の参加者を得た。

・第十一回「春の川柳塔まつり誌上大会」を実施し、五九五名の応募を頂いた。

・「川柳雑誌・川柳塔誌電子化事業」は川柳塔誌一一一号まで、同人・句文集も合計四四冊の電子化を実施した。

次いで内藤憲彦会計部長から二〇二二年

（令和四年）度の収支決算及び財産目録の提示と報告があり、初代正彦会計監査から監査承認の報告があった。質疑は無く、一号議案は承認された。

第二号議案の二〇二三年（令和五年）度の事業計画について松岡篤企画事業部長から各部別に活動計画を提案。また、内藤憲彦会計部長から新年度予算案が提案された。本件も、質疑は無く、二号議案も承認された。

第三号議案として、新家完司理事長より役員の新任、再任人事が提示され拍手をもって承認された、新役員は後掲。

議案に対する最終質疑の中で、収支改善へ五点の提案があり、新家理事長より常任理事会でご提案を含め真剣に検討を進めるとして了承され、議事を終了した。

新役員を代表して敏森廣光新常任理事の挨拶があった。

最後に川上大輪副主幹の閉会の辞で総会を終了した。

主な受賞・表彰

* 本社句会月間賞永久保持者 片岡 加代

* 山口県文化功労賞 平田 実男

* 第47回鳥取市文化賞 鈴木 公弘



出版・句集の発行

*川柳ふうもん吟社

『因幡方言川柳集』

*川柳ささやま社

『川柳ささやま句集（Ⅴ）』

*鈴木いさお

『川柳句集 おおきに』

*水野 黒兔

『残日句録』

*岸和田川柳会

『合同句文集 強いペン』

*六甲川柳会

『合同句集 ろっこうみちⅢ』

*新家 完司

『良い川柳から学ぶ 秀句の条件』

*北野 哲男

『朗老人の独り言』

*坂上 淳司共著

『戦火のなかを生き抜いて 80年前のわ

たしたち』

*新家 完司

『ようたんばうのうた』

*酒井 健二

『ゆきゆきて』

*平井美智子

『右上がり』

*小谷 小雪

『こいでつくり』

物故者（3名）

青山ひろし 令和4年12月21日没 90歳

岸 桂子 令和5年10月12日没 88歳

倉益 一瑤 令和5年2月22日没 89歳

新任役員（再任・留任は含まず）

常任理事 高杉 力 敏森 廣光

参 与 内田志津子 江島谷勝弘

藤村 亜成

理事 加藤江里子 斎藤 隆浩

酒井 健二 近兼 敦子

廣田 和織 福田 正彦

会計監査 坂 裕之

新同人（令和4年10月〜令和5年9月）

荒牧 孝子（芦屋市） 今村 和男（大阪市）

岡田 恵子（大阪市） 小川 道子（尾道市）

兼崎 徳子（山口市） 北野クニオ（京田辺市）

喜多村正儀（各務原市） 城戸 誓子（神戸市）

黒木 栄子（宮崎市） 小畑 宣之（尾道市）

西郷紀美代（豊橋市） 坂野 澄子（河内長野市）

宗 和夫（尼崎市） 武田 悦寛（八幡市）

田原 康雄（大阪市） 鳥居 宏（高槻市）

原 徳利（安来市） 堀本のりひろ（石川県）

本田さくら（福岡県） 横田 次郎（神戸市）

松下 英秋（三田市） 三谷松太郎（高知市）

安野かか志（今治市） 吉道あかね（貝塚市）

同人総会出席者（受付順・58名）

上田ひとみ 江島谷勝弘 出口セツ子

内藤 憲彦 新阜 義明 新家 完司

小島 蘭幸 杉野 羅天 福田 正彦

藤井 智史 山田 耕治 牧野 芳光

藤村 亜成 松岡 篤 内田志津子

初代 正彦 村田 博 敏森 廣光

藤井 宏造 高杉 力 横田 次郎

桃谷 和郎 酒井 健二 松下 英秋

大内 朝子 北村 賢子 宗 和夫

川上 大輪 上田 和宏 水野 黒兔

森田 旅人 栗原 道夫 廣田 和織

藤田 武人 吉村久仁雄 木本 朱夏

澤井 敏治 原田すみ子 山下じゅん子

平賀 国和 坂 裕之 緒方美津子

小野 雅美 山崎 武彦 西出 楓楽

居谷真理子 栃尾 奏子 伊達 郁夫

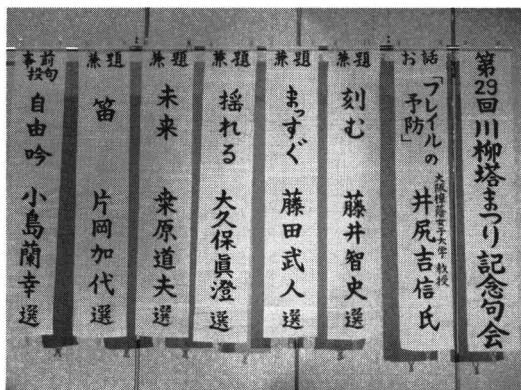
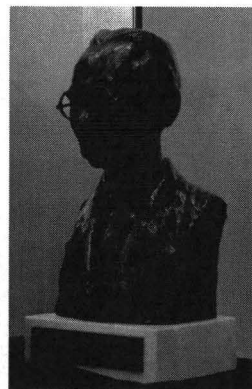
中井 萌 平井美智子 山野 寿之

佐々木満作 山田 厚江 羽奈 和子

古今堂蕉子 中村 恵 松原 寿子

鈴木いさお

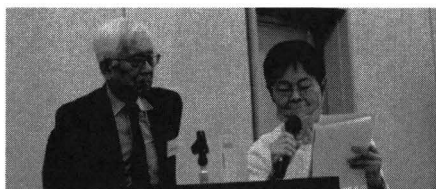
各賞表彰・記念句会



小島蘭幸主幹の挨拶

残暑厳しい九月から急に秋風が吹き始めた日の十月七日(土)、ホテル・アウイナで第29回川柳塔まつりが賑やかに開催された。

同人、誌友、他柳社、川柳愛好家と



司会 水野黒兎・居谷真理子



協取 江島谷勝弘・枅尾奏子



203名の皆さまが喜々として集まれ、コロナ禍を吹き飛ばす盛会となった。
記念品は、様々なサイズの封筒一式。投句箱脇には、先人の一句を添えた枅尾奏子さん手作りのクッキー。会場正面には金屏風。演壇の傍からは麻生路郎師の胸像が会場を見守ってくださっている。
司会進行は、水野黒兎・居谷真理子。開会の辞は新家完司理事長。続いて小島蘭幸主幹の挨拶。そのあと、各受賞者に

主幹から表彰状と記念の盾が贈られた。続いて本年度の新同人(24名)のうち、出席者8名の紹介。代表して今村和男さんが抱負を述べられた。

おはなしは、大阪樟蔭女子大学健康栄養学部教授の井尻吉信氏の「フレイル予防のための〈食〉と〈社会参加〉」。会場の皆さんにとって関心ある内容でもあり、興味深く聞き入った。参加型のお話なので自分の食生活を



チエックしたり、途中でのイスウオーキングでは、イスを揺らしながら1分間息を切らして身体を動かしていた（詳細は91頁参照）。
 いよいよ川柳大会に入る。皆、息を止めるように披露に聞き入る。天位には記念品が贈呈され、拍手が渦巻いた。楽しい時間はあっという間に過ぎ、川上大輪副主幹の閉会の辞をもって恙なく大会は終了した。（じゅん子）
 月間賞は森田旅人さん（河内長野市）。（司会―黒兎・真理子）（協取―奏子・勝弘）（清記―憲彦・勝弘・国和）（懸垂幕墨書―耕治）（撮影―松岡恭子）



受賞者（敬称略）前列右から、吉道あかね・主幹・宇都満知子・初代正彦
 後列右から、梶谷和郎・島田明美・敏森廣光



新同人の方々（蘭幸主幹を囲んで）

おはなし

フレイル予防のための「食」と「社会参加」

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部 教授 井尻 吉信

1. ころあたりはありませんか？

私は日頃、地域の内科クリニックにおいて、糖尿病や腎臓病などを持つ患者様に対する栄養食事支援を担当しています。その中で最近、以下のような患者様に遭遇する機会が少なくありません。

① 80歳、女性、身長153cm、体重38kg（最近低下傾向）、BMI16.2kg/m²（痩せ型）、目立った疾患なし ↓「娘から強く言われているので減塩に努めている。テレビで野菜の先食（ベジファースト）が体に良いと聞いたから実践中。でも、味気がないし、野菜ですぐに満腹になってしまう。コロナ感



井尻 吉信氏

染が怖いので、外出することはない。さらに、最近呂律が回らなくなってきたため人と会うのが億劫。主食は米飯からお粥に変えたが茶碗1膳はしっかり食べているから大丈夫。」

② 77歳、男性、身長165cm、

体重50kg（最近低下傾向）、BMI18.4kg/m²（痩せ型）、目立った疾患なし ↓「糖尿病になるのが怖いので、米飯などの炭水化物は全てカットして、お肉も油も極力とらないように努力している。コロナ前までは地域の体育館で仲間とスポーツをしていたが、今ではすっかり参加者が減ってしまい、通うことをやめてしまった。その分、一人でせつせとウォーキングを頑張っているが、他者との交流はなく生活に張りがあるとは言えない。体重だけは順調に落ちてきている。」

どこに問題があるの？と思われる方もいると思います。ここで大切なのは、「年齢」を考えなければいけないということです。高齢者のみを対象とした最近の研究では、BMI（体格指数）が低いほど死亡率が高くなるという成績も発表されています。つまり、高齢者はある程度の体重を維持することが大切であり、過度の誤った食事制限や運動は逆効果になる可能性があるのです。

例えば①の方に対しては、ベジファーストを見直し、しっかり食べて欲しいたんぱく質から順番に食べること。少し濃い味付けになったとしても、毎日の食事を美味しいと感じて

もらいながら、しっかりと食べていただくことを優先すべきと考えます。また、人と会話をすることが減ると、お口の筋力低下による咀嚼障害が生じ、主食がお粥に置き換わってしまうケースがあります。この方のように「1膳食べているから大丈夫」とおっしゃる方も多いですが、米飯1膳に比べて全粥1膳のエネルギーは約半分であることに注意が必要です。つまり、今の体重を維持するためには、その年齢や病態に合わせた「正しい食べ方」や「エネルギーを確保する方法」を知っておく必要があります。

②の方は、中期の時に刷り込まれた知識（米・肉・油の摂り過ぎはダメ）を未だに引きずり、運動によるエネルギー消費量を補いきれていないため体重が減少してきています。ただ、ご本人は「順調に減量できている」と考えていることが問題であり、その誤解を解く必要があります。運動をして筋肉をつけるためには十分な材料が必要です。つまり、各種の食品からバランスよく栄養素を摂取するとともに、しっかりとエネルギーをとることが大切となります。

2. 「体重測定・記録」を忘れずに

痩せたいと思っていないのに体重が減少する「意図しない体重減少」はご存じでしょうか？「年がいったから痩せてくるのは当たり前」という考えには注意が必要です。そのためにも毎日決まった時間に体重を測定・記録することをおすすめします。また、医師や管理栄養士とお話しする機会があれば、記録したものを持参するようにしましょう。自身では

気付けなかったことを発見するきっかけになるかもしれません。

3. 「人と繋がる」ことを大切に

フレイルとは「加齢に伴い心や身体が衰えた状態」のことを言います。また、フレイルの発症には、筋力低下や低栄養などの「身体的要因」、閉じこもりや独居などの「社会的要因」、認知症やうつなどの「精神的要因」などが相互に関係していることが知られています。なかでも、「社会的要因（※人との繋がり）」は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって大きな影響を受けました。実際、千葉県柏市で行われた大規模な研究によると、フレイルには、身体活動に加えて文化・地域活動（人との繋がり）が極めて重要であることが示されています。

2023年5月より、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が5類感染症に移行されました。これに伴い、地域での活動が再開されているところも多いと思います。ただ、現在もおご自宅にこもっている方も少なくありません。フレイルを予防するためには、「しっかりと食べて・しっかりと運動」だけでなく、積極的に「人と繋がる」ことで、その効果を上げることが期待できます。川柳を考えることはもちろん、その句を持ち寄って交流する「川柳塔まつり」は理想的なフレイル予防の取組です。お近くの方を誘い合わせて交流し、張りのある充実した日々を送って参りましょう！

懇親宴



参加者の感想

緊張と感動

折田 あきこ（同人・大阪）

前年度同人に推薦して頂きはじめて川柳塔まつりに参加させて頂きました。さらびやかなライトのある広い会場で大勢の参加者の皆様に圧倒され緊張の連続でしたが、陰で会を支えて下さっている役員の皆様の奮闘を見て、この会が長く続いているのだなあと実感出来、感動しました。

残り少なくなった人生ですが、終わり近くなって川柳に出会い、先生や仲間巡り会えた事に感謝しています。頑張った句も抜いて貰えて充実した楽しい一日でした。

緊張の初めての川柳塔句会

今村 和男（同人・大阪）

「誰も人の話なんか聞かないよ」という悪魔のささやきに背を押され、新同人代表としての挨拶を行いました。話し出すと会場がシーンとして、皆さんが聞かれ

ているのをひしひしと感じました。

会場に着いたとき、皆さんの名札を見ると、誌上等でお名前を知った方々が目の前を通って行かれます。てっきり男性だと思っていた方が女性だったりで、凄いいリアルはいいなあと感激です。

自分の席で披露を聞くときは、安堵感で満たされていました。皆様の個性的な呼名を聞くと何か川柳の歴史を感じます。小島蘭幸主幹のおかしみと哀しみを包み込むような披露には、これが川柳かという感動がありました。句会とは川柳を通して人と交流する場であり、句会こそ川柳だなあとつくづく思いました。

感動とご温情を胸に

兼崎 徳子（同人・山口）

私が川柳塔に入会したのは、川柳を始め3年が経過した頃、山口川柳吟社で指導頂いている中前幸子先生に勧めて頂いた事がきっかけです。

毎月届けられる「川柳塔」で、感性あふれる句や歴史、コラム、初歩教室等、楽しく読ませて頂いております。しかし、自分ではさっぱり句が浮かばず、ぼんやりと不安に思っていたところ、川柳塔ま

つりを知り、思い切って参加しました。

句会は、選者の方々のすばらしい朗読力で優れた句をどんどん詠まれ、あつという間に時間が過ぎ、驚きました。

私は、新同人にご紹介頂きましたが、マスクを取り忘れ、手と足が一緒になる程緊張しました。

井尻吉信先生のおはなしでは、フレイルの予防について会場の皆様が一体となつて勉強する感じが印象的でした。

句会の後も、懇親会・二次会と、平井美智子先生をはじめ、たくさんの方々に大変お世話になりました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

今日の感動を忘れず、皆様から頂いたご温情を胸に頑張ります。ご指導よろしくお願い致します。

初めて参加して

子林 まゆみ（滋賀）

暖かな秋の一日、川柳塔まつりに参加し楽しみました。

新参者でワクドキでしたが、久しぶりの先生方、諸先輩方のお顔に、席隣の方の優しさにも触れホッと。お題投句終了後は話の花を咲かせました。

選句発表の前の「フレイルの予防（井尻氏）」からも学びました。運動も大事だが、地域活動、文化芸術活動に参加することがより大事と。

川柳を愛し集い発表交流することこそ最高のフレイル予防と確信しました。

句会の結果はというと「揺れる」で一句抜いていただきました。ありがとうございます！また参加します！

二度目の参加

中井 楓 華（誌友・兵庫）

川柳塔まつりは二度目の参加でした。初めて参加した昨年は、会場の広さと溢れんばかりの出席者の方々にただ驚くばかりでした。

今回は二度目の参加でしたので少し気持ちの余裕もあり、周りの方々と話をしたり自分の通う句会の話をしたり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

「フレイルの予防」のお話はわかりやすく、これからの生活にとても参考になりました。

披露が始まり、ワクワクして臨みましたが、終わってみれば、全没でシヨックでした。が、入選された皆様の素敵な句に

触れ、こんな経験が出来る川柳塔まつりに参加でき、やる気とファイトが湧いてきました。

これを機に、ますます精進して頑張りたいと思います。

川柳塔まつりに参加して

平尾 正人（現代川柳・鳥取）

川柳塔まつりに前回参加したのはコロナ流行前なので、実に何年ぶりかの参加でした。いつもは表彰式後のおはなしはパスすることが多いのですが（すみません）、今回は普段私が健診センターで指導している仕事内容と関連が深いため、フレイル予防の話を句会以上に真剣に拝聴し、参考になりました。懇親会は鳥取県からの参加者が少なく、恒例の貝殻節の合唱も3人だけでしたが楽しいお酒でした。まさに「懇親会あるから参加する句会」ですね。

川柳の未来

森 茂俊（番傘・大阪）

第29回川柳塔まつりのご盛会おめでとございます。

昨年に続いて今年も参加できましたが

益々、川柳塔まつりの活気を感じました。選者の方々の多様性というか、若い同人の方も育っているように思います。

もちろん川柳界は高齢者がまだまだ主役である事に変わりはありませんが、次の世代に路郎氏の川柳が継承されていければいいなと思いますし、今回そのような予感を感じました。

川柳塔まつりは楽しい

山本 三樹夫（同人・愛知）

川柳塔まつりへの参加は今回で四回目ですが、流石まつりに相応しく熱気が感じられました。

兼題の披露に移ると会場の空気がピンと張り詰め、五客三才の句は流石だと唸りました。

また、井尻吉信先生のおはなしの、①フレイル予防のための食事を正しく理解する、②社会との繋がりが（人と交流する機会を増やす）を老化する体を健全に保つ秘訣だと知り、今更ながら自分も健康に努めねばと思いました。

川柳塔まつりが益々充実発展することを望みます。

川柳大会入選句

刻む

藤井智史選



トラのアレ忘れんように刻み込む
大谷は休んでいても名を刻み
母と孫二人いつしよの刻み食
目の奥に「NGファイル」刻み込む
小刻みに上がる物価に音を上げる
プルス音ナースルームの夜を刻む
待つ時と待たせる時で違う秒
思いではスマホに刻む新時代
百年の皺を刻んだデスマスク
仏壇で亡夫の時計が刻む朝
百年を刻んで百歳の五体
円空が刻むと呼吸する丸太
正論を寄ってたかって切り刻む
口レックスもカシオも同じ24時
秒針の音に襲われ眠れない

櫻井 崇史
田吹 宗鉄
山下じゅん子
三村 舞
木見谷孝代
山田 耕治
丸山 孔一
東 定生
鈴木いさお
島田 明美
居谷真理子
西出 楓楽
川端 六点
斎藤 隆浩
春日 綾乃

秒針が僕の記録を塗り替える
閃光を刻むドームへ鳩が翔ぶ
やり終えてしみじみ刻む回顧録
任された仕事を果たす刻みネギ
敗戦の棋譜を刻んで糧にする
わたくしの余命を刻む大落暉
面影を刻む絆を深くして
刻まれた眉間に深い悩み持つ
倅せをいっぱい刻み温める
ねぎ刻むパパも手慣れた赴任先
持ち寄って子供食堂愛刻む
小刻みに手を震わせる祝い酒
組板の真ん中辺で刻む「時」
おばあさんになった漬物を刻む
大根を千六本に切る娘
お好み焼き上手に返し刻むコテ
にんにくをたっぷり刻む力こぶ
食材を刻むリズムで気が弾み
引きずった恋の尾鰭を切り刻む
愚痴小言刻みピクルスてんこ盛り
千本の葱を刻んでいる戦
哀しみを刻む戦が止められぬ
遺言の一字一句を刻む筆
悔しさを刻み止まったままの軸
今日の悔いスパッと消去みじん切り

平松かすみ
木本 朱夏
津守 柳伸
栃尾 奏子
川端 一步
徳山みつこ
吉道あかね
森口 美羽
山本加お里
米田 恭昌
吉田 禮子
安福 和夫
栗原 道夫
森中恵美子
大沢のり子
笥 靖夫
片岡 加代
阪本 秀子
辻 肇
岡田 恵子
くんじろう
柴田 桂子
久世 高鷲
富永 恭子
飛永ふりこ

溜め息を刻んだドアを開け放つ

キスをする思惑刻む初デート

夫に添いリズムを刻む半世紀

失恋を束ね怒涛のみじん切り

白樺にイニシャル刻む夏の恋

告白を急ぐハートが鳴り止まぬ

片足でリズム刻んで君を待つ

葱刻む幸せそうな細い腕

アバンチュール逢瀬邪魔する砂時計

刻印は父の遺産のありつたけ

肅肅とオトコを刻む赤い爪

佳

胃の中で残さず刻み込む嫌味

みじん切りしたい男がいるのです

レコードのノイズが刻む日日のウツ

晩節を刻んだままに晒す首

わだかまり刻みシンクに流す夜

人

振り向いてくれた瞳を目に刻む

地

イニシャルも薄れた指輪ゆるぎなし

天

満月を刻めば人恋いの雫

軸

寅の刻ですよそろそろSOREにする

奥澤洋次郎

西村 哲夫

古川美智子

鈴木 かこ

高杉 力

岩田 明子

青木 隆一

吉富ひろし

村田 博

山内 迪

浅井 典子

鈴木 栄子

西澤 知子

杉本 光代

杉野 羅天

折田あきこ

牧野 芳光

金子美千代

平井美智子

まっすぐ

藤田 武人 選



直線を脱輪免許返します

ストリートパーマを止めてあるがまま

まっすぐなやつで時々へそを曲げ

通訳がまっすぐ訳し大ヤケド

切り取り線真っ直ぐに切る袋綴じ

まっすぐに帰りましたと千鳥足

まっすぐに天を指さす道標

まっすぐに歩くと翼生えて来た

AIがまっすぐ過ぎる答出す

玄関につま先そろえ並ぶ靴

銅像のお方はまっすぐで頑固

竹だつて曲がつてみたい時がある

まっすぐにちよつと油断をした尻尾

まっすぐな気性ですつと平社員

あんなにもまっすぐな目で甲子園

渾身の真っ直ぐ勝負ツースリー

最短でひたすらヌーの大移動

大久保真澄

山田 厚江

川端 六平

米田利恵子

西谷 公造

加藤江里子

野口真桜子

高杉 力

次井 義泰

今村 和男

緒方航太郎

吉道航太郎

長島 敏子

奥澤洋次郎

立蔵 信子

油谷 克己

岸井ふさゑ

まっすぐな人はポキンと折れやすい

終章の煙まっすぐ未練なく

まっすぐな医者で薬をくれません

追伸の刃まっすぐ胸をつく

生き下手で真っ直ぐ歩くほかはない

まっすぐに暮らしたはずが蹴躓く

まっすぐな性格ですがズボラです

べんちゃらは要らんまっすぐ言うてみい

直球の意見を躲す会議室

良案も無理に通せば波が立つ

まっすぐに生きてひとりの皿洗う

ゆで卵つるりと恋はまっしぐら

まっすぐに転んだ事のない卵

立ち漕ぎのブランコ空へ空へ蹴る

ハグされて私まっすぐ歩けない

まっすぐに生きて楷書を崩さない

心底にブレない線を抱いている

まっすぐに目を見て話す子の決意

まっすぐに伸ばしてやろう子の奇才

ヨチヨチが一直線に目指すママ

寄り道は何時も断る恐妻家

ああ言えばこう言う妻のストレート

まっすぐに生きた証しの深い皺

直球をやりわり受けてくれた父母

青砥たかこ

津守 柳伸

正信寺尚邦

銭谷まさひろ

吉村久仁雄

坂 裕之

青木 隆一

松岡 篤

小野 雅美

森 廣子

澤井 敏治

平井美智子

川上 大輪

柴田 桂子

山崎 武彦

吉道あかね

柏原 夕胡

藤原 大子

鈴木 栄子

山野 寿之

両澤行兵衛

木見谷孝代

島田 明美

阪本 秀子

まっすぐの手本親父の白い骨

父さんがまっすぐ生きてきた轍

伝えたいことまっすぐに糸電話

ピンヒール譲らぬままの一車線

わたし発まっすぐ君の心まで

忠告も何も聞こえぬ恋でした

胸にズバツ愛の告白ストレート

真っすぐな縫い目に母の暮らし見る

鉛筆をまっすぐ持って五・七・五

まっすぐなポストに嘘をほうり込む

佳

ひまわりの背筋に天を突く構え

メビウスの輪をまっすぐにまだ戦

誰？と問う母の眼強く我を刺す

父ちゃんのまっすぐが好きファルセット

悲しみ誘う直線の心電図

人

まっすぐな愛ですひとりよがりでも

地

まっすぐ言ったまっぶたつに割れた

天

かあちゃんの喜ぶ顔を見たくって

軸

弱点を狙わずまっすぐに勝負

土田 欣之

廣田 和織

楽原 道夫

神田 良子

中村 恵

春日 綾乃

山端なつみ

吉田 禮子

森中恵美子

柿花 和夫

杉野 羅天

水野 黒兎

饗庭 風鈴

前中 知栄

藤井 智史

片岡 加代

反橋 政典

上田ひとみ

揺れる

大久保 真澄 選



コスモスが揺れる楽しくなってくる
餅つきをしてるな月が揺れている
ゲンナマの誘いにちよつとだけ揺れる
愛すらも金の一字に揺れている
損得に揺れましたねと囁かれ
「アトイッキュー」のコールに揺れる甲子園
左肩が揺れて逢いたがつています
助手席に移るかいつそ降りようか
震度7 鱗が全部落ちました
立ちくらみか陽炎かいや呑み過ぎか
すぐ揺れる僕の重しに妻がいる
ブランコが子供乗せずに揺れる過疎
原発の灯に甘えていいですか
お好み焼き整い躍るかつお節
どんぐりは木を揺らす子に落ちてやる
アメリカが揺れるとうねる日本海
アタリハズレもあって再婚ゆれている

栗原 道夫
銭谷まさひろ
米田 恭昌
酒井 健二
藤原 太子
坂上 淳司
立蔵 信子
島田 明美
川上 大輪
西出 楓楽
宗 和夫
水野 黒兔
石田 孝純
子林まゆみ
青木ゆきみ
青砥たかこ
西澤 知子

震度七神戸が割れた日の記憶
扶養枠超えて働くべきか否
一本松はいつも揺れてる泣いている
延命はいらぬと書いて揺れている
縄のれんおいでおいでと揺れている
核心に触れたか揺れている小首
散る覚悟できずに揺れている枯れ葉
不戦の誓い忘れ九条揺れている
九条を揺らしつづけるのは誰だ
目標は卒寿白寿と揺れている
怒号一喝動揺の眼を覚ます
一合の酒で地球を揺らす下戸
揺れるなよ地面撫でたりさすつたり
なるようになりまます好きに揺れなさい
少子非婚日本の明日が揺れている
再婚の報せへお灯明揺れる
情と義理挟間に揺れる金の多寡
あややっぱり帰ろうかまだ揺れるノラ
プーチンの揺れる左手左肩
みいつけたコスモスが揺れかくれんぼ
揺れ止まぬ親ガチャ子ガチャ血の絆
糞虫が揺れて哲学しています
六十歳好事魔多し恋模様
居丈高内心揺れているのです

山崎 武彦
山端なつみ
小島 蘭幸
平井美智子
廣田 和織
初代 正彦
折田あきこ
出口セツ子
藤井 宏造
江島谷勝弘
藤村 亜成
村田 博
中井 萌
鈴木 かこ
奥澤洋次郎
吉道航太郎
宇賀 史郎
柴田 桂子
井澤 壽峰
中岡千代美
長島 敏子
伊達 郁夫
増原 文子
安福 和夫

とりあえず鉛筆書きにした決意

リーダーが代わるとまたも揺れ動く

よく転ぶのはこの星が揺れる所為

黄金の波を美しく夕やける

力まずに暮らしています揺れながら

飲み込んだ言葉がぐらり不整脈

バレるかないやバレへんとワイロ受け

優柔不断風もないのに揺れてます

プロボーズの余韻観覧車が揺れる

現実を逃避し明日が揺れている

佳

終末時計0時寸前揺れに揺れ

右顧左眊日和ってばかりいる男

コロッケかシチューかジャガイモが安い

台風を遊ぶからコスモスの勝ち

「元氣です」の文字が揺れてる友の文

人

たまらんな新酒に揺れる休肝日

地

吞兵衛の大王が建てたゆれる家

天

貴方にはあなたの良さがあるじゃない

軸

揺れて揺れてやっぱりここにいる私

藤田 雪菜

坂 裕之

新家 完司

森中恵美子

柴本ばつは

小野 雅美

松岡 篤

梶谷 和郎

川端 六点

富永 恭子

澤井 敏治

木本 朱夏

栃尾 奏子

春日 綾乃

敏森 廣光

浅井 典子

青木 隆一

前中 知栄

未 来

栗 原 道 夫 選



蔷薇色の未来へ向いているあんよ
メルカリへ僕の未来を買いに行く
良心も未来も売っているネット
AIに聞かずに描こう未来図は
プロフィール見れば未来が分かり出す
子に渡す未来は白のままが良い
未来図を鞆につめて一人旅
二十年後の日本を思う敬老日
おばあさんは一寸先でさえ未来
栗ご飯少し明るくなる未来
ドレミファソ余生はきつと晴れだろう
未来を語る核に焦点当てながら
わたくしの墓碑銘さざむ月の石
天国でも妻と仲良く遊んでる
マトリョーシカどんな未来が見えますか
砂時計逆さまにして第二章
未来には未来語で書く五七五

小野 雅美

梶谷 和郎

川端 六点

山野 双葉

富田 末男

伊達 郁夫

岡田 恵子

杉本 光代

大久保眞澄

青砥たかこ

折田あきこ

西 美和子

中山 春代

敏森 廣光

西出 楓楽

斎藤 隆浩

上田 和宏

柳友となる日が来るか宇宙人

S D G s 未来みらいと急かされる

近未来僕んち亭主関白に

将来のことは語らぬ老いの恋

これからよスキルアップよ喜寿ですよ

百まではもうふた暴れるつもり

引き算もいいな老後のバースデー

百歳の母に未来を握らせる

口紅を塗った翌日から未来

未来ある君だからなと釘を刺す

二人でないと意味のない未来

老人の未来にたんというお金

たらればに運は味方をしてくれぬ

隕石の欠片未来へ続く道

伐採の桜が憂う近未来

未来より現世で咲くや曼珠沙華

爪伸びるかすかな音もさせないで

今通過中ですあの頃の未来

妄想もいいな元氣な未来なら

いつですか近未来なんてばかさに

ブルトップ引いて未来をこじあける

家系図の末の一人は月に住む

未知数の未来にはしゃぐ微生物

みの虫の未来へ秋の夕まぐれ

中井 萌

浅井 典子

松岡 篤

山田 恭正

山田 厚江

金子美千代

杉野 羅天

平井美智子

米田利恵子

吉道航太郎

中岡千代美

吉道あかね

増原 文子

川本 信子

大島ともこ

油谷 克己

きとつこみつ

平尾 正人

谷口 東風

安福 和夫

石田 孝純

萩原 狸月

平松かずみ

前中 知栄

月あかり一秒先は闇である

未来図を語る二人の観覧車

友情に甘えて未来とり逃がす

ウインクで掃除手をたたけばご飯

未来にはA Iよりもドラえもん

Tシャツに描いた未来に陽が上がる

未来から降ってきたのは桃の種

瘡蓋をめくれば見えて来る未来

水掻きが君にもついてくる未来

はみ出していたらごめんという未来

佳

寝転んで未来の風をよんでいる

火星までやがて届くぞ蜘蛛の糸

国道を毛虫が這うていく未来

秋祭り未来見据えているんだね

未来への約束果たすにぎりめし

人

未来から来たと言ひ張る酔っぱらい

地

土地だけは月と火星に買ってある

天

非常口からは未来がよく見える

軸

未来からの滝のしぶきと思ひ込む

柏原 夕胡

吉田 禮子

柿花 和夫

青木ゆきみ

西谷 公造

森 茂俊

木本 朱夏

高杉 力

くんじろう

大沢のり子

森中恵美子

徳山みつこ

土田 欣之

立蔵 信子

西村 哲夫

青木 隆一

両澤行兵衛

川上 大輪

笛

片岡加代選



秋ですネ子供園から鼓笛隊
牛若丸の横笛に負けました
ノーマアの笛よ今こそ気張らねば
平和っていいな草笛孫の守
宗次郎のオカリナ故郷繰り寄せ
口笛が似合う嵐を呼ぶ男
虎落笛あれは亡き父母妻の声
口笛が鳴った期末テスト済んだ
サヨナラの言葉が溶けていた霧笛
車椅子に笑顔が浮かぶ祭り笛
ノーマイド笛よ響けよ戦場に
さよならの代わりに鳴らすホイッスル
口笛が鳴ると娘が消えていく
蛇行する川になりたい銀の笛
笛吹けばコブラもベリダンスする
遠足で草笛吹けた背が伸びた
少しづつメロディーになるリコーダー

平松 かすみ
森中 恵美子
長島 敏子
田中 おさむ
西出 楓楽
くんじろう
米田 恭昌
山田 耕治
高杉 力
銭谷 まさひろ
伊藤 義幸
鈴木 かこ
伊達 郁夫
平尾 正人
村田 博
森田 旅人
原田 すみ子

海が風ぐまではと笛を吹いている
プーチンに退場の笛誰が吹く
ちよつとでも緩めば妻のホイッスル
神さまを味方につけるホイッスル
ピッコロを奏でるような日本晴れ
尺八を吹く人の目は笑わない
何年も鳴らない笛が抽斗に
ノーマイドの笛待つ国の多いこと
深追いはアカンと神のホイッスル
フルートの音に深み増す秋の彩
口笛を吹けばカラスが会釈する
汽笛一声昭和の旅が消えてゆく
ホイッスル鳴るとライバル無二の友
チャルメラの小腹を満たす夜鳴きそば
尺八が割って入ったジャズライブ
プーチンよあなたの笛は曲ってる
C O 2 はずつと笛を鳴らしてる
笛吹けどビクともしない葦である
神様の警笛がなる沸騰化
いざという時の呼子は手放せぬ
サッチモのトランペットは忘れない
笙の音が聞こえて神もどっこいしょ
焼き芋の笛に女子寮窓が開く
指笛でお願いボクのご出棺

平井 美智子
敏森 廣光
穂谷 和郎
栃尾 奏子
牧野 芳光
松下 英秋
栗原 道夫
宗 和夫
小野 雅美
澤井 敏治
青木 隆一
大西 將文
山崎 武彦
木嶋 盛隆
梅澤 盛夫
松岡 篤
立蔵 信子
井澤 壽峰
浅井 典子
岩田 明子
両澤 行兵衛
川上 大輪
正信 寺尚邦
吉道 航太郎

君の笛僕はコブラの心地です

君と別れて口笛がうまくなる

ノーサイド地球が丸くなりました

震災後笛ぶらさげたランドセル

口笛吹くもろに若さが消えている

笛吹いて吹いて貴方を忘れよう

ナニコレの世だから笛をポケットに

ノーサイドの笛を待つてる避難民

陽気な家族やかも笛を吹いている

ホイッスル吹く倒れるまで走る

佳

指笛で振り向いたのが今の妻

ちくわでも鳴ります穴がある限り

産声という人生のホイッスル

世知辛い世を口笛を吹きながら

笛を吹きなさい戦争止めなさい

人

本棚の鳩笛たまにポーと鳴く

地

ピーヒャララ今年は御興出るそう

天

笛が鳴るまで生きていいですか

軸

ズルしてはいけませんよとホイッスル

矢倉 五月

西澤 知子

中田 尚

宇都満知子

三村 舞

森口 美羽

内藤 憲彦

柿花 和夫

森 廣子

酒井 健二

次井 義泰

春日 綾乃

藤井 智史

鈴木いさお

小島 蘭幸

新家 完司

小川賀世子

青砥たかこ

自由吟

小島 蘭幸 選



今しみじみ被爆後七十八年

真つ直ぐに立つて待ってた塔まつり

いつの世もガハハと笑えたらいいね

自画像の目鼻の位置が決まらない

知らぬ間に母の味から妻の味

会釈するその距離感が心地よい

深呼吸肩の力も抜いてみる

生ゴミを一杯出して元気です

ありがとう言っていわれている豊か

人間の健気が好きな神である

うれしくて石ころが転がっているよ

ページ繰る手のゆつくりと星月夜

マンネリを破るロックが心地よい

戦った証しの甲子園の土

デコボコですが美しいお月さま

空蟬が身の上話してくれる

片付けもちゃんとできないまま日暮れ

北村 賢子

鴨谷瑠美子

今井万紗子

折田あきこ

木嶋 盛隆

梅澤 盛夫

饗庭 風鈴

小川賀世子

大内 朝子

中村 恵

栗原 道夫

前中 知栄

岩田 明子

立蔵 信子

江島谷勝弘

吉道航太郎

初代 正彦

君が笑い私が笑い転げる

まだ途中厳しい道と知った趣味

ボケるひまないのでちゃんとボケてきた

兄が逝き周りの景色様変わり

ドロップの缶からこぼれ出す戦

窓閉めて松茸焼いて美味しいか

人間の終着駅に待つ花野

踏んばっているといい風吹いてくる

同意など不要わたくしだけの道

柔らかい闘志顔には出しません

大丈夫よ母の笑顔がそう語る

飛べなくなった折り鶴にされてから

君と手を繋いだだけなのに安堵

さんま焼く細身一匹文化です

足元で力の限り咲いている

ヒトによる温暖化なら直せます

ジグザグに来たこの道に御辞儀する

預金ゼロこの世にみれん有るものか

ふるさとの空き家に赤いランドセル

目や口の皺も愛しい亡母に似る

八起き目で拾った運に乗る余生

米寿今亡母百歳の心知る

守れずにゴメン亡夫の里の家

母も好きだった黒猫斑猫

大島ともこ

松原 寿子

大久保眞澄

平賀 国和

萩野 浩子

東 定生

山野 寿之

内藤 憲彦

岸井ふさゑ

春日 綾乃

宇都宮ちづる

川上 大輪

梶谷 和郎

長谷川崇明

居谷真理子

藤井 康信

金子美千代

酒井 紀華

島田 明美

宇都満知子

永田 紀恵

山本希久子

木見谷孝代

片岡 加代

飢餓の子の眼の奥にある青い空

青い星少し汚して秋刀魚焼く

「先に逝かへん」たった一つの妻の嘘

温めてくれる手紙を読み返す

一日に三度鏡を見て笑う

翔平のひと振りと聡太の一手

忘れることできて元気に生きてます

回り道したから君に会えました

一病を受け入れました空の青

ムー大陸に住む妻と三年目

佳

子を抱いた母が笑っている写真

さびしさをかたちにすれば砂糖菓子

髪型は自由 目指すは甲子園

はたる草ひたすら守るものは何

質問を変えます秋は好きですか

人

独りめしを助けてくれる純米酒

地

今ここで許せば君は花と散る

天

時過ぎて幸せでした介護の日

軸

鼓笛隊私の秋を連れてくる

久保田千代

伊達 郁夫

石田 孝純

小野 雅美

羽奈 和子

鈴木いさお

敏森 廣光

富永 恭子

神田 良子

藤井 智史

平井美智子

木本 朱夏

山端なつみ

桑原すゞ代

高杉 力

森中恵美子

吉村久仁雄

森田 旅人

川柳大会参加者

総数203名
(都道府県別・敬称略)

【埼 玉】	久保田千代	きとうこみつ	木見谷孝代	久世 高鷲	藤村 亜成	本田 智彦	増原 文子
【福 井】	西谷 公造	桑原ひさ子	奥原 道夫	くんじろう	松井 正義	松岡 篤	水野 黒兎
【静 岡】	中田 尚	古今堂蕉子	齋藤さくら	坂 裕之	三村 舞	宮崎シマ子	森 茂俊
【愛 知】	浅井 典子	坂上 淳司	阪本 秀子	佐々木満作	森 廣子	森井 克子	森田 旅人
関本かつ子	富田 末男	澤井 敏治	汐崎 正典	柴田 桂子	森中恵美子	両澤行兵衛	矢倉 五月
【三 重】	青砥たかこ	柴本ばっは	島田 明美	正信寺尚邦	山内規子子	山田 昭市	山野 寿之
【滋 賀】	子林まゆみ	初代 正彦	杉本 光代	鈴木いさお	山野 双葉	山本加お里	山本希久子
【京 都】	前中 知栄	鈴木 栄子	鈴木 かこ	銭谷まさひろ	吉村久仁雄	吉道あかね	吉道航太郎
【大 阪】	青木ゆきみ	高杉 力	伊達 郁夫	立蔵 信子	【兵 庫】	青木 公輔	伊藤 義幸
油谷 克己	池内 恭子	田中 新一	田中 廣子	谷口 東風	上田 和弘	上田ひとみ	梅澤 盛夫
石田 孝純	今村 和男	岩田 明子	田原 康雄	次井 義泰	緒方美津子	奥澤洋次郎	寛 靖夫
内田志津子	宇都満知子	宇都宮ちづる	土田 欣之	津守 柳伸	桃谷 和郎	奥水 弘	米田利恵子
江島谷勝弘	榎本 舞夢	大浦 初音	出口セツ子	徳山みつこ	斎藤 隆浩	酒井 健二	櫻井 崇史
大沢のり子	大島ともこ	岡田 恵子	内藤 憲彦	中井 萌	佐々木 堯	宗 和夫	反橋 政典
小川賀世子	荻野 浩子	小野 雅美	中村 峰子	中山 春代	田中おさむ	田吹 宗鉄	敏森 廣光
折田あきこ	柿花 和夫	片岡 加代	西村 哲夫	原田すみ子	富永 恭子	中井 楓華	中岡千代美
川端 一步	川端 六六	川本 信子	平賀 国和	平松かすみ	長島 敏子	新阜 義明	西 美和子
神田 良子	岸井ふさゑ	北村 賢子	藤井 康信	藤田 武人	野口真桜子	野口 龍	萩原 狸月
					藤田 雪菜	横田 次郎	松下 英秋

丸山 孔一 みぎわはな 宮本 緑

【熊 本】 杉野 羅天

村田 博 森 菊江 山内 迪

山崎 武彦 山田 厚江 山田 耕治

山端なつみ

【奈 良】

饗庭 風鈴 東 定生 安福 和夫

居谷真理子 宇賀 史郎 大内 朝子

大久保眞澄 大西 將文 春日 綾乃

加藤江里子 木嶋 盛隆 飛永ふりこ

中堀 優 西澤 知子 長谷川佳世子

長谷川崇明 菱木 誠 山下じゅん子

山田 恭正 吉富ひろし 米田 恭昌

【和歌山】 石田 隆彦 上田 紀子

柏原 夕胡 柏原 リエ 川上 大輪

木本 朱夏 松原 寿子 森口 美羽

【鳥 取】 山下じゅん子 山本希久子 吉村久仁雄

新家 完司 平尾 正人 牧野 芳光

【岡 山】 戸田まさこ 藤井 智史

古川美智子

【広 島】 小島 蘭幸

【山 口】 兼崎 徳子

ご芳志御礼（敬称略・順不同）

田中 新一 本田 智彦 小島 蘭幸

新家 完司 川上 大輪 西出 楓楽

木本 朱夏 片岡 加代 居谷真理子

上田ひとみ 上出 修 宇都満知子

江島谷勝弘 大久保眞澄 兼崎 徳子

久保田千代 栗原 道夫 梶谷 和郎

古今堂蕉子 坂 裕之 初代 正彦

高瀬 霜石 栃尾 奏子 内藤 憲彦

平井美智子 藤井 宏造 藤井 智史

藤田 武人 藤村 亜成 松岡 篤

松原 寿子 水野 黒兎 村田 博

森田 旅人 矢倉 五月 山崎 武彦

山下じゅん子 山本希久子 吉村久仁雄

番傘川柳本社 番傘わかくさ川柳会

美研アート

★以上の皆さまにご芳志拝受致しま

した。

有り難うございました。



おどろ城

毎月24日締切・35句以内厳守
掲載は原稿到着順となります。
楷書で誤字のないようにお願い
いたします。

編集部

川柳塔打吹(鳥取)

斉尾くにこ報

台風遊びが過ぎ見えぬ秋
酒好きの虫に毎晩金が要る
譲り合い先へ進めず大困り
ぼとぼとの汗に油断の一張羅
ポトポトと水道代がはね上がる
ゆつくりと落ちる点滴長い夜
ぼとぼとと流れる脳を掬う日々
干し芋の味知らぬ孫食べずボー
土用干し三日三晩の梅を干す
ストレスが溜まる頭を干す演歌
水田をたまには干して活ける
家族中の布団を干してヤッターだ
びしょ濡れのハートを散歩道で干す
グチャグチャの胸を夏日に干している

紀子 紀の治 貴子 芳江 久米代 龍枝 滋 紀美恵 貴恵 余光 重忠 悦子 完司 芳光

村の役切れ味問わぬ替刃です
人間に刃を向ける自然界
監督の諸刃使いが勝利策
刀剣で切っても切れぬ血の絆
正論を吐くたびさびていく刀
人間の勝手野生が刃むく
名刀の刃怖さと美しさ
無い知恵を煮干しは絞りきっている

川柳塔みちのく(青森) 稲見則彦 報

原因は自分のミスと省みる
原因はたしかにあるはず見つからず
プーチンの頭の髻にある火種
言い訳をあれこれ探す二日酔い
悪いのはすべて私と逃げる人
出来る親持ったはずだが似てないの
花が飲み水道代はね上がる
胃に穴がじくじくいびる妻が元
もめごとの原因は孫嫁姑
戦争の原因作る人の欲
閑古鳥鳴く原因はゲリラ雨
原因は寝言で言った女の名
おだて上手に乗せられはしゃぎ尻字描く
原因不明恋はポツポツと燃えあがる

友人 澄子 慕情 隆樹 孝子 規子 ひろ 義明 初枝 真由美 ひとし 美鈴 風来坊 則彦

義人 富隆 美知江 節子 重利 三津子 照彦

笑われたなら笑ってやるさ ケセラセラのぶよし
昼定番もぎたて野菜で冷し中華
健康を願ってしているスクワット
デジタル化置いてけぼりの孤独感
剪定の師の技を継ぐ鋸鉄
熱波では頭脳も熱っち熱っちち
注射コがホントに好きなお年寄り
七難八苦水に流せる笑いじわ
異常です連日熱波 狂いそう
父と子の微妙な距離に海を見た
放浪癖揺れやすくて不安定

城北川柳会(大阪) 近藤 正報

騙されていよう幸せなんだから
じつとカメラ見据える瞳戦禍の子
百年じゃ老舗と呼ばぬ京の味
飲み仲間酔えば珍味も踊り出す
いい泡だいい汗かいて来ましたね
紅葉狩り妻とはぐれた古都の寺
国境を跨ぐ鉄路にある踏み絵
京料理量少なくて高いんだ
寅さんの旅は鉄砲風まかせ
適当に息を抜くから生きられる
出張を言うと家内は嬉しそう

英子 龍馬 ぶさゑ 姦 重虎 霜石 洋子 一呑 和香子 吹喜 奏子 福貴子 隆浩 万紗子 郁夫 章 武人 博 洋志 廣光 宗鉄

スッポンはまず生血から飲まされた
スパームーンビルの谷間に感嘆符

ああサンマ珍味と並ぶ値の高さ

夢だったやつの自由もてあます

鉄壁の陣だがすっかり錆びている

ブライドをつつかい棒に老いの坂

いつまでも見送る老父が遠ざかる

山海の珍味を当てに江戸切子

老人がいじめられてる敬老日

納豆を珍味に変える柚子胡椒

東寺見て荷物下ろせば京都駅

廃線のレール虚しさ覆う草

心して生きねば今日が逃げてゆく

砂時計残り時間はあと少し

左遷の地京都だったら喜んで

ごめんねが言えて広がる青い空

戦争孤児一人ぼっちの回顧録

鴨川は五メートルごとに恋がある

夕風が夢を背負ってつれて来る

夾竹桃ひそかに抱いている愁い

たが外れ自製の文字を遠く置く

来る秋をひつこく邪魔をする猛暑

お返しはあの世でします悪しからず

徘徊に行つて来ますと出る散歩

和歌山三幸川柳会

西川 千鶴報

千恵子

満知子

榮子

京子

実

朝子

賢子

寿之

一歩

隆一

ゆきみ

繁子

野鶴

峰子

北舟

洋志

肇

黒兎

正彦

志華子

恭子

宏造

和夫

曖昧なことばに迷う恋ごころ

一生は迷路ばかりの長い道

星占い励まし貰う老いの日日

考えの深さが迷い強くする

迷子札の代り携帯持たされる

不便さが思考回路を目覚めさす

切り札がまだ懐にある迷い

迷い癖発車のベルが鳴っている

変わらない日々が続いている安堵

地球も星にんげんちよと間借りする

領海の争い知らぬ深海魚

星になれるならあなたと天秤座

好奇心私迷子になりそうだ

畑仕事迷いも入れて子にゆずる

夢でいい広い宇宙を泳ぎたい

どの星の下でも咲いてみるつもり

ミサイルを打つなきれいな星が泣く

またたいた星は母さんかも知れぬ

祖父母からどっちが好きと言われる子

百歳で百メートルを泳ぎたい

うつむいた目の泳ぐ子を諭す愛

行く雲に心泳がせ昼寝する

昭枝

一雄

まき

敏照

ひろ子

宏枝

菜摘

純子

起世子

和子

俣子

保州

和美

悦男

茂

知香

俊介

明子

義泰

康則

幸彦

彦弘

岸本宏章選

良い事がひとつあったよ今日は丸規子

読ませたい本に子供はそっぽ向き英子

ゴミ捨て場地上も海も宇宙まで大鯨

ゆつくりと話せば分かりあえるのに利子

口マンだけは抱いて百まで生きていく健二

「無茶しなや」母はいまでも母である宏造

信用を背負ってラベル旅に出る弘子

忙しい日々元気を貰うてます一歩

凸溪路凹は琵琶湖でピツタンコ珠博

言い訳はしないと決めた筈なのに子

佳句地十選

(10月号から)

緒方美津子選

ゴミ捨てに天神様が捨ててある石花菜

「無茶しなや」母はいまでも母である宏造

すいすいと世間を渡る二枚舌由子

針金の通りにならぬボクは松一歩

何にでも化けて重宝な新聞紙よしこ

機嫌よく生きて行くには金がいる紫陽

「ぼな眠る」言つてあの世へ行ったたり和郎

言い訳はしないと決めた筈なのに珠子

曖昧な笑顔に僕は騙される武人

読めるけど書けない漢字増えていく孝子

願わくは背泳ぎで星眺めたい
泳がずに浮いてみるのも生きる術
肩書きが取れて行く道見失う
流れ星まだ呆けるなど笑つてた
山小屋で空一杯の星浴びる
星降る夜宇宙の中に居る私
迷うから頭使つて知恵もつく
遠泳の夢へ黙々スクワット
迷つたら心ときめく方向へ
百歳のゴールめざして泳ぎます
迷つたら信じる強い自分力
目が合つて箸が止まつた活け造り
子供らに着衣水泳叩き込む

南大阪川柳会

松岡

白内障術後放せぬサングラス
声枯らすアルプス席の若き児ら
白い歯がハート盗んだ遠い夏
夫の言い訳証拠の嘘はすぐばれる
動機はあつても証拠が不十分
父と子の証明をする丸い鼻
靖国に行かぬ天皇平和主義
ビデオ判定など有り得ない我が家では
千鳥足いっぱい呑んでないと言う

正美 桂子 眞智子 よしこ 善英 克美 夢子 幸 泰博 興一 明宏 舞 千鶴 柳伸 江 双葉 志華子 いさお 敏治 国和 蟻日路 実

瘦せていた写真を友は持ち歩く
好きなんだ顔は正直赤くなる
手始めに証拠隠滅新社長
ケータイの履歴こまめに消している
反基地へ怒りに震えデモの列
言い訳の声の震える妻の前
怪談にふるえてみたい熱帯夜
金払いお化け屋敷で震えてる
戦火の子震える肩を忘れない
ミツパチのキスに震えるレンゲソウ
声震わせた父の説教今生きる
泣ける本読んでストレス流します
旅先のストレスケアになる足湯
アンパンマン読んでストレス吹っ飛ばす
ストレスを溶かしこみます露天風呂
句ができずモヤモヤしてる気が重い
炎暑毎日熱中症に氣をつける
保険証どうすりゃいいの今米寿
万博開催叫んだ議員辞めてはる
血縁の輪に囲まれて母白寿
台風一過秋のシンフォニーはじまる
老いること初体験で生きている
探します苦手な人の良いところ
人生は一度キラキラしていたい

大子 まゆみ 東風 昌紀 克己 常男 紀乃 直子 志津子 和織 楓楽 千鶴子 弘子 一歩 篤 峰子 ルイ子 柳右子 蕉子 寿之 勝弘 加お里 満知子 力

竹原川柳会(広島)

古田比呂子報

野辺に咲く小さな花に励まされ
花は咲く結弦東北勇気づけ
些細で良い咲かせて生きる善の花
優勝へカーブ談義に花が咲く
台風の進路気になる旅の宿
何処に行く蟻の行列長い旅
あの頃の外国旅行を自慢する
人生の旅只今木陰で涼み中
老杉の群生古社の森に行く
何もない一日だって旅は旅
雨から雨へ二人の旅はまだ続く
いい旅であつたと自分史には書いた
スマホ忘れ何と不安な一日よ
片時も離す気はない子のスマホ
反抗期二階の息子からメール
孫にスマホを学び心に灯が点る
亡くなった義姉のスマホが今も鳴る
病名は全員スマホ依存症
夏休みひまわり娘バワーアップ
八月の祈りはいつまでもつづく
キッチンでピカピカにして大暑です
夏バテへ嬉し友からスイカ来る

宣之 弘子 慶子 和子 節夫 日出夫 節生 比呂子 京子 夢香 笑子 蘭幸 千代美 白狐 敬子 栄香 輝恵 昭紀 歩美 貞子 厚子 幸子

誕生日お陰様で米寿です

十六夜の月と私が同じ顔

百点のテストだけはすてないで

小三 沙弥

はやおきのとりにトマトたべられた

小二 央

川柳塔鹿野みか月(鳥取)福西 茶子報

演技などいらぬビールのコマーション

いつ見ても隣の墓に缶ビール

指を折る十七文字は弾んでる

炎上のネット突った文字だらけ

クラス会恩師唄んで花が咲く

夏になり隠しきれないビール腹

柩にはいつこりとして入りたい

打たれても何度も挑む滝登り

花が好き花を愛する人も好き

猛暑避け涼を求めた滝も枯れ

につこりと笑った後が怖いんだ

フレンチの席で求めるジョッキ生

検診後上手に泡が立つビール

ニッコリが上手いボツタクリの酒場

花の名を覚える事も脳トレに

初音

史子

三つ指が夫に誠つくします

五・七・五十七文字に想い寄せ

とりあえずにつこりこれも処世術

能面がつこりすると不審がり

ササユリを生けると和むケアハウス

読めないが立派な事が書いてある

腹のうち見せずニッコリ世を渡る

楓花

孝子

宏章

盛桜

弘六

文道

完司

ゆたか

弘子

静恵

草文

白周

すみれ

ばらばたん名もない草の花も花

冷蔵庫ビール占領野菜泣く

三つ指が夫に誠つくします

五・七・五十七文字に想い寄せ

とりあえずにつこりこれも処世術

能面がつこりすると不審がり

ササユリを生けると和むケアハウス

読めないが立派な事が書いてある

腹のうち見せずニッコリ世を渡る

倉吉川柳会(鳥取)

熱中症熱中症言ってるうちに冬が来る

九十七二十五本の歯に感謝

老いてなお熱中できる趣味がある

暗い世だ大物ドンが闊歩する

川の字が布団飛び出す熱帯夜

感心して先生の名句に笑う

寝るのも命がけです熱帯夜

感極まる場面らしいが涙出ぬ

幸せな熱が玉子を抱いている

暑い日もコーヒー・お茶は熱くして

倉吉のヒーロー伯桜鵬に熱上げる

実感はないがどうやら八十歳

一平

瑞子

蟹郎

かおる

紫陽

大鯰

重忠

小鹿

恒

雄大報

鬼一

重忠

風露

智恵子

日出子

けいこ

凱柳

大鯰

麦青

道春

由紀子

完司

熱中症予防に水分たんと取る

喜怒哀楽あつて生きてる生きてる

バック中ドンと気になる嫌な音

カラシポタンドンの背中も丸くなる

炊飯器ピーツと鳴った栗ご飯

混雑にそつと分厚い夫の手

ときめきましよう青春でいたい

一回は洗ってしまう無洗米

ちったあ休め雨がやさしく声を掛け

猫よりもちったあ爺も役に立つ

松茸のちったあ人入る土瓶蒸し

放射能ちったあ海にも有るわいな

(ちったあ＝因幡方言で少しは)

ポイントか値引きか思案して出掛け

鈍いなあ人の顔色読めません

炎天下まずは木陰を探してる

間に合ってますとお墓の電話切る

言い訳をする度傷が深くなる

人生の最後の色が決まらない

千賀子

八千代

千賀子

醉芙蓉

照彦

龍枝

雄大

金子美千代報

まみ子

かつ子

三樹夫

美千代

凱柳報

山下

みゆき

回春子

一平

金祥

茶人

節子

真理子

久千代

八千代

千賀子

千賀子

誰からも好かれる笑顔忘れてる

閉じるより開いた方がいい拳

働いて小さいながらマイホーム

若い日の働く汗は宝物

現役の時より多忙翔んでいる

働いて年金もらい発泡酒

無位無冠働くだけの父でした

炎天下働く牛のなみだあめ

悪知恵が働くうちは惚けてない

終の駅働き詰めた貨車が着く

見込みが外れて貧乏くじを引く

意外にも書けなくなっている漢字

人影を消してしまった炎天下

境港久方ぶりの外国船

門限へ母は黙って外で待つ

外套を脱げばあちこち綻びが

意外にも俺の母ちゃんべっぴんだ

シエルトアを出るとひまわり酒れていた

性分が似合いそれだけの事です

母に似てあっけらかんと娘が離婚

男一匹似合う帽子とハンチング

男に似合うバラがなかなか見つからぬ

失恋に落ち葉・トレンチ・雨・涙

哀愁が似合う夕暮れ枯れ葉散る

房江

まさ

武之

初恵

稲佐岳

振作

日出美

蛙鳴

宏章

舞

重忠

みつ子

菊江

頼太

哲子

洋子

勲章

無限

善平

穀

白兔

拓司

紫陽

みゆき

半世紀似合いの夫婦演じ切る

川柳de遊ぼう会(大阪) 石田 孝純報

炎天下信号の赤長すぎる

炎天下毎日回る洗濯機

引き際が大事ですよとバチンコ屋

ヨイヨイと区別がつかぬフラダンス

捨てたとは言えず一緒に探すふり

離婚して納豆ほどの未練引く

暑さ負け気合いだけ入れ又座る

ごくたまにはんとのことも言っている

一線を引いたつもりが消えていた

外出の予定はないが見る予報

言い訳の小さな嘘に縛られる

アレヨアレヨと鼻先にアレがきた

美味そうな嘘が落ちてる曲り角

傷付けぬつもりがの嘘が透けている

引かされた貧乏くじは大当たり

ナースへとマニキュア落とす出勤日

指差し確認して廃線を渡る熊

わかやま吟社 松原 寿子報

坂道の天辺に咲く赤いバラ

七坂を越えて私が出来上がる

凱柳

孝純報

康雄

爽也

のり子

てるひこ

喜美子

晋一

はるみ

幸徳

(圓)恵子

次郎

よしみ

美智子

満知子

和男

雅美

孝純

六甲川柳会 梶谷 和郎報

海水を舐めてびっくり山の孫

その内が積もり積もって動けない

欲出してあと十年は生きたいな

突いたら人間なんてすぐ転ける

易々とこなす手つきに技光る

簡単に始めた趣味をすぐ投げる

簡単な方程式が難しい

簡単に引き受け泥沼にはまる

チンするだけで出来上がる一人膳

スローペースいのちも曲がり角である

遅咲きの種に期待の夢を描く

遅くとも途中で抜くと亀が言う

遅いけど貴方についていく歩幅

地団駄を踏むのがわたくしのダンス

私ならお手上げ求愛のダンス

足踏んでばかりなんですダンス靴

手をとってダンス二の次老いの恋

タンゴ舞うまっ赤なドレス初舞台

振り向くダンス部見るな石になる

ラストダンスそろそろ終える貴方とは

盆踊りだって立派なダンスです

タンゴからルンバ激しく満ちてくる

大甲川柳会 梶谷 和郎報

海水を舐めてびっくり山の孫

その内が積もり積もって動けない

欲出してあと十年は生きたいな

大輪

リエ

紀子

小雪

佳子

俣子

あきこ

真弓

明

精子

知香

航太郎

あかね

信勝

節子

八茶

敦己

夕胡

寿子

和郎報

菊江

義博

勝弘

はやき合いいつの間にやら支え合い
 そのうちに雨はあがるよ雀たち
 老いの背をしゃんと保っている気骨
 恙なく終えたひと日に感謝して
 名水とラベルを張って金にする
 わたくしはM寸母はスリーエル
 スーパームーン一緒に帰る影法師
 距離置いてあなたと深い仲保つ
 無いようでもまだまだ五欲背負い込む
 若さ保つ特効薬はやはり恋
 永年のおとなり更地むしの声
 母が居て我が家の平和保たれる
 その内にこき使われるA Iに
 母の味キープしているレシビ帳
 ハートなら十七歳のそのまんま
 お早うといつもの笑顔満ちる朝
 水中花歳を聞いても笑うだけ
 九月九日いよいよ古稀の仲間入り
 器に気をつかい形になる水
 車椅子いつもの角で「こんにちは」
 沸騰化水の惑星大ピンチ
 左遷の地そのうちわかる人の味
 病状に合わすお粥の水の量
 マジックが出てからどうも落ちつかん

弘 道子
 和 郎
 美恵子
 健二
 博
 宏
 迪
 紀乃
 廣光
 崇史
 すみ子
 洋次郎
 利子
 ひとみ
 ヨシエ
 武彦
 隆浩
 祐一
 栄
 克美
 次郎
 狸月
 盛夫

いつもの道いつもの場所にあるまさか
 ダイアモンド買って上げると言ったきり
 禁酒指示保つヒントはおまへんか
 確執を水に流して兄見舞う
 寺の鐘聞いてトンボと秋の道
 水になりましたとつても素直です
 A Iが上司になる日その内に
 本音出て言うてしてもたわ汚染水

はびきの市民川柳会(大阪)藤原 太子報
 大仏が平穩願う奈良盆地
 汗だくの僧八分で経を読む
 黒を黒だと言いい切れるのは若さ
 よく見ると黒い穴から仏様
 有罪に裁判長の無表情
 優しいな笑顔の裏に黒い影
 内閣の黒い疑惑に目を向けよ
 黒塗りを当然にした公文書
 黒塗りでないもの出して議論せよ
 黒々と今年の漢字戦です
 黒い雨降った広島忘れ無い
 黒塗りのコピーに慣れてゆく怖さ
 ブラックと闇が背後で口開ける
 早期治療祈って頼む神仏

恭子
 和宏
 義明
 正美
 緑
 恵
 禎之
 敦子
 みつこ
 ちづる
 扶美代
 専平
 ダン吉
 ひとみ
 雄太
 宏造
 一歩
 勝久
 さくら
 憲彦
 冬のト
 フジ

百までは生きていたいと祈ってる
 神様仏様元気でポッキリを
 冤罪晴れてあなたと会える日を
 戦うか祈るか平和まだ遠い
 初詣家族皆んなの無事祈る
 七十余年平和な日本祈る日々
 あの時へのしるべ祈れば花ばかり
 祈るのも極限だらう拉致家族
 やりきった合否聞くまで祈るのみ
 八月は平和を祈る声が満ち
 子は旅路母は祈りの中にいる
 千羽鶴千の祈りをつめてある
 美しい人祈る姿も美しい
 どの子へも母の祈りは隔てなく

長柳会(大阪) 大島ともこ報
 気丈夫な母の最期のひとしずく
 美人じゃないエクボ可愛い僕の妻
 蟬追う子さっぱり見ない夏休み
 理不尽な思いが晴れぬ拉致家族
 使い捨て目立つ悪事の闇バイト
 敗戦国九条抱え進む道
 あやふやな説明ばかり岸田さん
 君とならたとえ日の中水の中

かつ美
 勝弘
 千鶴子
 久仁雄
 一文
 洋一
 瑠美子
 大子
 庸郷
 正義
 理恵
 こみつ
 まつお
 いさお
 ともこ
 由夏
 幸子
 克巳
 光弘
 孝代
 規之
 靖博

バラのブーケ主役に負けぬカスミ草

コーヒーの違いわかればもう大人

子に隠れ母が泣いてる一大事

とれとれの友のトマトに気を貰う

ミサイル落下変える平和のたどる道

猛暑日におせち通販推すラジオ

愛情に触れて涙が堰を切る

のぞみないひかりがあるがどうします

朝市の真っ赤なトマト国訛り

里帰りちやっかり稼ぐお小遣い

橋架かり人情遠のく過疎の島

我が家計庭のトマトに似て赤い

母さんやガスは消したか忘れたか

モチーフはトマト真っ赤な自己主張

少子化の責めを女性に負わせ勝ち

ほたる川柳同好会(大阪)水野 黒兎報

国境に張りめぐらせた拒否の壁

フォワードの壁に突っ込む活きの良さ

キャンパスにして人目引いてるビルの壁

いくつもの壁乗り越えてはや八十路

ご近所はアポ無しだった昭和の世

近いからと二日に一度友とお茶

近くまで行きまた一つ買い忘れ

ふみ

澄子

正美

福子

直樹

おくみ

隆彦

正博

純風

たけし

くにお

孝

佳子

和子

淳司

順子

蟻日路

奈津子

直子

純子

一弥

契子

幸せだスープが冷めぬ距離に孫

近寄って触れて納得する造花

病院にスーパードクター隣組み

リングの唄思わずひやり音はずす

いく度のひやりはつとを経て八十路

運動会ビリは私の指定席

歳の順を無視して呆けは忍び寄り

川柳塔さかい(大阪)

内藤 憲彦報

産んでくれ生れてくれてありがとう

痛いのはどこやと聞かれ財布見せ

頑固な夫最期に言ったありがとう

雨にさえありがとう言う炎天下

独り立ちつい口にするありがとう

早逝の母に捧げるありがとう

愛のないムチは痛みだけ残し

痛み分けてから君と無二の友

徹夜明け空の青さの痛いほど

優しいさは心の痛み知ってから

痛い目にあつた古傷いま宝

あちこちの痛みは生きている証

痛いところ突かれ落ち込む弱い僕

ぎっくり腰まさかまさかのクッシヤミで

篤

宏造

勝弘

正子

黒兎

春代

則彦

萌

五月

ひさ子

禮子

清

里子

里子

里子

里子

里子

里子

里子

里子

里子

里子

里子

駄目押しの残暑でついにダウンする玄也

駄目押しに女ごころは冷めていく(中)佳子

買い物にリストもらつてまた忘れ

阪神が勝てばニュースを梯子する

ゴキブリヘスプレーかけて踏み潰す

指切りが駄目押しだった純な頃

生きるとは頭の痛いことばかり

古い仲間痛い話で盛り上がる

励ましの言葉が痛い負け戦

死ぬ時は麻酔を打って下さいな

オベ痛い主治医に聞けば人による

痛いかと言われますます痛くなる

ふる里へようやく行けるうれしいな

ふざけるな容姿端麗うぬばれ屋

ふたりして寄り添い歩く嬉しい日

不便さが良きアイデアで売れ筋に

不買のチャイナよっしや食べよう雲丹帆立

ふらりふらり酔っちゃいました旨い酒

ふるさとの四方山話憂さ晴れる

川柳塔なら 大久保眞澄報

同窓会来ていた彼女見当たらぬ

スキヤンダル人気出る人消える人

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

行久

エックス線に透けたまさかの腹黒さ
 つらい事消えて思い出みな温い
 消えるほどの声だが今日もまだ元氣
 せっかちで人がよいので愛される
 せっかちな人のよく減る靴の底
 何があつたか釣りを始めた短気者
 待ちぼうけ駅の出口は三つあり
 燭がつく迄の五分が待ち切れぬ
 せっかちとおっとりとした子の育ち
 せっかちな君と喋りに墓参り
 核だけが知るブーチンのせっかち度
 せっかちに始めた戦泥沼に
 ゴシップに詳しい妻の地獄耳
 ゴシップも種がなければ生えて来ず
 ゴシップで上がる売り上げ視聴率
 顔のない敵に晒され脅かされ
 平安のみかどゴシップ読みつがれ
 ゴシップにすぐ入院の金バッジ
 供養ですたまには噂縄のれん
 ゴシップの祖国を去ったお姫さま
 補聴器がゴシップ拾う風の私語
 婦人科へ通えば街に咲く噂
 口と金出さず慎み深い妻
 世の中は口を慎み腹八分

則彦 朝子 優 和夫 則彦 恭昌 勝久 いさお 弘子 良岩 和郎 文聡 すみれ 淳子 朝子 志津子 福治 みつこ 崇明 敬子 寿之 史郎 じゅん子 昭

三日程酒を慎む検査前
 喪が明けるまでは慎むプロポーズ
 温暖化阻止へなんとかしましょうよ
 慎むとあまり楽しくない宴
 十言わず三で慎み熱が出る
 控え目がいいな正論言う時は
 身の丈に合ったゴールへ一歩ずつ
 はんなりの慎み深き作法にも

川柳藤井寺(大阪) 鈴木いさお報

核ボタン楯に戦争が続く
 日本一目差し練習きつくなる
 Jアラートリハーサルかと空ながめ
 3Kの仕事しながら持つ誇り
 きついこと言う人ですが魅力的
 親友のきつい言葉にある温み
 ベッドに入ると父を呼び母を呼び
 近未来青い星から赤い星
 数秒の出番にみつちりの稽古
 きつくと辛いと感じない仕草
 物価高妻の財布が固くなる
 勾配がだんだんきつくなる齢
 万博もカジノもきつくなってきた
 優勝は暗いニュースを吹き飛ばし

栄子 恭正 勝弘 かずお すみ子 すみえ 江里子 ふりこ みつこ かずお 勝久 ちづる 瑠美子 ひろ子 シマ子 比呂志 満作 亜成 志津子 満知子 勝弘 正義

ファンではないが便乗するセール
 万歳は日本一を取つてから
 謝罪会見腰の曲げ方リハーサル
 18年ぶり虎のアレ観て旨い酒
 優勝にバーゲン並ぶお婆ちゃん
 首長くして待つていた浪花つ子

西宮きたぐち(兵庫) 緒方美津子報

妻の手を握つてしまふ悪い酒
 仕掛け火花合間に恋も点火して
 夏が来て核の恐さと語り合い
 自分さえよければいいという心
 AIに騙され出すと切りがない
 寄り添うて互いに杖となる余生
 また来るね言つても母は帰さない
 ダンスするネズミ火花が足元で
 火花見ず横顔ずつと見とれてた
 にぎり飯やはり梅干し母の味
 埋蔵金見つかる地図は二千元
 地球沸騰化人が止めねば誰止める
 探し物毎日あつて今日も暮れ
 善戦も空しく砂を持ち帰る
 毎日が多忙「死の神」追い返す
 毎日の彩り好きな人想う

まつお 一歩 久仁雄 憲彦 さくら いさお 和夫 靖夫 野薫 盛夫 和宏 武彦 宗鉄 英秋 新録 富次 隆一 義幸 邦男 宏 良種 敦子

捨てに行つた猫がとつくに帰つてた
ばつは
帰り道おかず考え溝はまる
みよし

日に一つ小さき笑いがあればマル
緑

八月忌核の恐さが身に沁みる
恵美子

初めての経験みんな歳をとる
ゆきみ

音だけが轟き見えぬ大花火
洋次郎

「どこ行くの」返事いらぬがいつもきく
千賀子

愛おしい今この時が愛おしい
ひとみ

身の程を知らぬ男の大花火
廣光

おかえりの声はずんでるいい日だな
恭子

災害列島水の怖さも身に沁みる
紀乃

式服を脱いで番茶のうまいこと
美津子

川柳ささやま(兵庫) 北澤 稠民報

卒寿すぎまだ淡々と生きられず
(北)哲夫

老いて尚ゆつくりできる野良仕事
稠民

食べ終えて残した姿鰯雲
重男

かあちゃんの雲行怪し早よ寝よう
剛

防災日増えすぎ暦もう足りぬ
(長)哲夫

感謝しておかれた立場で生きていく
美智子

ごめんねと言えた私を誉めてやる
ひとみ

この暑さ免疫つけて冬を待つ
良子

母雲に子雲がひとしと追いかける
すみえ

思い出すやさしい心忘れない
照代
カーテンが元気に動いてくもり
寅之進

川柳塔すみよし(大阪) 田中ゆみ子報

人生の荒波越えていま福寿
満作

原発は津波の国にアンマツチ
篤

えらいこつちや波除だつた妻が近く
宏造

この暑さ寄る年波に迫り来る
萌

脇道にそれた話が生むヒント
ふりこ

いつもいつも脇が甘くてすみません
勝弘

更地になれば介護マンションすぐに建つ
五月

飛び上がる覚悟で食べる時価の寿司
志津子

人間を学ぶ脇道回り道
寿之

全米でブーム起きそう二刀流
いさお

波風を立てぬ工夫のひとつ呼吸
大子

脇見せず自分が決めた道を行く
芳香

八月の海は男だ土用波
ばつは

お母ちゃん今日にはここに波静か
さくら

ありがとう先頭打者のホームラン
憲彦

マスコミの作るブームに踊らされ
直子

脇役も大事な仕事すばらしい
廣子

この指たかれ川柳ブーム作らんか
一步

北の衛星飛び上がるけどすぐ落下
福貴子

汚染水波に消させて知らん顔
里子
脇固め百歳超える母看取る
万紗子

脇甘い突然会社乗っ取られ
舞夢

ブームとは無縁山奥一軒家
克己

鳩尾の波を鎮める酒二合
恵子

ブームには縁無い棚田守る父
ひろ子

荒波に揉まれて人になつていく
ゆみ子

さざ波にゆらり揺られて穏やかに
裕之

飛び上がりやがて落ち込む選挙戦
敏明

脇にいた妻が今では前に居る
満知子

はだしのゲン今静かなるブームくる
まつお

脇道で知る人生の面白み
久仁雄

脇役に主役食われて暮おりる
公誠

パンザイをすれば両脇隙だらけ
比呂志

飛び上がる声にゴキブリ飛び上がる
哲夫

飛び上がった経験がない肝っ玉
理恵

川柳あまがさき(兵庫) 大浦 初音報

月が汗にじませ地球沸騰化
久仁雄

月を見て今は探査機降り立つか
恵子

さえた月うすばんやりも千々の月
れい香

満月の明かりに頼る千鳥足
柳明

月明かり頼りに夜なべしてた父
純

スマホを忘れ心もない待ち合わせ
二人とも人の名が出ず苦笑い
準備出来風呂でやりますビール掛け
ちよつとした仕事ではれる深い仲

命がけでさあ出かけよう炎天下
何のため薬飲むのか知らぬ母

こみつ
宗鉄

パーブルの扉たたたたつき進む
湖の波のリズムはセレナーデ
釈迦・アラ・イエスと波長合いません

紀子
雪代

道頓堀ビラニア泳ぎアレを待つ
毎日をちよつと無理して生きている
素子
英坊
紀恵

夫婦危機したたり落ちる愛と憎
たこやきのソース滴る持ち帰り
記念日に集めた切手今は屑
息子帰しプラザ川柳見て笑顔
値上げする気軽に言うな気が重い
お気軽に旅を楽しみ財布見る
幼子が立つてヨチヨチンバ追う
球児らの汗も涙も吸つた土
気軽には行けずとうとう墓じまい
ビールぼとりばたばたボクを絞つたら
ちよいと惚けで拘り忘れ気も軽い
海に向け処理水流す深い罪

克三
園子
政夫
靖子
悦夫
景子
和代
一彌

ずぶずぶとコンマで区切るタイミング
波にプカリ次を狙っている水母
岸を打つ波に鉛筆がかけ回る
どことどこぞぶくん演歌聞こえる日本
透明な放流水は波のなか
何も無い頃ただ波を見つめてた
防波堤候文が流れ着く
汚染水波の力で円満に

弘充
孝子
久枝
あきら
ゆき子
小鹿
知恵子
美智子
ビル

ひまだからチューでもするかばあさんよ
恋愛が若さを保つ秘薬です
僕にとつて君は薬や若返る
ポイント無いお薬手帳六冊目
当らぬが夢がふくらむ宝くじ
ふくれてる類つべた突いて仲直り
宇宙への夢ふくらます星の里
引力に負けてふくらむ下っ腹
万博もカジノも予算倍になる
したたかな甘え上手も恋の技
したたかに百歳目指す私です
したたかな妻ではあるがちよつと好き
棺桶はお一人様につき一個
白いとこわざと残してある塗り絵

夫婦危機したたり落ちる愛と憎
たこやきのソース滴る持ち帰り
記念日に集めた切手今は屑
息子帰しプラザ川柳見て笑顔
値上げする気軽に言うな気が重い
お気軽に旅を楽しみ財布見る
幼子が立つてヨチヨチンバ追う
球児らの汗も涙も吸つた土
気軽には行けずとうとう墓じまい
ビールぼとりばたばたボクを絞つたら
ちよいと惚けで拘り忘れ気も軽い
海に向け処理水流す深い罪

清乃
弘光
正子
淳司

情報過多どちら信じていいのやら
地球が煮えていきますよこの夏は
禁酒中蔵暮に届く地のお酒
自信ありその一言でぐらぐらに
腹の底我慢の虫を飼っている
堪忍な何でも年のせいにして
年老いてベツト飼うのも命がけ
いまはまだそつとしとこ揺れている
ぐらぐらと景色がまわるメニユール

泰子
やすの
正太郎
笑子
和織
順子
みち
亜成
愛子

洋次郎
修平
勝弘
雪菜
りこ
和夫
宏造
力

川柳塔まつえ吟社(島根)清水美智子報

塩子
德利
とも子
アントン
豊仙

川柳花の輪(大阪)
川本 信子報

信子報

力

情熱の波長が揃う応援歌

豊仙

川柳花の輪(大阪)
川本 信子報

信子報

堪忍と遺影に託る親不孝

信子

パリツアー目立ちたがりの掘る墓穴

伏線を張るそれとなくほのめかす

ルイ子

あかつき川柳会(大阪) 磯島福貴子報

雨蛙から一身上の聞く悩み

高鷺

南海トラフもしやの不安大になる

敏治

伏線を張って成就の謀

壽峰

わての子はええもん食つてヒキガエル

肇

もしかして亡母が来たのか風通る

志津子

いつもとは違う香水つけている

武人

蛙の合唱戦争ヤメロ聞こえたり

一步

軍事費の強化に戦争のもしや

ひろ子

人生で覚悟を決めるときがある

カズユキ

物価高オタマジヤクシに足が出る

壽峰

旅行にはきれいな下着付けて行く

宗鉄

免許返納車手放す覚悟する

勝弘

井の中で蛙と共に喜寿迎え

勝久

処理水は言葉変えても汚染水

則夫

覚悟かくご何度しただろ生きたため

美砂子

蛙飛び学び行きたい亡夫の星

緑

平和宣言むなし響く原爆忌

まさあき

新たな覚悟踏まえて聞く道

高鷺

ふるさとの味思ひ出す物産展

穴道

品揃えストもあります百貨店

川信子

あの人の駅になろうと覚悟する

郁夫

還暦は若い発展途上人

克己

品揃えストもあります百貨店

溪節

風の時代ありのまま行く我を行く

かこ

平和への展望持たぬ抑止論

雅游

聞くだけやなくてほんまに聴いてんか

遊

怪談は怖いが燃える好奇心

朝子

途上国の発展森が瘦せていく

九条男

パピリオン青テントでも張りますか

眞澄

蠟燭の揺らぎお化けを喋る髭

欣之

美術展ここで私は戦おう

ゆうこ

福島の魚を食つてしたり顔

博美

怪談を楽しみに来た紙芝居

博泉

発展を止めなきや地球やばくなる

栄子

エッフェルはコメント差し控えます

蒼水

幽霊も冷ピタを貼る熱帯夜

常男

原爆展地球の様を見せつける

郁夫

ハネムーンの地連る二人はフルムーン

福貴子

「いちいまいにまあい」お皿はゆつくり数えない

千賀

九条の国で兵器の展示会

鈍甲

就活で下駄を履かせてくれた師よ

順子

幽霊が酔つてくだ巻く盆祭り

秀雄

二科展の入選夢見てた若さ

いさお

裏口に借金取りが立っている

高志

生ぬるい雨に打たれて六条御息所

弘子

茅葺きの里原風景に出逢う旅

浩子

札束を積んで裏口こじ開ける

仁

怪談より怖い話のあるこの世

かずお

旅先から携帯さんがよく喋る

ダン吉

付度へ裏口の門開かれる

賢子

梅花藻と添い寝で水に浸かりたい

鈍甲

小さな秋見つけた旅はふるさとへ

ばつは

天国は裏口無くて地獄行き

篤

ひまわりもうつむきかげん見舞状

かすみ

弥陀の手をぼろりと落ちて旅終る

楓楽

神様は不在裏口開いている

博

会いたいな盆には帰るあの人に

千鶴子

神様の手をぼろりと落ちて旅終る

楓楽

神様は不在裏口開いている

博

過ぎ込む命の果てに得た平和

正靖

放っておけ夫婦喧嘩はすぐ終わる

母とまた違う生き方黒日傘

平和への礎たらん百日紅

バックムーン私一人の願い事

生涯青春そんな気持ちで生きてます

目標が決まり大きくなる歩幅

散る花のひとつとひら毎にあるドラマ

大山滝句座(鳥取)

新家 完司報

無人駅永久なのか無人駅

老いた今カロリー何て気にしない

各駅停車これも楽しい国訛

キミはいつも変化球で攻めてくる

高カロリーの人の隣で熱に酔う

パンクシーここにも描いて過疎の村

飛び散ったお醤油の描く大花火

駅で逢い駅で別れた遠い恋

「あるある」とシルバーの句を見て笑う

二十年壁にかかった絵の埃

海開きにぎやかだった八橋駅

駅留めの母の荷物はいつも匂

カロリーのないミサイルがすぐ落ちる

特急の通過駅にも花飾り

彰一

信子

祥昭

后子

一步

和織

いさお

どんくさい私を誰も怒らない

駅前が寂れて猫の子もいない

トンネルを抜けたら僕の駅がある

謝っているのに声は怒ってる

閉めないとぶーぶー怒る冷蔵庫

政治家は視察まずに大臣に

写真より絵画の方に味がある

台風を天の怒りと言うらしい

銭湯の壁には富士のきれいな絵

電が降り飛び込みました道の駅

無人駅花に座布団お出迎え

自画像がチンパンジーになってきた

豊中もくせい川柳会(大阪)初代 正彦報

カーテン越し微かに匂う秋の風

妻の留守はつと気がつく独り言

大戦が微熱のように来る気配

タイガース今年はアレやそらそうよ

不安なら回れ右する道を行く

若さ保つサプリを飲むが年はとる

国債にサラ金地獄垣間見て

微熱でも本気の心老いの恋

何事も想定外で事が済む

余光

石花菜

芳光

紀の治

みちを

ゆたか

富隆

小鹿

清明

重忠

規雄

完司

廃屋で矜持を保つ鬼瓦

清麗に生きた孤影を抱きしめる

思い出の涙は涸れぬいつまでも

一步引くコツを覚えて世を渡る

挙式での妻の涙は語り草

ぼろぼろがやがて線状降水帯

飲むほどに次次泛ぶ愚知の山

カネかけて保つ若さよあだ花よ

スマホ見ぬ車内俺だけ浮いている

脳トレに秋の七草言ってみる

ほどほどの距離を保ってまだ夫婦

ほんとうはドキドキですが澄ましてる

ボロボロのパンツが似合うのも若さ

潤いを保ったままのいい最期

熱上げて微熱で終る趣味数多

断捨離した広い部屋では眠れない

秋の子が動き始めた青い空

やるのがたとえあり過ぎ先ず昼寝

蹟くし滑るし物騒な家だ

ぼろぼろと愚痴がこぼれる苦い酒

想い出はいつも微熱で薄味で

戦争の起承転結みな悲劇

戦いを終えて安らぐ棺の中

もう僕じゃ止められないよその涙

北舟

ヨシエ

憲央

野鶴

義明

肇

正彦

英旺

満作

(若)玲子

いさお

勝弘

一步

則彦

武人

美津子

千鶴子

(初)正彦

眞澄

和織

洋志

黒兎

廣光

ひとみ

第42回 鳥取県 没句川柳供養 誌上大会

課題と選者 各題2句

「ゲ一ム」 山下 凱柳 選
「秋」 紫 しめの 選
「白い」 鈴木 かこ 選
「欠片」 北川 拓治 選
「昔話」 平井美智子 選
「洋食」 新家 完司 選
「敗者復活吟」 小島 蘭幸 選

(復活吟=この一年で没になった川柳二句)

投句バ切 11月30日(木) 当日消印有効

投句料 1000円(現金・定額小為替・切手可)

賞 各題・天位賞 他

投句先 〒689-0202

鳥取市美萩野2丁目171-3

中村金祥 宛

TEL(0857-59-1056)

主催 川柳ふうもん吟社

名古屋川柳社 設立90周年記念誌上大会

兼題と選者 (各題2句・表現自由)

「先」 柴田 比呂志 選
「路」 八甲田さゆり 選
「楽」 大島 風子 選
「甘」 大嶋 都嗣子 選
「寿」 新家 完司 選
「豊」 原 雄一郎 謝選

投句締切 11月10日(金) 必着

投句料 1000円(切手不可) 発表誌呈

投句用紙 指定用紙(コピー可・便箋等不可)

賞 秀吟(天)に記念賞

投句先 〒454-0857

名古屋市中川区明德町3丁目13

アメニティ明德303 原雄一郎 宛

問合せ先 TEL 052-651-5379 原雄一郎

主催 名古屋川柳社

第14回 高田寄生木賞

川柳に関する論文・エッセイ

(評論、作家論、川柳の方向性やあり方、川柳と社会や個人との関わり等)

野沢省悟

選考 2024年2月末日

応募費 無料

応募規定 未発表に限る。4,000字以内

(PCかワープロ使用、縦書き、1行20字で)

〒038-0004

青森市富田2丁目7-43 野沢省悟

賞 〇高田寄生木賞 1名

賞金3万円、高田寄生木句集、野沢省悟評論集、発表誌

5冊贈呈

〇入選賞 若干名

発表誌に掲載、高田寄生木句集、野沢省悟評論集、発表

誌2冊贈呈

「触光」82号(2024年6月)

※発表誌希望者は事前に申し込んで下さい。(現金か振込)

現在、川柳界では多数の作品賞はあるが、論文や文章の賞

はほとんどみられない。このままだと量的に作品は増えて

も、その作品の検証や作家の論評がなされなければ、文芸

として質的に低下するのではないかと思った。ささやかな

一灯ではあるが、皆様のご協力を乞うものである。

・上記主旨のため当賞の基金を募集いたします。

(1口1,000円)

・発表誌希望者、基金は左記の口座に振り込んでいただけ

れば幸いです。

(川柳触光舎 02240-8182005)

柳界展望

特選

藤井 智史

あえいうえおあお あ

なたが大好きだ

★おりひめ☆ひこぼし川

柳会第三回誌上大会。参

加者458名。同人・誌

友成績。

天位

森山 盛桜

一瞬を飛ぶ蜉蝣が凄ま

じい

天位

中嶋 常葉

カリスマの仮面をそつ

と置きました

▽訂正とお詫び△

○九月号P78中段後ろか

ら3句目、ポルシュ。↓ポ

ルシエ。

○十月号P73中段3行

目、母の日に比べて認知

症の↓母の日に比べて認

知度の。P73中段後ろか

ら2行目、向日葵と書いて

「ヘイワ」ルビを振る

↓向日葵と書いて「ヘイ

ワ」とルビを振る。

▽新誌友紹介△

松原市

吉野 真一

紹介者

高杉 力

大阪市

靄田 寿子

紹介者

出口セツ子

尼崎市

立蔵 信子

紹介者

植野 恒子

大阪市

平井美智子

紹介者

見山由美子

山梨県

平井美智子

紹介者

鮎川 弘子

防府市

平井美智子

紹介者

米山 順子

尼崎市

中前 幸子

紹介者

中井 楓華

京都市

藤井 宏造

黒澤 良一

▽川柳塔誌電子化事業△

10月9日、川柳塔社「麻

生路郎読本」、橘高薫風

「橘高薫風川柳句集」、栗

原道夫編「改訂・増補「橘

高薫風川柳句集」全句索

引」、小西雄々「松露」、プされた。

小林由多香「いさり火」、▽常任理事会△

坂本仙吉郎「ふたり旅」、次回常任理事会11月7日

両川洋々「枕木の詩」、(木) AM10

米澤俣子「花の下」がアツ

第十三回 春の川柳塔まつり誌上大会募集

川柳塔社では、日頃句会などにお出掛けになれない方々を含め、結社を越えて広く川柳をお楽しみいただく機会として、第十二回誌上大会を企画いたしました。参加要領は左記のとおりです。是非皆様のご参加をお待ち申し上げます。

川柳塔社

課題と選者 (各題2句 共選)

課題吟

「紙」 青砥 たかこ (鈴鹿川柳会)

「誘う」 島田 駱舟 (印象吟句会「銀河」)

自由吟 斉尾 くにこ (川柳塔社)

「西」 小島 蘭幸 (番傘川柳本社)

投句要領

投句料

投句締切

送付先

賞及び発表

※

規定の用紙(コピー可)または、用紙の入手できない場合は便箋などご使用いただいても結構です。一〇〇〇円(切手は不可)

令和六年二月二十日(火) 消印有効

全日本川柳誌上大会のご案内

(令和柳多留第5集通巻26号)

日本の全柳人が、だれでも、どこからでも参加できる「全日本川柳誌上大会」(令和柳多留第5集通巻26号)を開催します。日川協年次大会・国民文化祭文芸大会と並ぶ(一社)全日本川柳協会の権威ある三大自然行事ですので、こぞってご参加ください。

一般社団法人 全日本川柳協会
理 事 長 小 島 蘭 幸

課題と共選者(各題2句・連記)

「熱心」佐藤 芳行(北海道)	——	川上 大輪(和歌山)共選
「ケア」大野 征子(東京)	——	赤池 加久(石川)共選
「窓」三浦 蒼鬼(青森)	——	安部 美葉(兵庫)共選
「洗う」原名 幸雄(群馬)	——	井上 万歩(長崎)共選
「カード」金子美知子(神奈川)	——	大西 将文(奈良)共選

第2次選者

江畑 哲男(千葉)、鈴木 公弘(鳥取)、熊谷 岳朗(岩手)
長島 敏子(兵庫)、古谷龍太郎(福岡)

参加費 2,000円(投句料・『令和柳多留第5集通巻26号』代金含む)

賞 令和柳多留賞・川柳大賞・NHK会長賞
日本青少年育成協会会長賞・全日本川柳協会賞
全日本川柳誌上大会賞(予定)

締 切 令和6年1月31日(水)〈当日消印有効〉

参加方法 参加用紙に記入し、参加費2,000円(振替又は小為替)とともに、下記へご送付ください。

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-11-905

一般社団法人 全日本川柳協会

電話 (06) 6352-2210

FAX (06) 6352-2433

振替口座 00970-9-3575

句会名	日時と題	会場と投句先
川 柳 あまがさき	14日(火) 14時締切 きる・ムード・たまに・自由吟	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
岸和田 川柳会	18日(土) 14時締切 癖・余る・いそいそ・ドラマ	会場 岸和田市立福祉総合センター 南海電鉄岸和田駅東へ徒歩5分 〒596-0076 岸和田市野田町2-18-27 雪本珠子
川 柳 たちばな	18日(土) 13時45分締切 席題・隣・短い・自由句	会場 東園田町総合会館 2F 阪急園田駅北口徒歩2分 〒661-0953 尼崎市東園田町3-49-5 藤井宏造
川 柳 塔 みちのく	18日(土) 17時締切 安心・旅・のんびり	会場 - 未定 〒036-8275 弘前市城西1-3-10 川柳塔みちのく事務局 稲見則彦 宛 TEL0172-36-8605
川 柳 藤井寺	19日(日) 14時締切 保険・どっこい	会場 パープルホール 4F 〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-303 鈴木いさお
南大阪 川柳会	20日(月) 18時40分締切 青・飽きる・すごすご・雑詠	会場 大阪市立住まい情報センター 5F 研修室 メトロ谷町線・堺筋線「天神橋6丁目」駅③号出口 〒569-1116 高槻市白梅町5-15-1008 松岡 篤
豊中 もくせい 川柳会	20日(月) 14時締切 出口・荒れる・どっち・自由吟	会場 豊中市立地域共生センター 桜塚会館2階 阪急宝塚線「岡町」駅 徒歩5分 〒569-0073 高槻市上本町5-26 初代正彦
川 柳 さんだ	21日(火) 13時30分締切 会釈・短い・アレレギー 騒ぐ・自由吟	会場 キッピーモール 6F (JR三田駅前) 投句先 〒669-1322 三田市すずかけ台3-4-1 E棟804 村田 博
川 柳 塔 すみよし	24日(金) 14時締切 幕・弾む・ファイト	会場 住吉区民ホール集会室4 (図書館棟2F) 〒580-0026 松原市天美我堂3-130-2-404 森松まつお
和歌山 三幸 川柳会	25日(土) 13時15分締切 文化・音・平和	和歌山商工会議所 4階 〒640-8570 ニュース和歌山編集部 「和歌山三幸川柳会」宛
はびきの 市 民 会 川 柳 会	26日(日) 14時締切 茶・笑う・カーテン・席題	会場 陵南の森公民館 近鉄南大阪線「高鷲」駅下車 北へ徒歩10分 〒583-0864 羽曳野市羽曳が丘1-11-8 徳山みつこ
川 柳 ふうもん 社	26日(日) 13時から 自由吟・回収・掃除・弱虫 席題	会場 県民ふれあい会館 4F 鳥取市扇町2 1 〒689-0202 鳥取市美萩野2-171-3 中村金祥
川 柳 塔 な ら	休 会	25周年記念紙上大会 10月末日締め切りました

★日時・会場などが変更になる場合は、本社事務所（06-6779-3490）へご連絡ください。

★上記は年初の予定。諸般の事情のため、詳細は各柳社にお問い合わせください。

11月各地句会案内

(開催日順)

句会名	日時と題	会場と投句先
城北 川柳会	4日(土) 開場13時 締切14時 舞う・うすうす・利口・自由吟	会場 旭区老人福祉センター 3F メトロ谷町線「千林大宮」駅③番出口を左後側 投句先 〒536-0001 大阪市城東区古市1-8-14 江島谷勝弘
川柳 とんだばやし 富柳会	4日(土) 風船・らくらく・自由吟・席題	会場 富田林市立中央公民館 近鉄南大阪線「富田林」駅南口から西へ200m 〒584-0066 富田林市錦織北1-14-6 中村 恵
倉吉 川柳会	4日(土) 14時締切 青春・音・すっぴん・席題	会場 倉吉市明倫公民館 投句先 〒682-0722 東伯郡湯梨浜町はわい長瀬1028-1 天野道春
川柳 まつえ社 吟	4日(土) 13時40分締切 新聞・力・加速・ポイント	会場 雑貨公民館 〒690-0012 松江市古志原7-19-19 中筋弘充
おりひめ☆ ひこぼし 川柳会	7日(火)消印有効 くつした・福引き・あつという間	投句先 〒573-0095 枚方市翠香園町2-7 『おりひめ☆ひこぼし川柳会』 藤田武人
あかつき 川柳会	10日(金) 極・待機・いたしかゆし 時事吟	会場 大阪保育運動センター(新谷町第1ビル2F203会議室) メトロ「谷町六丁目」駅③番出口南へ3分(道路向い側へ) 〒543-0013 大阪市天王寺区3-6 木村ビル2階 あかつき川柳会
川柳 ねやがわ	10日(金) 投句締切 誌上大会 魔(共撰) 顎(共撰)・レール・ズタズタ	投句先 〒572-0840 寝屋川市太秦桜ヶ丘7-17 廣田和織
六甲 川柳会	11日(土) 14時締切 席題・リスト・やっぱり 重ねる・自由吟	会場 灘区民センター 5階 E室 JR「六甲道」駅南隣 メイン六甲内 〒658-0083 神戸市東灘区魚崎中町2-12-5 敏森廣光
川柳 塔打 吹	11日(土) 13時30分締切 首・囲む・ごそごそ・席題	会場 倉吉市上瀬町9 上瀬コミュニティセンター 〒682-0034 倉吉市大原637-3 牧野芳光 方 川柳塔打吹 事務局
川柳 わかやま 吟社	12日(日) 14時10分締切 兼題=快速・届く・タイミング 課題吟=斜	会場 和歌山県JAビル11階 兼題 〒642-0024 海南市阪井652-14 小谷小雪 課題吟 〒592-8349 堺市西区浜寺諏訪森町東2-208-5 楽原道夫
西宮北口 川柳会	13日(月) 13時30分締切 席題・家族・磨く・ヤバイ 自由吟	会場 西宮市立中央公民館 6F 講堂 阪急「西宮北口」駅南出口徒歩3分「ブレラにのみや」 〒663-8112 西宮市甲子園口北町27-4-602 梅澤盛夫
ほたる 川柳 同好会	14日(火) 13時30分締切 駅・考える・どさくさ	会場 豊中市立蛭池公民館 阪急・モノレール蛭池 蛭池駅前ビル 5F 〒561-0813 豊中市小曾根2-4-1 水野黒鬼
川柳 さかい	14日(火) 14時締切 ワイン・惜しむ 折句:か・え・で	会場 東洋ビル2F (堺東駅北西改札口から2分) 欠席投句先 〒599-8122 堺市東区丈六77-4 齋藤さくら

編
集
後
記

★6月12日に、藤山直美主演「泣いたらあかん」(新歌舞伎座)を観て以来、ようやく劇場に行くことが出来た。3箇所も劇場に行かなかったのは30数年ぶりか。

★9月23日、柳家喬太郎
独演会・昼の部13時30分
開演・チケット完売（天
満橋・ドーンセンター）。
喬太郎は人間国宝だった
柳家小さんの弟子・さん
喬の筆頭弟子。

★「転宅」。20分のマクラを含めて50分。泥棒を騙す妾が色っぽい。曲独楽の三増紋之助。25分の熱演。大独楽を棒の先で操りながら客席を一周するなどサービスピリット旺盛。仲入り(休憩)の後、「まんじゅうこわい」の改作「残酷なまんじゅうこわい」。蛙・蜘蛛・馬・蟻。

蛇をこわがる男が次々とシヨックで死んでしまふ。まんじゅうを喉に詰めて気絶していた男が息を吹き返すと、皆が死んでいることに気づく。まんじゅうがこわい男はどんなだったか？ 終演15時35分。

(道夫)

（道夫）

♡今年の川柳塔まつりのおはなしは、大学で栄養学を教えている私の長女婿だった。9月号でここに書いた強度の片頭痛を持つ孫の父親である。

♡川柳は全く知らないが川柳の会に招かれたからにはと、にわか川柳人になって句も作り出席したらしい。句会の張り詰めた空気感。詠まれる句の言葉の文学と芸術性に感動したそうである。

♡そして懇親宴の盛り上がり
の驚き！高齡の男女
が金屏風舞台に溢れんが
ばかりに肩を組んで歌う

ひとこと

少し真面目に思うこと

私はあまり熱心な川柳の作り手ではないが、時に川柳とはなんだろう、と考える。明確な答えはまだ出ていないが、俳句や短歌と較べると、我々が乗り越えねばならない伝統的な川柳の文学的達成の形が見えないように思う。短歌における定家、俳句における芭蕉のような存在がいらない気がするのである。もちろん、近現代に視野を

広げれば、麻生路郎や橘高薫風のような巨大な存在はある。が、独立峰のように聳えていて、そこに連なる伝統の山脈が見えない気がするのである。もちろんこれは川柳の歴史をよく知らない浅学の感想だ。が、浅学なりにまずは薫風さんや泰世さん、八木千代さんを目標として句を作りたいと思う。できる気は全然しないのだけれど。

(石橋 優明)

(石橋 優明)

『六甲おろし』会場を所狭しと『高原列車は行く』の歌に合わせて人がごんどん連なり走る。皆、満面の笑み。宴の終わりに皆で手を繋ぎ一円となって『星影のワルツ』を合唱する場面はまさに会場が良き昭和！涙が出そうになったらしい。

♡彼はきつと学生たちはこの感動を伝えるに違いない。(じゅん子)

花坊がいる。明治後期に新聞「日本」紙上において、川柳の再興をすすめて、川柳の再興をすすめて取り組む。川柳作家となつてからは、喧嘩早い性格を自覚して剣花坊(＝喧嘩坊)を名乗つたらしい。私が凄いなあと思う句は「創世記大きな嘘で幕が開き」「飢えたらば盗めと神よなげ言わぬ」など(『近・現代川柳アンソロジー』)。欧

こへ疑問を突きつけており神様へも物申す。田辺聖子さんが熱血漢と呼んだ剣花坊。調べてみると、毛利家の世臣を父とし、吉田松陰、高杉晋作は親戚で、その人たちの主義・性向に教化、陶冶されたとのこと(林えり子著『川柳人川上三太郎』)。剣豪武蔵の吉川英治や「一匹オオカミ」の川上三太郎も門下生で、

(じゅん子)

◆久良岐と並び称される 米文化の背後には旧約聖 後に鶴彬を庇護したのも
川柳中興の祖に井上剣 書的な世界観がある。そ 分かる気がした。(国和)

川柳塔(同人)・水煙抄(誌友)投句用紙

種目「

「発表(1月号)」

地名

市都
道府
県
姓
雅
号

きりとらせん

◎8句を楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

同人・誌友 マルで囲んでください。

投句先 〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

「川柳塔」への投句について

- (1) 川柳塔欄への投句は同人、水煙抄欄へは誌友（誌代半年分以上前納の定期購読者）に限り、本誌綴込みの投句用紙を使用してください。
- (2) 愛染帖・檸檬抄・一路集・インスピレーション・ナビ（印象吟）への投句は、同人・誌友に限ります。初歩教室は誌友のみとします。愛染帖・一路集・初歩教室は川柳塔柳箋（本社事務所取り扱い）、檸檬抄は本紙綴込みの投句用紙を使用してください。
- (3) 各欄への投句は、必ず氏名と住所（県・市名）を明記してください。
- (4) 各欄への投句数および投句締切期日の厳守をお願いします。ファックスでの投句は御遠慮下さい。

川柳塔本社事務所へのご連絡は、土・日曜、祝日を除く平日の10時から14時までにお願いたします。

檸檬抄投句用紙

「半端」(11月15日締切)

1月号発表

川本真理子 選 — 共選 — 鈴木いさお 選

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

B A

--	--

地名

市都
道府
姓雅号

切らないで下さい

きりとりせん

◎楷書で正確に書き、15日までに到着するようお送りください。

左右に同じ句を書いて下さい

個人用

年賀広告 原稿台紙

料金は払い込み用紙をご利用下さい。

1/9頁 1/6頁 1/3頁 2/3頁 1/2頁 1頁

(ご希望の大きさを○で囲んでください。)

原稿を貼布される方は、
この位置に貼り付けて下さい

締切 11 月 15 日 (水)

電 話	住 所	姓・雅号
()	〒	
()		

川柳など掲載希望事項

送付先

〒543-0052 大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201

川柳塔社

川柳塔誌新規購読申込書

きりとりせん

年 月 日

氏名	住所	電話	紹介者	<input type="radio"/> <input type="radio"/>
	〒			年
	月から半年 月から一年 9800円			

該当の方に○をつけて下さい

〒543-0052

大阪市天王寺区大道1丁目14番17号 花野ビル201
川柳塔社（電話 06-6779-3490）

振替 00980-4-298479

◎この用紙は新規購読申し込みのみにご使用下さい

作品募集

1月号発表 (11月15日締切)

川柳塔 (8句) 小島蘭幸選
水煙抄 (8句) 川上大輪選
愛染帖 (2句) 新家完司選
檸檬抄 (半端) (2句) 鈴木いさお共選
インスレーション・ナビ (2句) 川本真理子選
一路集 (2句) 「影」 栗田忠士選
「いよいよ」 坂本加代選
初歩教室 「屋根」 (3句) 平井美智子担当
初歩教室 「屋根」 は2月号発表

2月号
檸檬抄 「のほほん」
一路集 「尖る」「鎖」
初歩教室 「必ず」

本社 11 月 句 会

とき 11月7日(火) 13時開場・13時40分締切
ところ アウィーナ大阪 3階 葛城の間
おはなし 「選考」
兼題 「あなどる」「ガチャン」「華やか」「家族」「自由吟」
会費 1000円
投句料 1000円 (切手不可)
木本朱夏氏
居谷真理子選
敏森廣光選
村田博選
矢倉五選
新倉月選
小島蘭幸選
(各題2句以内)

本社 12月 句 会
7日(木) 午後1時から
兼題 「笑う」「まぶしい」「妥協」
「宝の持ち腐れ」「自由吟」

★ 同人特集 ★

「私 の 一 句」

- 今年中に発表された句に限ります。
- 締切 11月15日 (本社事務所宛)

定価 八百円 (送料100円)
半半分 五千円 (送料共)
一年分 九千八百円 (同)
二〇一三年(令和五年)十一月一日発行

発行人 小島和幸
編集人 栗原道夫
印刷所 美研アート
〒543-0052 大阪市天王寺区大道一丁目一七
花野ビル201号室
発行所 川柳塔社
電話 (06) 6779-1349 ○番
振替 〇〇九八〇一四一五八四七九番

川柳・俳句・エッセイ・小説
新聞・広告・ポスター・伝票等

あなたの思いをかたちにします。



美 研 アート

〒531-0061 大阪市北区長柄西1-1-10
TEL (06) 4800-3018
FAX (06) 4800-3028
Eメール bikenart@ea.mbn.or.jp
ホームページ <https://www.bikenart.com>

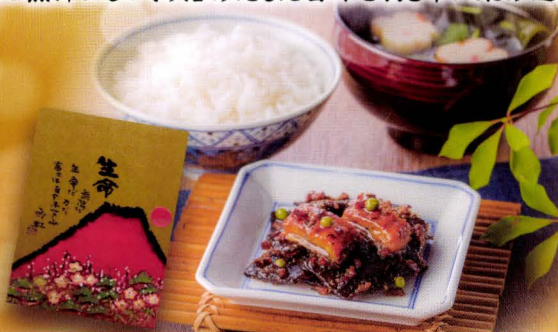
川柳塔のホームページアドレス <https://senryutou.net>

箸がとまらん 極うま塩昆布

「直火仕込み製法」により炊き上げた濃厚な旨さ

職人の技術で、超とろ火の火加減により、

秘伝の煮汁にじっくり溶けだした旨味を、昆布に染み込ませています。



お友達LINE
QRコード

舞昆のお友達に
なって下さい。

舞昆のこうはら

商品のお問い合わせはこちらまで（ご試食承ります）

フリーダイヤル 0120(11)5283

橋詰農園の味好みかん

～家族で作り上げるこだわりの味～



健康なみかんの木から採れる絶品

余韻に浸れるほどの「コク」をお楽しみ下さい

〒649-0141 和歌山県海南市下津町小南 349

TEL & FAX 073-492-1692

E-mail beetrus@nifty.com

<http://www.hashizume-nouen.com>

